

2018年度 文学部便覧

明治大学

文学部便覧

2018年度

MEIJI UNIVERSITY
明治大学

学部便覧の使い方

この便覧は卒業まで使用するものです。
大事に取り扱い，紛失等しないよう十分注意してください。

- 便覧に書かれている内容は，原則として入学から卒業まで，休学や原級をしても適用されますので，必要なときは調べられるように，大切に保管してください。
- 前半は学部独自の項目，後半は全学共通の項目が記載されています。全学共通項目には，文学部に限らず他の学部に関する記述も含まれていますので，よく読んで必要な項目を理解してください。

2018年度
文学部便覧

学部事項

I 学部の概要

- 1. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、
教育課程編成・実施の方針
（カリキュラム・ポリシー）…………… 7
- 2. 沿革…………… 9
- 3. 文学部の構成……………14

II 履修

- 1. 修学指導……………15
- 2. 授業科目……………15
- 3. 履修方法……………16
- 4. 卒業に必要な単位……………17
- 5. 履修科目……………20

III 試験, 成績

- 1. 試験……………28
- 2. 学業成績……………31

IV 科目配当表及び履修上の留意点

- 1. 必修科目について……………37
 - 日本文学専攻……………37
 - 英米文学専攻……………40
 - ドイツ文学専攻……………46
 - フランス文学専攻……………52
 - 演劇学専攻……………58
 - 文芸メディア専攻……………61
 - 日本史学専攻……………64
 - アジア史専攻……………67
 - 西洋史学専攻……………71
 - 考古学専攻……………74
 - 地理学専攻……………78
 - 臨床心理学専攻……………83
 - 現代社会学専攻……………85
 - 哲学専攻……………87
- 2. 選択科目について……………95

全学共通事項

I 学籍

- 1. 学生証……………共通事項— 5
 - (1) 学生証の利用……………共通事項— 5
 - (2) 学生証についての注意事項

- ……………共通事項— 5
- (3) 学生証記載事項……………共通事項— 6
- (4) 「学生証有効期限・通学区間」
証明シール……………共通事項— 6
- (5) 仮学生証……………共通事項— 7

- 2. 個人認証用パスワード……………共通事項—8
- 3. 学生番号……………共通事項—10
- 4. 学籍上の氏名……………共通事項—11
- 5. 学籍異動……………共通事項—12

II 履修

- 1. 学年と学期……………共通事項—17
- 2. 単位制……………共通事項—17
- 3. 修学指導……………共通事項—18
- 4. 授業……………共通事項—18
- 5. 資格課程……………共通事項—21
- 6. 定期試験……………共通事項—24

III 事務取扱業務

- 1. 学部窓口……………共通事項—27
- 2. 掲示板案内……………共通事項—28
- 3. その他の取扱部署……………共通事項—28
- 4. 主な問合せ先……………共通事項—36
- 5. 証明書の発行……………共通事項—39

IV 各種制度・案内

- 1. 留学……………共通事項—43
- 2. キャンパスライフ……………共通事項—44
- 3. 就職キャリア……………共通事項—46

- 4. インターンシップ……………共通事項—49

V 情報サービス

- 1. Oh-o! Meiji システム ……共通事項—55
- 2. サポートデスク……………共通事項—57
- 3. 電子メール, メディア教室・自習室
の利用等……………共通事項—57

MIND 利用上の遵守事項ガイドライン

- ……………共通事項—58

VI 施設の活用

- 1. 図書館……………共通事項—65
- 2. メディアライブラリー……………共通事項—67
- 3. 国家試験指導センター……………共通事項—67
- 4. 学習支援室……………共通事項—69
- 5. メディア自習室……………共通事項—69

VII 緊急時対応

- 1. 交通機関がストライキを行い、
電車の運行を停止した場合の授業に
ついて……………共通事項—73
- 2. 大規模地震等災害発生時の
対応について……………共通事項—73

参考資料

- 1. 明治大学の「建学の精神」と「使命」
……………共通事項—79
- 2. 大学の沿革……………共通事項—80
- 3. 校歌……………共通事項—84
- 4. 各種規程……………共通事項—85
- 5. 学費等一覧……………共通事項—98
- 6. 明治大学の環境保全活動への取組み
……………共通事項—100
- 7. キャンパス案内……………共通事項—102

2018年度時間割

(1) 授業時間割（全キャンパス共通）

時限	時間帯	モジュール	時間帯	備考
Mm（モーニングモジュール）			8：00～ 8：50	原則として、学期を通しての授業は実施しない
1時限	9：00～10：40	a	9：00～ 9：50	
		b	9：50～10：40	
2時限	10：50～12：30	a	10：50～11：40	
		b	11：40～12：30	
Lm（ランチモジュール）			12：35～13：25	原則として、前後各5分と合わせて1時間の昼休みとする
3時限	13：30～15：10	a	13：30～14：20	
		b	14：20～15：10	
4時限	15：20～17：00	a	15：20～16：10	
		b	16：10～17：00	
5時限	17：10～18：50	a	17：10～18：00	
		b	18：00～18：50	
6時限	19：00～20：40	a	19：00～19：50	
		b	19：50～20：40	
Nm（ナイトモジュール）			20：50～21：40	原則として、学部では、学期を通しての授業は実施しない

(2) 定期試験時間割（全キャンパス共通）

時限	時間帯	備考
1時限	9：30～10：30	
2時限	11：00～12：00	
3時限	13：30～14：30	
4時限	15：00～16：00	
5時限	16：30～17：30	
6時限	18：00～19：00	
7時限	19：30～20：30	一部の学部でのみ使用

※ 時間割は、在学中に変更になることもありますので、注意してください。

MEIJI UNIVERSITY

2018年度便覧

学部事項

1. 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー), 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

① 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

【目指すべき人材像】

文学部が掲げる教育理念は、「十分な専門知識を身につけた幅広い教養人の育成」です。このことは、いいかえれば、確固とした専門知識の習得を不可欠の前提としながらも、その専門分野のみに偏ることのない広い視野に立ち、公正かつ的確な判断を下すことのできる人材の育成と言えます。人間の総合的探求を目指す文学部の各学科は、それぞれ「人間の生き方」、「人間社会の成り立ち」、「人間の心と社会の問題」を中心課題に据えながらも、人間の「知性」と「感性」と「実践」の相関を究明し、それらを自らの言葉で発信していく力を養うことを通じて、新しい時代に対応できる創造的かつ人間性豊かな教養人の育成を目標とします。

【そのための具体的到達目標】

本学学則に定める期間在学し、最終学年には集大成となる卒業論文を完成することが求められます。提出された論文は口頭試問を課し、厳格な審査が行なわれます。これを含めた128単位の基準を満たした者に、「学士」(文学)を授与します。

学生には教育課程を修了するにあたり、次のような具体的な到達目標を達成することを求めます。

- ・文学部の学習で培った十分な専門性と幅広い教養を理解し、社会の課題を自ら調べ上げ、論理的に説明することができる。
- ・世界での活躍を視野に、人間理解や異文化理解を深め、外国語で多様な価値観を分かりやすく表現する能力を涵養する。
- ・人間学を学び、個を磨くことから、他者を尊重しながら自らの考えを冷静に主張し、協調して物事に取り組むことができる。
- ・生涯にわたって出会う人々や社会と向きあう中で、相互に学び合い、社会全体を高める知力を体得する。

また、各学科では次のとおり具体的な到達目標を達成することを求めます。

文学科は、文学・思想・芸術・メディアなどにおける諸事象を論理的に分析し、その本質を客観的に判断できる能力、また自らの思考をメッセージとして発信できる力を涵養することを到達目標とします。

史学地理学科では、史料・外国語文献の読解・分析能力、現地調査・遺跡調査等の能力を獲得し、自然や人間世界を歴史的・地理的に認識し、多角的に思考し、豊かな国際感覚をもって、積極的に行動できることを到達目標とします。

心理社会学科では、「生きやすい社会」のあり方を求めて、共生する社会を模索しつつ、「心」を個人の内面的問題としてだけでなく、「社会」とのかかわりを考慮に入れなが

ら検討し、新しい時代に対応して徹底的に思考を展開できる人材を育成することを到達目標とします。

② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の理念】

文学部は「人間とは何か」という問題に多角的に取り組み、十分な専門知識と幅広い教養を身につけるため、「教養科目」と「専門科目」によるカリキュラムを編制しています。学生は、知識や教養を単に受容するだけではなく、他者を尊重しながらも、自らの考えを積極的に発信し社会に貢献できる「個」を育成するため、1年次からの徹底した少人数教育による「演習科目」での学習を行います。特に生涯にわたって出会う人々や社会から学び、自らを成長させる知力を修得するために、指導教員や学生同士の議論の中で自ら学ぶ力を修得する「卒業論文」を必修としています。

文学科では、日本語・外国語によって制作された文学作品などの研究、言語そのものの学習・研究を通じて様々な考え方を理解し、翻って自らのメッセージを構築・発信するための教育課程を編成しています。少人数の演習による専門的研究の訓練、また自律的学習の集大成としての卒業論文を必修としています。

史学地理学科では、過去から現在までの人間と自然のあり方・変遷を学ぶための教育課程を編制しています。いずれの専攻も、文献や史料の講読研究、演習科目の座学を重視するとともに、史跡調査・発掘調査・現地調査などフィールドワークも重視しています。このうち、日本史学・アジア史・西洋史学の各専攻は、日本やイスラーム世界を含むアジア、欧米各地域の史料講読に重点を置き、考古学専攻と地理学専攻では、フィールドワークの実習にそれぞれ重点を置いています。いずれも生涯にわたって学ぶ知力を獲得するための卒業論文を必修としています。

心理社会学科では、人間を内面と社会の両面から学ぶ教育課程を編制しており、専門的に心理を援助する知識や技法と共に、コミュニケーションや人生のライフサイクル、環境と人間の関わり等の社会の諸相、そして人間という存在の本質を分析するため、少人数でのゼミナール形式で研究法や調査法を学びます。生涯にわたり人間と社会から学び自らを成長させる知力を体得するために卒業論文を必修としています。

【教育課程の構成】

文学部の教育課程は一般教育と専門教育に分かれており、専門教育は少人数のゼミナール教育を基本として、学年が進行するとともに専門教育の比重が高まるよう、体系的、順次的に教育課程が編成されています。

- 一般教育では、個々が豊かな将来を築く基礎を形成するために、多彩な文化に触れる第一歩となる外国語科目、幅広い視野を養う教養科目、健康的な心身を築くためのウェルネス科目を置きます。
- 専門教育は、段階的に実践的な学習ができるようになるために、1年次には導入教育として「基礎演習」を置きます。
- 専門分野の基礎を固めるために「概論科目」や2年次に「演習」を置きます。
- 徹底的に専門性を高めるために、専門領域別に分かれる3年次に「演習」と多彩に選択できる「専門科目」を置きます。

- 史料・外国語文献の読解や分析，現地調査（フィールドワーク），発掘調査，カウンセリング等を通して，自然や人間世界をより深く理解するために，「実習科目」を置きます。
- 個々の学生が各自の学習成果を形にするために，4年次には，指導教員と1対1で指導を受ける「卒業論文」を置きます。

【教育課程の特長】

- 文学部は「人間の生き方」を課題とする文学科，「人間社会の成り立ち」を課題とする史学地理学科，「人間の心と社会」を課題とする心理社会学科で，教育課程を構成しています。幅広い知識を身につけるために，各学科の大部分の授業は他学科所属の学生も履修することが可能です。
- 国際社会の多様性を理解する能力を身につけるために，その端緒として語学教育を重視しており，目標達成度に応じてステップ・アップしていくプログラムを設置しています。外国語を学ぶだけでなく，外国語で学び・語ることができる水準まで，学力の伸長を図ることを目標としています。

2. 沿革

(1) 文学部の歴史

明治大学の前身である明治法律学校が誕生したのは，1881年（明治14年）のことでした。その後，同校は，1903年（明治36年）に，専門学校令によって明治大学と改称され，次いで1920年（大正9年）には，大学令に基づく私立大学として認可されました。

実はこの間，校名が明治大学と改められて間もない1906年（明治39年）9月に，文学部は一度開設されたことがありました。そこでは，夏目漱石や上田敏などといった当時を代表する著名な文学者たちが授業を担当するなど，非常に魅力的な計画が立てられていたのですが，残念ながら1908年（明治41年）に学生募集停止となってしまいました。

しかし，やがて1931年（昭和6年）になると，文科復活の運動が起こり，その結果として翌1932年（昭和7年）4月に，文科専門部として再興されることとなりました。そして，さらに20年近くを経た1949年（昭和24年）4月には，それが新制の文学部に改められて現在に至っています。

こうした文学部の歴史の大まかな流れに関しては，次の略年表を参照してください。

＜略年表＞

1905年 (明治38年)	文学研究会を設置し、夏目漱石・上田敏らが授業を始める。
1906年 (明治39年)	文学部創設。しかし、翌々年、学生募集停止。
1931年 (昭和6年)	大学創設50周年を機に、文学部の復活運動が起こる。
1932年 (昭和7年)	3年制の「文科専門部」として文学部が復活し、文芸科(昼間)と史学科(夜間)が設置される。山本有三・菊池寛・小林秀雄らが授業を行う。
1938年 (昭和13年)	文芸科が文芸科と演劇映画科(のちに廃止)に分かれ、史学科を地理歴史科に改組する。
1944年 (昭和19年)	地理歴史科の学生募集を停止(翌年復活)。戦争が激化し、文芸科在学生在が軍需工場へ通年動員される。地理歴史科(夜間)は授業を続ける。
1949年 (昭和24年)	新制大学として文学部が成立する。文学科と史学科(ともに一部=昼間、二部=夜間あり)が設置される。
1950年 (昭和25年)	史学科を史学地理学科と改称する。
2002年 (平成14年)	心理社会学科(臨床心理学コース・臨床社会学コース)が設置される。
2004年 (平成16年)	二部の学生募集を停止する。履修の形態が7校時制に移行する。文学科に文芸メディア専攻が設置される。
2005年 (平成17年)	独文学専攻をドイツ文学専攻、仏文学専攻をフランス文学専攻、東洋史学専攻をアジア史専攻と改称する。
2011年 (平成23年)	心理社会学科が専攻制(臨床心理学専攻・現代社会学専攻)となる。専攻毎に学生募集を行うようになる。
2018年 (平成30年)	心理社会学科に哲学専攻が設置される。

(2) 文学部の現在

現在の文学部は、先に述べたような、人間の営みのすべてを総合的に理解するという基本的な教育方針に基づいて、文学科、史学地理学科、心理社会学科の3学科と、各種の資格取得のための関係科目を開設している資格課程によって構成されています。それぞれの教育目標は次のとおりです。

① 文学科の教育目標

文学科は、人間の生き方の探求を本旨とし、特に「主体的に学ぶ能力」と「国際的視野」を身につけることに力を注いでいます。そこでは、「ことば」に関わる文化の問題に大きな関心が寄せられることは言うまでもありませんが、高校までの学校教育では受動的に蓄えられることの多かった知識の断片を総合的なものへと体系化し、自らのメッセージとして広く世界に向け発信できる学生を育てることを目標としています。

日本文学専攻

日本語による文学作品および言語資料には、上代から現代まで1300年の長きにわたる歴史があります。これらに厳密な読みと解釈をほどこすことを通じて、それぞれの時代の作

品・作家・言語についての理解を深めます。さらに外国文学・演劇・日本史などの関連諸分野を学びながら、国際的・学際的な視野からも日本文学・日本語の位置づけを確認することで、個性豊かな、日本文学の教養に基づく魅力ある人材を育成するのが、日本文学専攻の目標です。

英米文学専攻

英米文学専攻では、三つの力を形成する環境を用意しています：(1)英語でコミュニケーションする力（「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」）、(2)英語で発信されたコンテンツ（英米をはじめとする英語圏の文学、文化）を理解し、語る力、(3)英語という言語を分析・研究できる力（英語学・言語学）。どのセクションも初級から上級へと段階的なクラスを構成し、在学中に確実な能力向上を期待できるよう配慮しています。

ドイツ文学専攻

あなたの「個を強くする」、これが明治大学のモットーです。そのもっとも有効な手段が、自国の文化とは別の、新しい文化に触れることです。私たちの専攻は、ドイツとオーストリア、スイス、リヒテンシュタインなど、いわゆるドイツ語圏の言葉や文化、（文学、音楽、美術、哲学など）を学ぶことにより、あなたの視野を広げる手助けをすることを目指しています。これが、あなたが自身と世界とをより深く理解する近道だと考えるからです。

フランス文学専攻

個性と多様性を重んじるフランス文学専攻では、以下の四つの目標を設定しています。(1)実用的フランス語力を身につける、(2)フランス語の構造や特徴を深く学ぶ、(3)フランス（語圏）の文化を研究する、(4)文学や思想の分野で深い知識を身につける。1・2年で基礎力を身につけた後、各自、興味に応じてカリキュラムを組み立てます。多様な視点で世界の〈今〉や自分を見つめるオリジナルな国際人を目指してください。

演劇学専攻

劇（ドラマ）を通じて人間を考えることを専攻の教育目標とします。人間の文化の営みのうち最も古い伝統の一つである演劇を、日本と西洋の二つの視点から、歴史的、理論的かつ文学的に学んでいきます。現代にあって、演劇は最もインターカルチュラルな文化形式となっています。演劇を学ぶことが単に舞台芸術を学ぶことにとどまらず、異文化理解や文化交流の手がかりをつかむことにもつながることを目指しています。

文芸メディア専攻

現代は、多様なメディア環境の中で人間存在が変容し、動揺している時代です。そのような時代にこそ、メディアの基底をなす文字言語に立ち返って、自己を見つめなおす必要があります。それには、何よりも「読む力」と「書く力」が求められ、それに立脚してこそ発信者の視点、多様なメディアを意識した視点が成り立ちます。本専攻は、日本の言語及び精神・思想文化を中核として、古今東西の様々な文芸や芸術及び批評理念に触れながら、その〈読み〉と〈文章表現〉の実践を通じて自己を探求する、創造的かつ人間性豊かな教養人を育成するのが目標です。

② 史学地理学科の教育目標

史学地理学科は、人間社会の歴史の探求を本旨とし、日本・アジア・ヨーロッパ・アフリカ・南北アメリカなど世界の各地域に対する歴史的・地理的認識を深めることを通して、人

間社会を多角的に把握する思考力を養うことを目標としています。そして、さらに、人類の発展と地域環境の調和を目指し、人類の歴史的・地理的理解を踏まえた国際感覚豊かな教養人の育成につとめます。

日本史学専攻

現代から過去を見ることは、過去から私たちの生きている現代を見ることでもあります。日本史学専攻の教育目標は、歴史を勉強することにより社会を見る目を養い、未来をつくる創造力を養うことにあります。教育の場では、歴史書・古文書の解読や現地調査（フィールドワーク）を通して、史料（原典）の解読力を養い歴史の現場を自分の目で実感することを大切にしています。こうして培われた探究心と知力は必ずや未来を切り開く力となるでしょう。

アジア史専攻

世界は、いま大きく変わりつつあります。アジア史専攻では、アジアの歴史がもつ積極的な意味を学び、かつその面白さに触れることを通じて、確かなアジア認識を身につけ、アジア世界と積極的にかかわることのできる人材の育成を目指します。学生は、広くアジア各地の歴史と文化を学びつつ、それぞれが特定の地域・時代を選択して、史料の読解力や多面的に考察する思考力を養い、それを卒業論文に結実させていきます。外国語の修得に力を入れており、中国語や朝鮮語・アラビア語・欧米語も授業に活用しています。教員や先輩たちが4年間にわたる学びの過程を力強くサポートします。

西洋史学専攻

西洋史学専攻では、歴史的見地から異文化理解を深め、他者の人格や個性を尊重しながら、自己を正しく表現できる能力をはぐくむことを教育理念としています。そして、グローバル化や情報化が急速に進む現代社会にあって、学生諸君一人ひとりが世界に対する幅広い知識や歴史についての深い教養を身につけ、情報の氾濫に溺れることなく、積極的に自ら思考し、創造する力の育成を教育目標としています。

考古学専攻

考古学とは、過去の人類が残した遺跡や遺物を様々な視点と方法によって検討し、自らの手で過去の歴史を組み立て、さらには、過去を学びながら、現代社会の在り方をさぐる学問分野です。考古学を軸としながら広く学び、社会人としての教養を身につけ、現代社会に生きる確かな力を養うことが目標です。また、考古学専攻の特質は、教室だけでなく、遺跡の発掘調査や出土資料の整理分析に参加することを通して、教員や大学院生を含む、年齢や学年を越えた人間的ふれあいを重ねる点にあります。

地理学専攻

地理学専攻の目標は、学生の皆さんに、様々な情報を読み解く力・用いる力、他者の考えを理解する力、そして自分の考えを伝える力を身につけてもらうことです。そのために、まず、自然・人文・社会の幅広い領域を学ぶことにより、多様な視点と柔軟な発想を得てもらいたいと思います。さらに、フィールドワークに積極的に出向くことにより、五感を使って独自の視点から斬新な発想を得てもらいたいと思います。そして、ゼミや卒論の場で仲間と議論することにより、他者の考えを受け入れ、自分の考えを主張する能力を培ってもらいたいと思います。地理学専攻のモットーは、「歩く、観る、考える」です。

③ 心理社会学科の教育目標

人間に関わる「心と社会の問題」の探究を本旨とする心理社会学科は、臨床心理学専攻と現代社会学専攻と哲学専攻の3専攻からなっています。現代社会学専攻は、以前「臨床社会学」と称していましたが、この「臨床」とは、多様化する今日の社会状況に現場的・実践的に関わる方法を意味します。「現代」という新しい時代に対応し、「心」を個人の内面的問題としてだけでなく、「社会」との関わりの中で検討しようとするのが、本学科の特徴です。2002年4月に開設された学科ですが、これまで既存の2学科で培われてきた文学部の「人間学」の伝統を踏まえ、「共生する人間関係・社会」のあり方を模索しつつ、「現場性」「個性」「実践性」の姿勢を重視しながら、新しい時代に対応しうる人材の育成を目標にしています。

2011年度より、各コースの専門性をより高めるため、従来の「臨床心理学コース」「臨床社会学コース」から「臨床心理学専攻」「現代社会学専攻」へとそれぞれ名称を改め、1年次より2専攻制をとるなど、その形態は少し変わりましたが、「心理と社会を密接に学べる」本学科の基本スタイルには少しも変化はありません。2018年度からは新たに「哲学専攻」が加わり、人間という存在を根本的に考察することで、心理や社会の問題に切り込むアプローチを提供します。

臨床心理学専攻

1, 2年次で心理学的ミクロ的な視野と社会的マクロ的視野の二方向から人間を理解する力や、心理学全般についての基本的知識を身につけながら、同じく2年次以降からは臨床心理学的な見方や対処法を基礎から応用まで専門的に学び、体得することを目指します。その際、将来公認心理師・臨床心理士のような専門家を志向する学生に対してだけでなく、より一般的に職場や家庭・地域社会などにおいても活用できるような、臨床心理学的素養を修得するための教育・研究に力を入れます。

現代社会学専攻

現代社会での個人化は、人と人とのつながりを希薄にし、社会を暮らしにくいものにしていきます。市民活動やボランティア、NPOなどの重要性が説かれるゆえんです。また現代社会は急速にグローバル化が進み、多様な人々の統合という困難な課題を抱えるようになりました。現代社会学専攻では、社会学理論を学ぶとともに、これらの問題に正面から取り組み、実践的に対応する力を養います。具体的には、学校や職場でのいじめ問題、社会的にも公正な持続可能な社会づくり、過疎地のまちおこし、移民と共生するまちづくり、そしてそれらを実現するためのソーシャルキャピタルなどについて、市民活動の現場と教室での学びを行き来しつつ学び、問題対応力を身につけることとなります。

哲学専攻

グローバル化や情報化が急速に進んだ現代社会において、さまざまな価値観がぶつかりあうことから生じる問題に取り組むためには、自らの力で論理的に考え、価値観の異なる他者との対話を続けることが重要です。哲学専攻では、こうした対話的姿勢を涵養するため、文献講読などによる知識の習得のみならず、他者のことばを受け止めて理解する力、冷静に粘り強く考え抜く力、自らの考えを明晰に表明できる力など、実践的な能力を育成することを目標としています。

④ 資格課程の教育目標

中学校・高等学校の教員免許，博物館専門職員の学芸員，地方自治体の社会教育に携わる社会教育主事，図書館で働く専門職としての司書や学校図書館の司書教諭などの資格を取得するための指導を行う資格課程は，学生たちが社会的活動の広がりに対応出来るための能力を養うことを目標にしています。

3. 文学部の構成

文学部は，文学科・史学地理学科・心理社会学科の3学科からなり，それぞれの学科には次の専攻があります。各学科の学生は，1年次から各専攻に所属します。

文学科	史学地理学科	心理社会学科
日本文学専攻	日本史学専攻	臨床心理学専攻
英米文学専攻	アジア史専攻	現代社会学専攻
ドイツ文学専攻	西洋史学専攻	哲学専攻
フランス文学専攻	考古学専攻	
演劇学専攻	地理学専攻	
文芸メディア専攻		

* 文学部の授業は，原則として1・2年次は和泉キャンパス，3・4年次は駿河台キャンパスを使用します。

Ⅱ 履修

1. 修学指導

文学部では、学部全体の教育目標である「十分な専門知識を身につけた幅広い教養人の育成」に資するため、専攻制を採っています。文学科・史学地理学科・心理社会学科の学生は、1年次から各専攻に所属します。それぞれの専攻は、相互に乗り入れながら授業の共通化を図る一方、専門教育においては、1年次より少人数教育を行っています。特に基礎演習、演習、卒業論文指導などのゼミナール形式の必修科目では、教員との活発な討論を通して学生の自主的努力を促すことを目標にしています。さらに外国語科目、ウェルネス科目、共通選択科目、専攻が設置する選択科目などの有機的関連を目指した4年間の体系的なカリキュラムの仕上げとして、最終学年に卒業論文の提出を課しています。

上記の教育目標とカリキュラムのもとで、1年次から4年次まで少人数教育授業を継続しており、それぞれの担当教員と綿密な連絡を取り合うことにより、受動的に知識を受容するだけでなく、能動的に知識を身に付けられるように配慮しています。また、文学部では2年次修了時まで、卒業に必要な単位数の中から40単位以上修得しなければ、3年次に進級することはできません。自分自身でスムーズに学年進行管理を行うためにも、少人数ゼミナールの担当教員や学級主任の教員が、学生生活をサポートしています。なお、成績不振学生に対しては個別面談を実施しています（P.32参照）。

さらに、入学時ガイダンスにおいて、カリキュラム説明、学習計画指導等を中心に、専攻別ガイダンスを行っていますし、専攻ごとに履修相談を行っています。また、教職課程、学芸員課程、社会教育主事課程、司書課程及び司書教諭課程の資格課程を履修する学生に対しては、別に資格課程ガイダンスも行っています。以上の各ガイダンスは、2年次以降も毎年度始めに行われていますので、必ず出席して学習計画を充実させるようにしてください。なお、ガイダンスのほかに、随時文学部の事務室担当者による窓口相談を行っています。

一方、父母に対しては、毎年5月から7月にかけて全国で父母懇談会を行い、学習上の諸問題や学生生活における問題及び将来の進路等について報告・相談する機会を設けています。このように、父母と大学が一体となって学生サポートを行う体制を作っています。

以上のような各種制度やシステムを十分活用して、学生生活を実りあるものにしてください。

2. 授業科目

授業科目は、各学科・専攻ごとに必修科目と選択科目に分かれて設置されています。授業科目の区分及び名称は次のとおりです。

必修科目	選択科目	
専攻必修科目	専攻選択科目 (A・B)	大学院設置科目
外国語科目	共通選択科目	他学部履修科目
ウェルネス科目	キャリア支援科目	国際教育プログラム科目 (基幹科目)
	日本語教員養成プログラム科目	国際協力人材育成プログラム
	留学関係科目	日本 ASEAN 相互理解プログラム
	学部間共通外国語科目	グローバル人材育成プログラム

必修科目は、学修上必ず履修し、単位を修得しなければならない授業科目です。指定された学年で科目履修の上、単位を修得してください。

選択科目は、学問分野・領域を幅広く補完する目的で指定された授業科目です。卒業要件を理解し、各年次でバランスよく科目履修をする必要があります。

3. 履修方法

(1) 履修に関する注意事項

- ① 各年次に配当してある授業科目はその年次に、各期（春学期・秋学期）に配当してある授業科目はその期に履修することを原則とします。必修科目は、必ず指定された年次、またはその期で履修しなければなりません。
- ② 上級年次に配当してある授業科目を、下級年次において履修することはできません。
- ③ 授業科目を同一時限に重複して履修することはできません。但し、半期科目を春学期・秋学期の組み合わせで履修することは可能です。
- ④ 必修科目が同一時限に重複している場合は、履修登録期間前に文学部の窓口に出向いて、対応等について相談してください。
- ⑤ 他専攻の卒業論文、演習及び実習形態の授業科目を履修することはできません。
- ⑥ 単位修得済みの授業科目は、特定の授業科目を除き、履修することはできません。
- ⑦ 同一曜日に異なるキャンパスの授業科目を履修する場合、連続した時限の科目を履修することはできません。但し、昼休みを挟む2・3時限の連続履修はできます（駿河台キャンパスまたは中野キャンパスと生田キャンパスの移動を除く）。

(2) 年次履修制限単位

単位制とは授業時間を含め、一定の事前学習や事後学習が求められることから、各年次の履修単位数が不均等となるのは学修上望ましいことではありません。このため、文学部では各年次で履修できる卒業要件単位数には次のように上限が設けられています。この上限単位には、共通選択科目として卒業要件単位に含む資格課程科目及び再履修科目も含まれます。但し、学外実習や集中の形態をとる科目は対象外となり、この上限単位には含めません。

なお、**各年次とも半期上限単位数はいずれも30単位**となります。

年次	1年次	2年次	3年次	4年次
履修制限単位数	48	48	48	48
履修上限に含まれない科目	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学実習Ⅰ A・Ⅰ B ・地理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・生涯スポーツⅢ-1～4 ・グループカウンセリング技法 ・海外短期留学関係科目 A～D ・考古学実習Ⅱ A・Ⅱ B ・現代社会学実習 A・B ・生涯スポーツⅣ-1～4 ・ジョブ・インターンシップ ・海外現地研修 A・B など 			

(3) 履修手続

- ①履修科目の登録は、シラバス、学部便覧、時間割表、ガイダンス資料等をよく理解して行うようにしてください。
- ②履修登録手続は、春学期配当科目・秋学期配当科目・通年配当科目とも、すべて学年の始めの定められた期間に行ってください。
- ③履修変更は原則として履修変更期間に限り、可能です。履修変更可能となる単位数は特に定められていませんが、年度始めの履修登録の際によく考えて履修登録し、各自適正な範囲内で変更するようにしてください。
- ④休学中で秋学期から復学を認められた学生については、秋学期の定められた期間に秋学期の科目を登録することができます（30単位を上限とします）。
- ⑤履修登録を行わなかった授業科目は、試験を受けても無効となります。
- ⑥履修登録後、最終的な登録科目が反映された「個人別時間割表」を必ず確認してください。個人別時間割表は、指定された期日から、Oh-olMeiji システム上に表示されます。（共通事項55）エラーメッセージ等が表示されている場合や誤りがある場合は、速やかに文学部の窓口に出向いて、修正の手続を行ってください。ただし、修正期日に遅れた場合は、変更・修正が一切認められませんので注意してください。また、「個人別時間割表」に表示されていない授業科目は、試験を受けても無効となります。

(4) 再履修

- ①不合格になった授業科目を上級年次に科目履修し、再び履修することを再履修といいます。
- ②再履修の科目は、当該年次の履修制限単位数を超えて履修することはできません。必修科目がFとなった場合には、翌年度に必ず再履修の登録を行ってください。

4. 卒業に必要な単位

(1) 卒業要件単位

文学部では、4か年以上在学し、以下の表に示された単位を修得した場合に、「学士(文学)」の学位が授与されます。なお、各科目区分で必要な単位数は学科ごとに異なっていますので、注意してください。

<文学科>

科目区分		学 科	
		文 学 科	
必修科目	専攻必修科目	38単位	
	外国語科目	16単位	
	ウェルネス科目	4 単位	
選択科目	専攻選択科目 A	12単位	48単位
	共通選択科目	24単位	
	専攻選択科目 B	70単位以上	
	キャリア支援科目／留学関係科目／日本語教員養成プログラム科目／学部間共通外国語科目／大学院設置科目／他学部履修科目／国際教育プログラム科目（基幹科目）他		
合計	128単位以上		

- ① 文学科の専攻必修科目の内訳は、各専攻別の科目配当表（37ページ以降）のとおりです。38単位を超えて修得した単位は選択科目の合計単位に算入されます。
- ② 選択科目のうち、専攻選択科目Aの中から12単位以上を修得し、共通選択科目の中から24単位以上修得しなければなりません。
- ③ 上記②を充たした上で、専攻選択科目Bと合わせて48単位以上修得しなければなりません。
- ④ 上記③を充たした上で、選択科目の合計として70単位以上を修得しなければなりません。
- ⑤ 上記の全ての条件を充たした上で、それぞれ必要な必修科目と選択科目を合わせて128単位以上修得しなければ、卒業要件を充たせません。
- ⑥ **2年次終了時まで**に卒業に必要な科目の中から40単位以上を修得しなければ、**3年次に進級することができません。**
- ⑦ 外国人留学生は、「日本語」（1年次4単位、2年次4単位）が必修です。

<史学地理学科>

科目区分		学 科	史学地理学科	
必修科目	専攻必修科目		28単位	
	外国語科目		12単位	
	ウェルネス科目		4単位	
選択科目	専攻選択科目A	12単位	62単位	
	共通選択科目	24単位		
	専攻選択科目B			
	キャリア支援科目／留学関係科目／日本語教員養成プログラム科目／学部間共通外国語科目／大学院設置科目／他学部履修科目／国際教育プログラム科目（基幹科目）他		84単位以上	
合計			128単位以上	

- ① 史学地理学科の専攻必修科目の内訳は、各専攻別の科目配当表（64ページ以降）のとおりです。
- ② 選択科目のうち専攻選択科目Aの中から12単位以上を修得し、共通選択科目の中から24単位以上修得しなければなりません。
- ③ 上記②を充たした上で、専攻選択科目Bと合わせて62単位以上修得しなければなりません。
- ④ 上記③を充たした上で、選択科目の合計として84単位以上を修得しなければなりません。
- ⑤ 上記の全ての条件を充たした上で、それぞれ必要な必修科目と選択科目を合わせて128単位以上修得しなければ、卒業要件を充たせません。
- ⑥ **2年次終了時まで**に卒業に必要な科目の中から40単位以上を修得しなければ、**3年次に進級することができません。**
- ⑦ 外国人留学生は、「日本語」（1年次4単位、2年次4単位）が必修です。したがって史学地理学科の外国人留学生の卒業所要単位は130単位になります。

<心理社会学科>

科目区分		学 科	心理社会学科	
必修科目	専攻必修科目		32単位	
	外国語科目		16単位	
	ウェルネス科目		4 単位	
選択科目	専攻選択科目 A	12単位	54単位	76単位以上
	共通選択科目	24単位		
	専攻選択科目 B			
	キャリア支援科目／留学関係科目／日本語教員養成プログラム科目／学部間共通外国語科目／大学院設置科目／他学部履修科目／国際教育プログラム科目（基幹科目）他			
合計			128単位以上	

- ① 心理社会学科の専攻必修科目の内訳は、各専攻別の科目配当表（83ページ以降）のとおりです。
- ② 選択科目のうち専攻選択科目 A から12単位以上を修得し、共通選択科目の中から24単位以上修得しなければなりません。
- ③ 上記②を充たした上で、専攻選択科目 B と合わせて54単位以上修得しなければなりません。
- ④ 上記③を充たした上で、選択科目の合計として76単位以上を修得しなければなりません。
- ⑤ 上記の全ての条件を充たした上で、それぞれ必要な必修科目と選択科目を合わせて128単位以上修得しなければ、卒業要件を充たせません。
- ⑥ **2年次終了時まで**に卒業に必要な科目の中から**40単位以上**を修得しなければ、**3年次に進級することができません**。
- ⑦ 外国人留学生は、「日本語」（1年次4単位、2年次4単位）が必修です。

(2) 卒業見込単位数

3年次終了時まで文学部における「卒業に必要な単位」の中から84単位以上修得した者には、4年次の決められた時期に「**卒業見込証明書**」を発行することができます。この84単位には、「学部間共通外国語科目」及び「資格関係科目」等の卒業要件外科目は含まれません。ただし、「学部間共通外国語科目」及び「資格関係科目」の一部の授業科目は「卒業に必要な単位数」に含まれるものもあります。詳しくは20ページ以降「5. 履修科目」の該当項目を確認してください。

(3) 秋季卒業

① 資格

出願時において、次の要件をすべて充たす者とします。

- a. 卒業するための在学期間（4年間）を該当年度の春学期在籍することで充たす者。
- b. 春学期終了時に必要単位を修得することで卒業要件を充たす見込みの者。
 - (ア) 春学期終了科目の単位を修得して卒業要件を充足する者。但し、卒業要件に不足している単位数が**20単位以下**の者。
 - (イ) 前年度までに「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」の双方とも単位修得している者もしくは卒業予定年度の春学期に卒業論文を提出し、合格して卒業要件を充足する者。但し、

春学期に卒業論文を提出できる者は、前年度までに「卒業論文Ⅰ」を履修登録し、卒業論文指導教員、専攻主任及び教務主任の許可を受け、当該年度の春学期において「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」を履修登録した場合に限ります。

② 手続き

上記の資格を有し、秋季卒業を希望する者は、「秋季卒業願」を提出してください。「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していない者は、卒業論文指導教員、専攻主任及び教務主任に卒業論文提出の許可を願い出て、「秋季卒業願」に押印を受けたうえで、文学部事務室の窓口提出してください。また、履修登録期間内に「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」を文学部事務室窓口で履修登録してください（WEB登録はできません）。

③ 卒業の日付

学年暦上の春学期最終日となります。

④ 学費

秋季卒業の認定を受けた者は、春学期分の学費の納入のみで秋季卒業をすることができます。ただし、秋季卒業ができなかった者のうち、在籍を希望する場合は、秋学期分の学費を納めることが必要となります。

⑤ その他

- a. 春学期終了時に秋季卒業の要件をすべて満たしていても、「秋季卒業願」を提出しない者は、翌年3月の卒業となります。
- b. 秋季卒業を希望する場合でも、秋学期配当科目の登録は学年の始めに行ってください。
- c. 秋季卒業ができなかった場合には、秋学期の定められた期間に半期履修制限単位（30単位）を上限として、追加登録できます（既に履修登録している単位も含む）。

5. 履修科目

(1) 必修科目

必修科目は、すべて修得しなければ卒業することができない科目です。

① 専攻必修科目

専攻必修科目は、各専攻によって異なります。各専攻で修得しなければならない授業科目・単位数・配当年次は、37ページ以降の各学科・専攻の「科目配当表及び履修上の留意点」で確認し、理解をしておくことが必要です。

【全学科共通 注意事項】

- a. 卒業論文（4年次）を履修する場合は、所定の期日までに論文のテーマを届け出て、「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」の授業科目を受講しなければなりません。
 - b. 卒業論文の提出場所・時間については文学部掲示板にて告知します。
- ※ 卒業論文は、指定された日時に提出し、後日面接を受けなければなりません。未完成の論文及び指定提出時刻に遅れた論文は受理されません。

※卒業論文Ⅰおよび卒業論文Ⅱの成績は、原則として秋学期終了時に公開し、合格した場合には各学期の修得単位として付与します（卒業論文Ⅰの成績は春学期終了時には公開しません）。

【文学科 注意事項】

d. 文学科の専攻必修科目の中には、同一名称の授業科目を複数コマ履修できる科目もあります。履修については、各学科・専攻の「科目配当表」を参照してください。また、文学科の専攻必修科目の必要単位数を超えて修得した単位は、選択科目として卒業に必要な単位数に含めることができます（専攻選択科目・共通選択科目の単位としては認定されません）。

【史学地理学科 注意事項】

e. 史学地理学科地理学専攻の「地理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、休日・休暇等を利用して実施されます。掲示等に注意して参加登録してください。所定の各1単位は、それぞれ30時間以上の実習への参加と事前・事後の学習によって認められます。なお、課題が課される場合は必ず期日までに提出してください。

② 外国語科目

a. 外国語科目には、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語及び日本語（外国人留学生のみ）が設置されています。各専攻の指導にしたがって、2カ国語を選択履修し、単位を修得していきます。専攻別の外国語の選択は以下のとおりです。なお、入学時に選択した外国語を変更することは、原則として認められません。

学科	専攻	外国語	1 年 次	2 年 次	必 要 単 位 数	合 計
文	日本文学	英語	4	4	8	16
		ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1カ国語選択	4	4	8	
	英米文学	英語	4	4	8	16
		ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1カ国語選択	4	4	8	
	ドイツ文学	ドイツ語	4	4	8	16
		英語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1カ国語選択	4	4	8	
	フランス文学	フランス語	4	4	8	16
		英語, ドイツ語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1カ国語選択	4	4	8	
	演劇学	英語	4	4	8	16
		ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1カ国語選択	4	4	8	
	文芸メディア	英語	4	4	8	16
		ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1カ国語選択	4	4	8	

学科	専攻	外国語	1 年 次	2 年 次	必 要 単 位 数	合 計
史学 地理	日本史学	英語, ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から2ヵ国語選択	4	2	6	12
	アジア史		4	2	6	
	西洋史学					4
	考古学		4	2	6	
地理学	英語	4				2
	ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1ヵ国語選択	4	2	6		
心理 社会	臨床心理学	英語	4	4	8	16
		ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1ヵ国語選択	4	4	8	16
	現代社会学	英語	4	4	8	16
		ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1ヵ国語選択	4	4	8	16
	哲学	英語	4	4	8	16
		ドイツ語, フランス語, ロシア語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語の中から1ヵ国語選択	4	4	8	16

(注) 外国人留学生の場合, 上記の専攻で履修可能な諸言語に, 日本語が加わります。1言語は日本語を選択し, その他に選択肢の中から1言語を選んでください。

b. 教育職員免許状取得希望者の外国語科目履修

入学後に教育職員免許状の取得を希望する人は, 必ず English Communication Skills を履修し, 単位を修得する必要があります。

c. 特別語学クラス

入学試験をドイツ語またはフランス語で受験した学生のために, その能力に対応して履修できる特別語学クラス(ドイツ語・フランス語)が和泉キャンパス5学部共通科目として設置されています。特別語学クラスでは, 一般クラスよりやや高度な内容の教材を使用した授業を行います。該当学生は自分の所属するクラスの授業に替えて, 1年次, 2年次とも特別語学クラスの授業を受講しなくてはなりません。なお, 詳細については文学部の窓口にお問い合わせください。

d. 外国人留学生の日本語の履修

- (ア) 外国人留学生は, 日本語を1年次に4単位, 2年次に4単位の計8単位を修得しなければなりません。
- (イ) **史学地理学科各専攻の外国人留学生の卒業要件単位数は130単位となります。**
- (ウ) 「日本語」の講義内容等は, 年度始めの留学生ガイダンスの際に説明の上, 指示されます。

③ ウェルネス科目

- a. 1年次に「ウェルネスライフ論」を2単位、及び「ウェルネススポーツA」、「ウェルネススポーツB」をそれぞれ1単位、計4単位を修得しなければなりません。
- b. 履修については、オリエンテーション及び最初の授業時間に担当の教員から詳しく説明があるので、必ず出席してください。
- c. 授業時間数の2/3以上出席し、かつ担当教員の認定を得なければ単位は修得できません。
- d. 授業に関する各種連絡は、和泉キャンパスでは文学部掲示板及び体育館前掲示板（実技は授業実施日のみ）に掲示します。また、駿河台キャンパスでは文学部掲示板に掲示します。
- e. 再履修する場合も、オリエンテーション及び最初の授業時間に担当の教員から詳しく説明があるので、必ず出席してください。

(2) 選択科目

① 専攻選択科目

【全学科共通 注意事項】

- a. 当該専攻にとって履修が望ましい科目は「専攻選択科目A」、それ以外の科目を「専攻選択科目B」としています。各学科・専攻科目配当表は、これに合わせて記載してあります。
- b. 3学科とも「専攻選択科目A」の中から12単位以上修得し、共通選択科目の中から24単位以上修得しなければなりません。
- c. 「専攻選択科目」の中には、年度によって開講されない科目もありますので、注意してください。

【文学科 注意事項】

- d. 文学科の学生は、上記bを充たした上で、「専攻選択科目B」と合わせて48単位以上修得しなければなりません。
- e. 上記dを充たした上で、その他の選択科目と合わせて70単位以上修得しなければなりません。

【史学地理学科 注意事項】

- f. 史学地理学科の学生は、上記bを充たした上で、「専攻選択科目B」と合わせて62単位以上修得しなければなりません。
- g. 上記fを充たした上で、その他の選択科目と合わせて84単位以上修得しなければなりません。

【心理社会学科 注意事項】

- h. 心理社会学科の学生は、上記bを充たした上で、「専攻選択科目B」と合わせて54単位以上修得しなければなりません。
- i. 上記hを充たした上で、その他の選択科目と合わせて76単位以上修得しなければなりません。

② 共通選択科目

【全学科共通 注意事項】

- a. 3学科とも「共通選択科目」の中から24単位以上修得しなければなりません。
- b. 「学部間共通総合講座」の授業科目は、「共通総合講座」として4単位まで履修可能で、卒業に必要な単位数に含めることができます。
- c. 情報関係科目は、16単位まで履修可能です。なお、「ICT エレメンタリー」以外の科目は、Ⅰの単位を修得しないとⅡの履修はできません。各科目ともⅠだけの履修は可能です。ⅠとⅡの同時履修申請については「情報関係科目シラバス」を参照してください。
- d. 資格関係科目の中で、「教育基礎論」、「教育心理学」、「教育行政学」及び「学校の制度と経営」の4科目計8単位は共通選択科目として卒業に必要な単位数に含まれます。なお、履修方法等詳細については「資格課程案内」、「資格課程シラバス」を参照してください。
- e. 「海外現地研修A・B」は2017年度より設置された科目です。授業時間数によって単位数が決定され、Aは1単位、Bは2単位となっています。4単位を上限として、重複履修が認められます（例：Aを2回、Bを1回で合計4単位など）。

③ その他の選択科目（P.111参照）※専攻選択科目・共通選択科目としては認定されません

a. キャリア支援科目

修得した単位は選択科目の「キャリア支援科目」として卒業に必要な単位数に含めることができます。また、年次履修制限単位数（P.16参照）の中に含まれます（ジョブ・インターンシップを除く）。

b. 日本語教員養成プログラム科目

修得した単位は選択科目の「日本語教員養成プログラム科目」として卒業に必要な単位数に含めることができます。また、原則として、年次履修制限単位数（P.16参照）の中に含まれます。

日本語教員養成プログラムは、外国語としての日本語教育における知識を修得し、国内外の教育現場で活躍できる人材育成を目的として2015年度より設置されました。上記科目の他、共通選択科目群の「日本語音声学」「日本語史」などの科目で構成されています。プログラムに必要な科目を修得し、所定の条件を満たせば、修了証が発行されます。詳細については、文学部の窓口で確認するようにしてください。

c. 留学関係科目

海外の大学における語学・講義プログラムの参加実績を認める科目として、「海外短期留学関係科目A～D」があります。参加したプログラムの内容に応じて、語学・実習科目は「海外短期留学関係科目A・B」、講義科目は「海外短期留学関係科目C・D」とし、4単位まで単位認定されます（科目の重複可能）。

修得した単位は選択科目の「留学関係科目」として卒業に必要な単位数に含めることができますが、年次履修制限単位数（P.16参照）の中には含まれません。

この科目の対象となるのは以下のプログラムです。

- ・文学部主催プログラム
- ・国際教育センター主催短期海外研修(学部間共通外国語認定プログラムを含む)
- ・協定校主催プログラム
- ・他学部主催プログラム

・協定留学・認定留学で文学部の設置科目に振り替えられなかった科目
プログラムの実施等については、文学部の窓口で確認するようにしてください。

d. 学部間共通外国語科目（卒業認定単位に含む）

学部間共通外国語科目の「English Communication II C」（2単位）、「English Communication III C」（2単位）の2科目4単位を、選択科目の「学部間共通外国語科目」として卒業に必要な単位数に含めることができます。但し、卒業に必要な単位数に含める場合は、履修登録期間内に必ず文学部の窓口で申請手続を行ってください。その場合、年次履修制限単位数（P.16参照）の中に含まれます。

e. 大学院設置の授業科目

〈卒業要件に含まれる場合（選択科目「大学院設置科目」）〉

文学科、史学地理学科（考古学専攻を除く）に所属する3,4年次の学生は、一定の条件を充たせば、8単位を上限として、大学院文学研究科に設置された科目を履修することができます。また、そこで修得した単位を、選択科目の「大学院設置科目」として、卒業に必要な単位数に含めることができ、年次履修制限単位数（P.16参照）の中に含まれます。但し、大学院進学後の教育職員専修免許状の取得要件には含まれません。

文学研究科設置科目の履修資格要件及び履修申請手続については、年度始めの専攻ガイダンスで説明を聞き、内容をよく理解したうえで、文学部の窓口で履修手続を行ってください。

〈卒業要件に含まれない場合（先取り履修制度）〉

意欲ある学生に広く学習の機会を与えるために、大学院授業科目の先取り履修制度があります。この制度により、全学科全専攻に所属する4年次の学生は、当該授業科目担当者から許可を得られれば、16単位を上限として、大学院文学研究科に設置された科目を履修することができます。成績評価は大学院の基準に基づいて行われ、修得した単位は大学院文学研究科に進学後、大学院博士前期課程の修了に必要な単位数に含めることができます。但し、学部の卒業に必要な単位数や年次履修制限単位数（P.16参照）には含まれません。また、この制度に基づいて修得した単位を大学院進学後、教育職員専修免許状の取得要件に含める場合は、10単位を上限とし、免許状の申請は個人でそれぞれが居住する都道府県教育委員会に行く必要があります。なお、大学院文学研究科の「修業年限の短縮による修士学位授与」制度を併用すれば、大学院博士前期課程を1年間で修了することが可能になります。

大学院授業科目の先取り履修及び修業年限の短縮の制度については、大学院文学研究科窓口で説明を聞き、内容をよく理解したうえで、大学院窓口で手続を行ってください。

f. 他学部履修科目

他学部に設置されている授業科目を履修することを他学部履修といいます。60単位まで履修可能ですが、選択科目の「他学部履修科目」として卒業に必要な単位数に含められるのは22単位までです。他学部履修の履修単位は、年次履修制限単位数（P.16参照）の中に含まれます。なお、科目によっては受講が制限されるものもありますので、必ず授業を設置している学部の窓口で事前に確認してください。

g. 国際教育プログラム

国際教育プログラムとは、法・商・政治経済・経営・情報コミュニケーション・国際日本学部と共同で設置されている、学部横断のプログラムです。内容は、英語で行われる「基幹科目」と、各学部の国際関係科目から構成される「選択科目*」の2分野から編成されています。各科目の内容は、毎年度発行される「国際教育プログラム」のシラバスを参照ください。なお、履修にあたっては、以下の注意事項に留意してください。

(ア) 国際教育プログラムは、「基幹科目」の単位取得が修了の条件となっています。「選択科目*」を含めて、所定の条件を満たせば、修了証が発行されます。

(イ) 「基幹科目」は16単位まで、選択科目の「国際教育プログラム科目」として卒業に必要な単位数に含めることができます。また、年次履修制限単位数（P.16参照）の中に含まれます。

(ウ) 「選択科目*」は、設置区分の別によって、以下のとおり扱いが異なります。なお、全ての科目が卒業単位に認定され、年次履修制限単位数（P.16参照）に含まれます。

【文学部が設置する科目】

当該科目の設置区分（専攻必修科目、専攻選択科目A・B、共通選択科目）に従って、扱われます。

【他学部が設置する科目】

上記「f. 他学部履修科目」の説明にしたがいます。選択科目の単位として扱われず。

(注) 「選択科目*」は国際教育プログラムにおける名称であり、文学部の選択科目とは異なるので、注意すること。

h. 国際協力人材育成プログラム、日本 ASEAN 相互理解プログラム、グローバル人材育成プログラム

16単位まで選択科目として卒業に必要な単位数に含めることができます。また、学外実習や集中の形態をとる科目を除き、年次履修制限単位数（P.16参照）に含まれます。

④ その他

ランゲージプログラム

外国の文学・文化・歴史等を直接の研究対象とする英米文学専攻、ドイツ文学専攻、フランス文学専攻には、語学教育の充実をはかるため、目標達成度に応じてステップ・アップしていくランゲージプログラム（科目）が設置されています。外国語を学ぶことではなく、外国語で学び・語ることができる水準まで、学力の伸長を図ることが目標です。なお、この科目の一部は、英米文学専攻、ドイツ文学専攻、フランス文学専攻以外の専攻の学生も履修できます。

English Language Program (ELP)

	Reading	Listening	Speaking	Writing	目標レベル
Step 1	上級英文解釈 A・B	上級英語 I A・B	English Communication Skills A・B 基礎演習 (英米文学) A・B	English Paragraph Writing A・B	TOEFL (iBT)52点以上 TOEIC500点以上
Step 2	English Academic Reading A・B	英語演習 A・B	Public Speaking A・B	English Academic Writing A・B	TOEFL (iBT)61点以上 TOEIC580点以上
Step 3		上級英語 II A・B	Discussion & Debate A・B	Essay Writing A・B	TOEFL (iBT)72点以上 TOEIC730点以上 英検準 1 級
Step 4	英語で書かれた卒業論文				TOEFL (iBT)80 TOEIC800点以上 英検準 1 級～1 級

German Language Program (GLP)

	Grammar	Reading	Listening & Speaking	Writing	目標レベル
Step 1	ドイツ語 I A・B ドイツ語 II A・B	ドイツ語演習 I A・B	基礎ドイツ語会話 A 基礎ドイツ語会話 B		独検 4 級/SD2。 取得の場合はスキップ可。
Step 2	ドイツ語 III A・B ドイツ語 IV A・B	ドイツ文学講読 A ドイツ文学講読 B	ドイツ語作文・会話 I A ドイツ語作文・会話 I B	ドイツ語演習 II A・B	独検 3 級/ZD。 取得の場合はスキップ可。
Step 3		ドイツ文学講読 C ドイツ文学講読 D	ドイツ語作文・会話 II A ドイツ語作文・会話 II B	ドイツ語演習 III A・B ドイツ語演習 IV A・B	独検 2 級/B2。 取得の場合はスキップ可。
Step 4	ドイツ語で書かれた卒業論文				独検準 1 級/C1。 取得の場合も終了証明書。

French Language Program (FLP)

	Grammar	Reading	Listening & Speaking	Writing	目標レベル
Step 1	フランス語 I A・B フランス語 II A・B	基礎フランス語講読 A 基礎フランス語講読 B	基礎フランス語会話 I A 基礎フランス語会話 I B 基礎フランス語会話 II A 基礎フランス語会話 II B	フランス語 I A・B フランス語 II A・B	仏検 3 級 DELF A1 TCF200点以上
Step 2	フランス語 III A・B フランス語 IV A・B	中級フランス語講読 A 中級フランス語講読 B	中級フランス語会話 I A 中級フランス語会話 I B 中級フランス語会話 II A 中級フランス語会話 II B	中級フランス語作文 A 中級フランス語作文 B	仏検準 2 級 DELF A2 TCF300点以上
Step 3		上級フランス語講読 A 上級フランス語講読 B	上級フランス語会話 I A 上級フランス語会話 I B 上級フランス語会話 II A 上級フランス語会話 II B	上級フランス語作文 A 上級フランス語作文 B	仏検 2 級準 1 級 DELF B1・B2 TCF400点以上
Step 4	フランス語で書かれた卒業論文 もしくは特別フランス語会話 A・B, 特別資格フランス語 A・B				仏検準 1 級 DELF B2 TCF500点以上

入学時フランス語既習者には別途プログラムを用意しています。

Ⅲ 試験, 成績

1. 試験

(1) 試験

- ① 試験には、予め期間を定めて行う定期試験と、その他臨時に行う試験があります。

試験		実施時期	注意事項
定期試験	春学期試験	7月下旬	試験用時間割により実施します（授業科目によっては試験期間前に行う科目もあります）。
	秋学期試験	1月下旬～2月初旬	
小テスト及びレポート		随時	

- ② 履修した授業科目については、予め定められた期間に試験を行い、その結果を総合的に勘案して、学業成績を考査します（授業科目によっては、レポートによる考査もあります）。
- ③ 定期試験は、試験用時間割で実施しますので、授業時間とは異なる曜日・時限に行われることがあります。
- ④ 試験の受験は原則として授業科目を開講しているキャンパスになります。
- ⑤ やむを得ない事由で試験を欠席し、当該試験科目の受験を希望する場合は、当該試験終了後、試験日を含めて7日以内に「特別試験受験願」を文学部の窓口へ届け出なければなりません。この場合、この「受験願」に加えて、欠席事由を証明できるもの（例えば、病気の場合は試験当日の日付が記載された診断書）を添付することが必要です。試験の実施方法等は、当該授業科目担当者の指示に従って行いますが、試験日を別途定めて行う場合があります。申請者には、受験の可否を含めて通知します。なお、特別試験の受験が許可され、指定された期日に何らかの事由で試験を受験できない場合は、再度の特別試験は実施しません。
- ⑥ 学費が未納の場合、定期試験を受験することはできません。
- ⑦ 4年次終了時、卒業単位不足者のため、救済措置としての再試験は一切行っていません。

(2) 試験受験時の注意事項

- ① 受験の際は、学生証を携帯し、定刻前に指定された教室に入室してください。
- ② 学生証を忘失した学生は、各キャンパスに設置されている証明書自動発行機にて、当日限り有効な「仮学生証」（便覧共通事項-7参照）を発行のうえ、持参してください。
- ③ 試験教室では1名おきに着席し、筆記用具など指定されたもの以外の所持品は、机の中の物を含めカバン等にしまい、椅子の下に置いてください。また、学生証は写真が見えるようにして机の上に置いてください。
- ④ 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチなどは必ず電源を切り、カバンの中に入れてください（これらの機器は時計としての使用も認めません）。
- ⑤ 着席位置が指定されている試験教室（和泉キャンパス第二校舎1番～3番教室）では、必ず所定の位置に着席してください。

- ⑥ 期間中試験は試験開始後30分以降50分までは、途中退出を認めます。また、遅刻者は試験開始後20分まで試験教室への入室を認めます。
- ⑦ 答案作成上の注意
- (ア) 試験監督者が配付した解答用紙以外は使用できません。
 - (イ) 答案は特に定めのない限り、ペン（黒または青）または鉛筆で作成しなければなりません。
 - (ウ) 解答用紙は書き損じがあっても再交付しません。
 - (エ) 解答用紙には、学年・組・番号・氏名等の所定事項を必ず記入してください。記入のない答案は無効となります。
 - (オ) 答案は必ず本人が提出してください。
- ⑧ 受験に際し、一切の不正行為を行ってはいけません。**不正行為を行った者には、退学、停学、けん責等の学則上の懲戒を行います。**
- ⑨ 試験教室内においては、試験監督者の指示に従ってください。
- ⑩ 期末試験期間中に実施される定期試験は通常の授業時間とは異なる時間帯で行います。必ず定期試験時間割を確認してください。

文学部学生諸君

文学部長

定期試験について

期間前試験および定期試験は、学業成績を考査するために学則で定められた、大学生活の中でも特に重要で且つ厳正に行われなければならないものです。

下記の事項に十分留意の上、普段の学習の成果を発揮できるよう試験に臨んでください。

記

1 仮処分

学生の不正行為が明らかになった科目について、「当該科目無効」の仮処分を行う。

2 懲戒処分

懲戒処分は「停学」とし、停学期間中は授業への出席を認めない。

不正行為の状況によって以下のとおりとする。

(1) 処分期間について

ア 有期停学（3ヶ月）

- (ア) 他人の答案を写す行為
- (イ) 机への試験に関する内容の書き込み行為
- (ウ) カンニングペーパーの持込み
- (エ) 許可されていない書類等（辞書等を含む）の持込み
- (オ) 携帯電話等を利用した不正行為
- (カ) 口頭、仕草等による解答内容の伝達
- (キ) 持ち込み許可物の貸借

- (ク) その他, 上記と同等程度の行為
- イ 無期停学
 - (ア) 代人受験
 - (イ) 答案への偽名記入
 - (ウ) 答案用紙の交換
 - (エ) 不正行為発覚後, 試験監督者等へ抵抗をするような行為
 - (オ) その他, 上記と同等程度の悪質な行為

(2) 科目の取り扱い

不正行為を行った学生が当該学期に履修している科目, および通年で履修している科目を全て「不合格」とする。

3 不正行為幫助者の処分

不正行為幫助者が本学学生の場合には, 上記1, 2の処分を準用する。

以 上

(3) レポート・論文の剽窃（盗用）行為への注意

授業の課題として課せられるレポートや論文を作成する際に, 他人の文章（書籍・論文・Web ページ）をそのまま無断で借用したり, 他の学生が作成した文章を自分の文章であるかのようにみせかける剽窃（盗用）行為は, 大学全体として禁じられています。

文学部では, 大学が示したガイドラインを踏まえ, 以下のようにルールを定めていますので, 学生諸君は, よく注意してレポートや論文を作成するようにしてください。

① 剽窃（盗用）行為は社会的に許されない行為

剽窃行為は, 他人の学問的業績を無断で借用することであり, 学問のルールに反するだけでなく, 場合によっては他人の著作権を侵害する犯罪行為にもなる社会的に許されない行為です。

② 剽窃（盗用）行為とみなされる事例

次のような行為は, 剽窃（盗用）とみなされます。また, これに類似した行為や剽窃を助ける行為（レポート等のひな形を作成して他人に見せること等）も同様です。

○活字媒体（書籍・雑誌・新聞等）や Web サイト等に掲載された他人の文章（無署名であっても）や資料等について, 出典を示さずにそのまま使い, あるいは前後関係や語句を若干変更した程度でレポート・論文を作成すること。

○引用した部分を具体的に示さず, レポート・論文の最後に「○○参照」などと簡単に触れるにとどめること。

○他人が作成した文章をあたかも自分が作成したかのごとくみせかけて, あるいは前後関係や語句を若干変更してレポート・論文を作成すること。

③ 剽窃（盗用）行為は処分の対象

以上のような, 剽窃あるいは剽窃を助ける行為が明らかになった場合, 不正行為とみなし, 処分の対象になります。また, 定期試験に代えて実施されるレポートや論文の場合, 定期試験での不正行為（カンニング）と同様の処分（その科目のみならず当該期の全登録科目の不合格や停学処分等）の対象となることがあります。

2. 学業成績

(1) 成績

① GPA 制度

GPA とは、「Grade Point Average」の略です。GPA 制度では、下表のとおり、S・A・B・C・Fの五段階で評価されます。そのうち、S・A・B・Cの評価科目については、修得した単位として計上され、Fの評価科目については、次年度以降の再履修対象科目となります。

S・A・B・C・Fの評価に対しては、それぞれ4・3・2・1・0点が与えられ、これに各科目の単位数を掛け合わせ、その総計数を総履修単位数で割ることにより、平均点（GPA）が算出されます（次頁参照）。成績通知表には、評価は点数ではなくS・A・B・C・Fで表示され、GPAも記載されます（成績証明書にはF評価は記載されませんが、GPAは記載されます）。なお、このGPAは、奨学金や学部内における選考及び学習指導等の参考にすることがあります。

判定	評価	点数	内容(その科目の履修に必要とされた学習目標)	GP
合格	S	100～90点	非常によく達成している	4
	A	89～80点	よく達成している	3
	B	79～70点	達成している	2
	C	69～60点	目標の最低限は達成しているものの、不十分な点がある	1
不合格	F	59点以下	達成していない	0

② GPA の算出方法

$$\frac{(\text{S科目のポイント} \times \text{単位数}) + (\text{A科目のポイント} \times \text{単位数}) + (\text{B科目} \dots)}{\text{全履修登録科目の総単位数 (全科目の合計単位数)}}$$

算出例)

科目名	成績	ポイント	単位数		
English Paragraph Writing A	S	4	1	=	4
ドイツ語 I A	S	4	1	=	4
ウェルネスライフ論 I	B	2	2	=	4
心理学概論 A	F	0	2	=	0
地形学 I	C	1	2	=	2
			8		14
GPA		14	8	=	<u>1.75</u>

③ GPA 対象科目

GPA の対象となるのは、文学部の卒業に必要な単位数に含まれる科目です。（但し、ジョブ・インターシップを除く）なお、認定科目（他大学及び留学先大学で修得した科目で文学部の単位として認定した科目）はGPAの対象になりません。

(2) 成績の通知

春学期科目の成績は一部の科目を除き、秋学期開始前に公開します。また、秋学期・通年科目の成績は次年度春学期開始前に公開します。公開日については掲示及び Oh-o! Meiji 等で確認してください。

(3) 成績不振学生への個別面談の実施

単位の修得状況が一定の基準に満たない場合は、今後の学習方法について個別面談を実施します。

個別面談の通知は Oh-o! Meiji システムと郵送で行います。通知を受けた学生は、必ず指定された期日に面談を受けてください。

なお、この対象者は以下に該当する学生になります。

	春学期	秋学期
1 年次		春学期修得単位10単位以下
2 年次	前年度までの合計修得単位が20単位未満	① 2 年次春学期までの合計修得単位が40単位未満 ② 2 年次春学期までの合計修得単位が40単位を満たしているが、2 年次春学期の修得単位が6 単位以下の者
3 年次	前年度までの合計修得単位合計が50 単位未満	3 年次春学期までの修得単位合計80単位未満
4 年次	卒業が出来ないことが確定している学生	卒業が出来ないことが確定している学生

(4) 成績優秀者の表彰

(ア) 卒業総代

対象・基準：当該年度卒業生で、学業成績、人物ともに優秀な者。

各学部から正・副各1名。

授与式：卒業式当日に表彰します。

(イ) 校友会卒業生表彰

対象・基準：校友会より下記の基準で選考された者。

ア. 各学科から、学業成績優秀にして人物、資質ともに優れ、他の範となる者1名。

イ. スポーツ、芸術面等で国際的又は国内的にも顕著な業績を上げ、明治大学の名声を大いに高揚せしめ、他の範となる者。

ウ. その他上記以外に、例えば社会的に大きな善行があった者、あるいは逆境に負けることなく刻苦勉励無事学業を終え、人物としても他に劣らず範となる者等。

授与式：駿河台キャンパスにて表彰します。

(ウ) 学部長奨励賞

対象・基準：新3年生で、2年修了時までの学業成績、人物ともに優秀な者。成績上位者14名。

授与式：新入生ガイダンスの席上（会場）にて表彰します。

必修科目

（ 専攻必修科目
外国語科目
ウェルネス科目 ）

※文学部設置科目は原則半期科目となっています。その他の場合には、備考欄に記載してありますので、確認してください。

※総授業時間数欄の記号は次の意味を表しています。

- ◆・・・講義・演習科目 2単位 30時間
- ◇・・・講義・演習科目 4単位 60時間
- ・・・外国語・実習・スポーツ 1単位 30時間
- ◎・・・外国語・実習・スポーツ 2単位 60時間

IV

科目配当表及び履修上の留意点

1. 必修科目について

日本文学専攻

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
日本文学史A	1・2	◆	2	8	左記の科目群から8単位を修得することが必要。必要単位数を超えて修得した単位は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。なお、日本文学講義ⅠA、ⅠBについてはそれぞれ6単位まで履修可能。但し、同一科目名において同一教員の履修は不可。
日本文学史B	1・2	◆	2		
日本文学史C	1・2	◆	2		
日本文学史D	1・2	◆	2		
日本文学講義ⅠA	1・2	◆	2		
日本文学講義ⅠA	1・2	◆	2		
日本文学講義ⅠA	1・2	◆	2		
日本文学講義ⅠB	1・2	◆	2		
日本文学講義ⅠB	1・2	◆	2		
日本文学講義ⅠB	1・2	◆	2		
国語学ⅠA	1・2	◆	2		
国語学ⅠB	1・2	◆	2		
基礎演習（日本文学）A	1	◆	2		
基礎演習（日本文学）B	1	◆	2	2	
日本文学演習（2年）A	2	◆	2	2	AとBは必ず同じ教員のクラスを履修すること。
日本文学演習（2年）B	2	◆	2	2	
日本文学演習（3年）A	3	◆	2	2	AとBは必ず同じ教員のクラスを履修すること。
日本文学演習（3年）B	3	◆	2	2	
日本文学講読ⅠA	2	◆	2	14	左記の科目群から14単位を修得することが必要。必要単位数を超えて修得した単位は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。なお、日本文学講義ⅡA、ⅡBについてはそれぞれ6単位まで履修可能。但し、同一科目名において同一教員の履修は不可。
日本文学講読ⅠB	2	◆	2		
日本文学講読ⅡA	3・4	◆	2		
日本文学講読ⅡB	3・4	◆	2		
日本文学講義ⅡA	3・4	◆	2		
日本文学講義ⅡA	3・4	◆	2		
日本文学講義ⅡA	3・4	◆	2		
日本文学講義ⅡB	3・4	◆	2		
日本文学講義ⅡB	3・4	◆	2		
日本文学講義ⅡB	3・4	◆	2		
作家作品研究ⅠA	2	◆	2		
作家作品研究ⅠB	2	◆	2		
作家作品研究ⅡA	3・4	◆	2		
作家作品研究ⅡB	3・4	◆	2		
国語学ⅡA	3・4	◆	2		
国語学ⅡB	3・4	◆	2		
中国文学研究ⅠA	2	◆	2		
中国文学研究ⅠB	2	◆	2		
中国文学研究ⅡA	3・4	◆	2		
中国文学研究ⅡB	3・4	◆	2		
卒業論文Ⅰ	4	◆	2	2	
卒業論文Ⅱ	4	◆	2	2	

日本文学専攻

日
文

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1か国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(日本文学専攻)

履修上の留意点

- ① 日本文学専攻は、大きくみて、上代・中古・中世・近世・近代における文学作品の研究と、日本語の研究（国語学・日本語学）と、漢文学の研究とに分かれています。現時点での興味関心とこれから履修していく間に持つようになる興味関心とによって、最終的に卒論ゼミを決めることとなります。制度としてのゼミ決定は、3年生の秋学期になりますが、揺るがないものであれば、早く決まっても何の問題もありません。
- ② とはいえ、最初から、狭い分野だけに興味関心を限定してしまうのは得策ではありません。日本文学・国語学（日本語学）・漢文学に関連するものだけでなく、翻訳でも構いませんから、多くの外国文学にも目を通してほしいものです。最初は広く、だんだん網をしぼっていく流れをつくる必要があります。

1・2年生＝濫読の時期 3年生＝精読の時期 4年生＝収穫の時期

というように位置づけてはどうでしょうか。1・2年生では何でも読んで、3年生になったら、一番気になったものを、もう一度ゆっくり時間をかけて読んで理解を深め、4年生になったら、それまでの総決算をして、収穫としての卒論をまとめる、というわけです。なんといっても、日本文学専攻ですので、本を多く読まなければ話になりません。授業は、あくまでも、方向付けをするものですから、それに基づいた読書による情報の蓄積は自分で行わなければなりません。
- ③ 各時代の日本文学を最終的な卒論ゼミとすることを考えている学生は、当該時代の前後の時代の文学に関する講義・演習を履修して、前後の流れの中での位置づけを意識して下さい。例えば、近代を卒論ゼミにするというような漠然とした希望があるとするれば、近世をも視野に入れつつ、さらに、関連する外国文学の授業、演劇、日本史、アジア史、世界史、地理にいたるまで、幅広く履修するというふうに。また、国語学（日本語学）を卒論ゼミにしようとするのであれば、英語学・フランス語学の授業も履修する積極性を持って下さい。漢文学を履修するのであれば、アジア史、世界史への視野はもとより、日本文学・国語学（日本語学）からさらには、日本史への視野も持つておく必要があります。
- ④ 広い視野で履修することを心がけることは大切ですが、その一方で、自分の卒論ゼミは、いわば自分のアイデンティティとなりますから、自分の卒論ゼミに関わる（関わりそうな）授業は貪欲に履修して欲しいと思います。例えば、一度履修して単位を得たものでも、次年度はテーマが変わることがありますので、そのような場合は、たとえ単位にならなくとも聴講するというような積極性が望まれます。
- ⑤ さらに大学院を目指そうという意欲のある学生に対しては、大学院の講義を履修できる制度もあります。興味・関心・意欲の伸長とともに、大学院進学を視野に入れるのも悪くないでしょう。

英米文学専攻

英
米

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
英文学史 A	1	◆	2	2	
米文学史 A	1	◆	2	2	
英語学概論 A	1	◆	2	2	
英文学史 B	1	◆	2	2	左記の科目群から2単位を修得することが必要。必要単位数を超えて修得した単位数は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。
米文学史 B	1	◆	2		
英語学概論 B	1	◆	2		
基礎演習（英米文学） A	1	◆	2	2	
基礎演習（英米文学） B	1	◆	2	2	
英米文学演習（2年） A	2	◆	2	2	振り分け結果で指定された教員のクラスを履修すること。それ以外のクラスを履修することはできない。A・B共に同じ教員のクラスを履修すること。
英米文学演習（2年） B		◆	2	2	
英米文学演習（3年） A	3	◆	2	2	3年次演習登録申請書を提出し、振り分け結果で指定された教員のクラスを履修すること。それ以外のクラスを履修することはできない。A、B共に同じ教員のクラスを履修すること。
英米文学演習（3年） B		◆	2	2	
英語演習 A	2	○	1	2	
英語演習 B		○	1		
英文学講読 A	2	◆	2	12	左記の科目群から12単位を修得することが必要（英文学講読 A から米文学講読 D まで）。必要単位数を超えて修得した単位数は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。
英文学講読 B	2	◆	2		
米文学講読 A	2	◆	2		
米文学講読 B	2	◆	2		
音声学 A	2~4	◆	2		
音声学 B	2~4	◆	2		
統語論 A	2~4	◆	2		
統語論 B	2~4	◆	2		
意味論 A	2~4	◆	2		左記の科目群から12単位を修得することが必要（英文学講読 A から米文学講読 D まで）。必要単位数を超えて修得した単位数は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。英文学講読 C・D はそれぞれ4単位まで履修可能。但し、同一科目名において同一教員の履修は不可。
英文学講読 C	3・4	◆	2		
英文学講読 C	3・4	◆	2		
英文学講読 D	3・4	◆	2		
英文学講読 D	3・4	◆	2		
米文学講読 C	3・4	◆	2		
米文学講読 C	3・4	◆	2		
米文学講読 D	3・4	◆	2		
米文学講読 D	3・4	◆	2	左記の科目群から12単位を修得することが必要（英文学講読 A から米文学講読 D まで）。必要単位数を超えて修得した単位数は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。米文学講読 C・D はそれぞれ4単位まで履修可能。但し、同一科目名において同一教員の履修は不可。	
卒業論文 I	4	◆	2		2
卒業論文 II	4	◆	2	2	卒業論文 I と共に同じ教員のクラスを履修すること。

英米文学専攻

英米

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1か国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(英米文学専攻)

履修上の留意点

卒業に必要な単位は**128単位以上**です。その内訳は、専攻必修科目38単位、外国語科目16単位、ウェルネス科目4単位、選択科目70単位以上となっています。以下では、英米文学専攻4年間のカリキュラム表に基づいて、履修の仕方について説明します。なお、科目名の後に付いているA・B・C・Dは開講学期を表し、AとCは春学期開講、BとDは秋学期開講のことで、英米文学専攻のクラス分けで使っているA組・B組・C組とは関係ありませんので注意して下さい。

1 「英語」科目群の履修の仕方：英語の運用能力を身に付ける

1～4年次を通して、英語の運用能力の向上を目的としたクラスが数多く開講されています。発信型英語力の養成として、スピーキング・ライティングが体系的・段階的に学習できるように、すべてのスピーキングクラスがネイティブ・スピーカーの先生方の担当でカリキュラムが構成されています。

1年次では1クラス十数名での「基礎演習A・B」で基本的なスピーキングの力をつけ、「Paragraph Writing A・B」ではまず、パラグラフレベルで英語を書く力を養成します。「English Communication Skills A・B」では、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの総合力を高めます。これらの科目はいずれも必修科目です。また、発信に必要な読解力を高めるため「上級英文解釈A・B」も選択科目として履修できます。

2年次では「Public Speaking A・B」で英語でのプレゼンテーションの練習をし、「Academic Writing A・B」ではエッセイのレベルまで書けるように力をつけます。「Academic Reading A・B」でさらに読解力を身に付け、「英語演習A・B」では集中してリスニングを行います。「Public Speaking A・B」以外はいずれも必修科目です。なお、「Public Speaking A・B」は必修科目ではありませんが、とても重要な科目ですので、学生の皆さん全員、通年で（A・B両方とも）履修して下さい。その他に、資格試験対策として「上級英語ⅠA・B」でTOEIC対策を行っています。

3年次以降も「Discussion and Debate A・B」でディスカッション・ディベートのレベルでのスピーキングを、そして「Essay Writing A・B」で英語でまとまった文章を書くことを学べるようになっています。「上級英語ⅡA・B」ではさらにTOEIC対策を進めていきます。すべてEnglish Language program（p. 26参照）の一環として履修を強く勧めています。

さらに、1～4年次を通じて「学部間共通外国語」を活用すれば会話だけでなく資格試験対策や国際理解のための授業も受けることができます。

2 専門科目の履修の仕方

(1) 英米文学専攻の専門分野

英米文学専攻の専門科目は、英文学・米文学・英語学の3分野に分けることができます。学生の皆さんは、専門分野の基礎を身に付けるために3分野の基礎科目をまず履修することになります。その後は、皆さんの興味と希望に基づいて履修科目を選択することになります。4年

次ではいずれかの分野で卒業論文作成を目指すこととなりますが、科目履修上は、上記3分野の中で1つの分野について深く勉強することも出来ますし、いずれか2つの分野又は3つすべての分野にまたがって勉強することも出来ます。以下では、お勧めする履修の仕方について説明しますので、自分で履修科目を決める際の参考にして下さい。

(2) 1・2年次「専門基礎科目群」：専門分野の基礎を身に付ける

専門分野の基礎を身に付ける科目（専門基礎科目）として、1年次に「英文学史A・B」・「英語学概論A・B」および「米文学史A・B」を通年で履修して下さい。また、「英米文学基礎研究A・B」は必修科目ではありませんが、文学研究の基礎を学ぶ上での大事な科目ですから、1年次に通年で履修されることをお勧めします。

(3) 2～4年次「専門科目群」：専門分野を深める

2～4年次にかけて、それぞれの専門分野をさらに深く理解するための「専門科目群」が用意されています。以下では、便宜上英米文学系科目と英語学系科目とを分けて説明しますが、上記で説明したように2つ以上の分野にまたがって勉強することも可能です。

（英米文学系科目）

2年次では、「英文学講読A・B」・「米文学講読A・B」があります。これらは作品の読解力を修得するのに必要な科目です。なお、1・2年次で、「専攻選択科目」の中から、「イギリス史A・B」・「アメリカ史A・B」・「西洋史概論A・B」・「西洋演劇史I A・B, II A・B」などを履修されることをお勧めします。これらは、作家や作品に関する歴史的背景への理解を深める上で大いに役立つはずです。

3年次では、「英作家作品研究A・B」・「米作家作品研究A・B」・「英文学講読C・D」・「米文学講読C・D」を履修することが必要です。さらに、自分の関心や希望にしたがって、「英米劇作家作品研究A・B」・「英米文化研究A・B」・「異文化理解I・II（英米）」などを履修されることをお勧めします。

（英語学系科目）

2年次では「音声学A・B」・「統語論A・B」・「意味論A・B」があります。これらは音声・統語（文法）・意味という英語学の核となる分野の基礎を身に付けるための科目です。英語学で卒業論文作成を考えている方は、1年次の「英語学概論A・B」と合わせて、1・2年次開講科目8科目（16単位）をすべて履修し、3・4年次開講の英語学系科目の中からなるべく多くの科目を履修するようにして下さい。また、英文学・米文学で卒業論文作成を目指しながら英語学についても学びたい方や他専攻に在籍しながら英語学についても学びたい方は、自分の関心や希望にしたがって、これら2年次開講科目の中から履修されることをお勧めします。

3・4年次では、英語学についての理解をさらに深める科目が用意されています。「英語学研究A・B」は中級音声学・中級統語論・コーパス言語学の中から毎年度2～3クラス開講されます。その他、「音韻・形態論A・B」・「語用論A・B」・「英語史A・B」・「社会言語学」・「心理言語学」があります。英語学で卒業論文作成を目指す方は、出来るだけ多くの科目を履修されることをお勧めします。なお、1～4年次を通じて「専攻選択科目」の中から、自分の関心や希望にしたがって、英語学以外の言語研究関連科目である「言語学A・B」・「国語学I A・

B]・「国語学Ⅱ A・B」・「国語学各説Ⅰ A・B」・「国語学各説Ⅱ A・B」・「ドイツ語学概論 A・B」・「ドイツ語学特殊研究 A・B」・「フランス語学概論 A・B」・「フランス語学特殊研究 A・B」などを履修されることをお勧めします。

3・4年次対象に「海外現地研修 A・B」が設置されています。

(4) 2・3年次「専門演習」：少人数制ゼミナール

2年次・3年次の必修科目として「英米文学演習（2年） A・B」, 「英米文学演習（3年） A・B」があり, 英文学・米文学・英語学について少人数ゼミナール形式で学びます。どの担当者のクラスを履修するかは, 学生の皆さんの希望に沿って決められます。「英米文学演習（3年） A・B」は専任教員全員が担当しており, 4年次「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」と密接に関連する科目ですから, 卒業論文の主題や勉強の仕方を展望に入れた上で希望する担当者を決める必要があります。但し, 履修希望者が定員を超えた場合, 希望に応じられない場合もありますから注意して下さい。3年次演習登録申請書を提出し, 振り分け結果で指定された教員のクラスを履修して下さい。それ以外のクラスは履修することはできません。英語学系のクラスでは, それまで単位取得済みの英語学系科目の単位数及びそれらの成績が, 選抜する際の材料となる場合があります。

(5) 卒業論文指導

4年次では, 最重要必修科目として「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」があります。これは3年次までに履修してきた科目の総合的成果を形にする科目です。身に付けたものすべてを遺憾なく発揮し, 4年間の勉強の集大成となるような卒業論文の完成を目指して下さい。どの担当者のクラスを履修するかは, 学生の皆さんの希望に沿って決められますが, 履修希望者が定員を超えた場合, 希望に応じられない場合もありますので注意して下さい。卒論主題報告書を提出し, 振り分け結果で指定された教員のクラスを履修して下さい。それ以外のクラスは履修することはできません。

英米文学専攻4年間のカリキュラム		1年	2年	3年	4年
「英語」科目群 (英語の運用能力を身に付ける)	スピーキング	基礎演習A・B <ベーシック・コミュニケーションスキル> [= eLP-S1]	Public Speaking A・B <パブリック・スピーキング> [= eLP-S2]	Discussion and Debate A・B [= eLP-S3]	
	ライティング	Paragraph Writing A・B [= eLP-W1]	Academic Writing A・B [= eLP-W2]	Essay Writing A・B [= eLP-W3]	
	リーディング	Communication Skills A・B [= eLP-R1]	Academic Reading A・B [= eLP-R2]		
	リスニング	上級英文解釈A・B [= eLP-L1]	英語演習A・B <AV教室でのリスニング> [= eLP-L2]	上級英語II A・B [= eLP-L3]	
	資格試験対策		上級英語I A・B <TOEIC対策入門講座>	上級英語II A・B <TOEIC対策上級講座>	
	学部間共通外国語	English Communication I A・B・C, English Communication II A・B・C, English Communication III A・B・C, 国際理解講座・(英語圏) A・B <留学・大学院進学準備>, 資格英語 <TOEIC・TOEFL等対策>			
専門基礎科目群 (専門分野の基礎を身に付ける)		英米文学基礎研究A・B 英文学史A・B 米文学史A・B		英米文化研究A・B	
		英語学概論A・B			
専門科目群 (専門分野を深める)		英文学系科目	英文学講読A・B	英文学講読C・D, 英作家作品研究A・B, 英米劇作家作品研究A・B, 異文化理解I・II (英米)	
		米文学系科目	米文学講読A・B	米文学講読C・D, 米作家作品研究A・B, 英米劇作家作品研究A・B, 異文化理解I・II (英米)	
		英語学系科目	音声学A・B (音声学入門) 統語論A・B (統語論入門) 意味論A・B (意味論入門)	英語学研究A・B (中級音声学・中級統語論・コーパス言語学入門), 音韻・形態論A・B, 語用論A・B, 英語史A・B, 社会言語学, 心理言語学, 海外現地研修A・B	
専門演習・卒業論文 (英文学・米文学・英語学の少人数制ゼミナール)		英米文学演習(2年)A・B	英米文学演習(3年)A・B	卒業論文指導I・II	
他専攻科目 (英米文学専攻以外で専門分野関連科目)		英米文学以外の文学関連科目	イギリス史A・B (隔年開講), アメリカ史A・B (隔年開講) 西洋史概論A・B, 西洋演劇史I A・B, II A・B	比較文学A・B	
		英語学以外の言語研究関連科目	ドイツ語学概論A・B, フランス語学概論A・B	国語学II A・B, 国語学各説II A・B, ドイツ語学特殊研究A・B, フランス語学特殊研究A・B	
			国語学I A・B, 国語学各説I A・B, 言語学A・B		

下記の時間割表には、必修科目及び履修を強く勧める科目のみ書いてあります。空欄に各自で選択した科目を組んで下さい。

2017年度英米文学専攻1年次時間割表(参考)

	月	火	水	木	金
1	未習外国語 上級英文解釈A・B	基礎演習A・B	ウェルネススポーツA・B	Communication Skills A・B	ウェルネスライフ論 (春学期のみ) 上級英文解釈A・B 上級英語I A・B
2		基礎演習A・B		英文学史A・B	
3		基礎演習A・B Paragraph Writing A・B	上級英語I A・B	英語学概論A・B	
4	上級英語I A・B	基礎演習A・B Paragraph Writing A・B	上級英語I A・B	未習外国語	
5	上級英語I A・B	上級英語I A・B	米文学史A・B	上級英文解釈A・B	
6					
7					

* 「上級英語I A・B」は月4・月5・火5・水3・金1のいずれか

* 「上級英文解釈A・B」は月1・木5・金1のいずれか

* 「基礎演習A・B」は火1・火2・火3・火4のいずれか

ドイツ文学専攻

ドイツ

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考	
ドイツ文学史 A	1・2	◆	2	2		
ドイツ文学史 B	1・2	◆	2	2		
ドイツ語演習 I A	1	○	1	1		
ドイツ語演習 I B	1	○	1	1		
基礎ドイツ語会話 A	1	◆	2	2		
基礎演習(ドイツ語圏文化) A	1	◆	2	2		
基礎演習(ドイツ語圏文化) B	1	◆	2	2		
ドイツ文化演習 A	2~4	◆	2	2	A・Bそれぞれ6単位まで履修できるが、最低1つは同一年度内に同一教員の演習をA・Bセットで履修すること。4単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。	
ドイツ文化演習 B	2~4	◆	2	2		
ドイツ文学演習 A	2~4	◆	2	2	A・Bそれぞれ6単位まで履修できるが、最低1つは同一年度内に同一教員の演習をA・Bセットで履修すること。4単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。	
ドイツ文学演習 B	2~4	◆	2	2		
ドイツ語演習 II A	2	○	1	1		
ドイツ語演習 II B	2	○	1	1		
ドイツ語演習 III A	3・4	○	1	12	左記科目群から12単位を修得することが必要(ドイツ語演習 III A からドイツ作家作品研究 B まで)。必要単位数を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。	
ドイツ語演習 III B	3・4	○	1			
ドイツ語演習 IV A	3・4	○	1			
ドイツ語演習 IV B	3・4	○	1			
ドイツ文学講読 A	2~4	◆	2			
ドイツ文学講読 B	2~4	◆	2			
ドイツ文学講読 C	2~4	◆	2			
ドイツ文学講読 D	2~4	◆	2			
ドイツ作家作品研究 A	3・4	◆	2			
ドイツ作家作品研究 B	3・4	◆	2			
卒業論文 I	4	◆	2			2
卒業論文 II	4	◆	2			2

ドイツ文学講読 A・B・C・D は合わせて12単位まで履修可能。ただし和泉キャンパスで4単位、駿河台キャンパスで8単位を上限とする。

ドイツ作家作品研究 A・B は合わせて12単位まで履修可能。

ドイツ文学専攻

ドイツ

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	ドイツ語を必修とし、英語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(ドイツ文学専攻)

履修上の留意点

卒業に必要な単位は卒業要件単位128単位以上です。その内訳は、

- ① 外国語科目16単位（ドイツ語ともう一つの外国語を8単位ずつ）、
- ② ウェルネス科目4単位
- ③ 専攻必修科目38単位
- ④ 選択科目70単位以上（詳細は学部便覧参照のこと）。

専攻必修科目には、複数開講されている同一名の科目からいくつか選択して履修する選択必修科目と、それをかならず履修しなければならない必修科目とがあります。以下ドイツ文学専攻「1～4年次カリキュラム表（参考）」に基づいて、履修の仕方を説明します。なお、専門科目名の後についているA・BとC・Dは開講学期を表し、AとCは春学期開講、BとDは秋学期開講を意味します。

I 1～4年次カリキュラム表（参考）

ドイツ文学専攻カリキュラム		1年	2年	3年	4年
外国語科目群	グラマー リーディング	ドイツ語ⅠA・B ドイツ語ⅡA・B	ドイツ語ⅢA・B ドイツ語ⅣA・B		
共通選択科目	リーディング		中級ドイツ語ⅠA・B	中級ドイツ語ⅡA・B	
学部間共通外国語		ドイツ語会話ⅠA・B/ドイツ語会話ⅡA・B/ドイツ語会話ⅢA・B 資格ドイツ語/国際理解講座			
ドイツ語力養成科目群	リーディング ライティング	ドイツ語演習ⅠA・B	ドイツ語演習ⅡA・B	ドイツ語演習ⅢA・B/ドイツ語演習ⅣA・B	
	スピーキング リスニング	基礎ドイツ語会話A 基礎ドイツ語会話B	ドイツ語作文・会話ⅠA・B	ドイツ語作文・会話ⅡA・B/ドイツ語表現法A・B	
ドイツ語圏文学-文化関連科目群	講義	ドイツ文学史A・B		ドイツ文学史特講A・B	
				異文化理解Ⅰ・Ⅱ	
	演習	基礎演習（ドイツ語圏文化）A・B	ドイツ文化演習A・B/ドイツ文学演習A・B		
	講読		ドイツ文学講読A・B	ドイツ文学講読C・D	
	研究			ドイツ作家作品研究A・B	
			ドイツ文化研究A・B		
			ドイツ社会誌研究A・B		
			ドイツ文学特殊研究A・B		
ドイツ語学関連科目群	講義/研究		ドイツ語学概論A・B	ドイツ語学特殊研究A・B	
卒業論文				(卒業論文予備ゼミ)	卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻外設置科目群		ドイツ史A・B/西洋演劇史A・B/戯曲作品研究A・B/ 文学概論A・B/芸術学A・B		近代演劇論A・B/現代西洋演劇論A・B/ 比較文学A・B/言語学A・B	

*表中の濃い網掛け部分は「必修科目」で、薄い網掛け部分は「選択必修科目」。その他網掛けのない部分は「選択科目」です。また、「学部間共通外国語」の科目は卒業要件外の単位としてのみ認められます。

II 外国語科目としてのドイツ語の履修の仕方

<1年次のドイツ語>ドイツ文学専攻の学生は、ドイツ語8単位とそれ以外の外国語（英語が望ましい）8単位を取得しなければなりません。「ドイツ語ⅠA・B」,「ドイツ語ⅡA・B」は、クラス担任による週2回のドイツ文学専攻1年生用の授業を履修します。また、入学時に申請したドイツ語以外のもう一つの外国語が、この専攻用のドイツ語と時間割上重なる場合、文学部の窓口に応し出てください。

なお、この「ドイツ語ⅠA・B」,「ドイツ語ⅡA・B」および専攻設置の必修科目「基礎ドイツ語会話A」と「ドイツ語演習ⅠA・B」の合計8単位のうち、取得単位数が4単位未満の人は、2年次において「ドイツ語演習ⅡA・B」以外の専攻設置科目を履修登録できません。

<2年次のドイツ語>「ドイツ語ⅢA・B」,「ドイツ語ⅣA・B」も、週2回のドイツ文学専攻用の授業を履修しなければなりません。

<再履修>各年次ドイツ語の単位を取得できなかった場合、再履修しなくてはなりません。「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」は、必ず「ドイツ語Ⅰ(ド1B)」とその年度に指定された「ドイツ語Ⅰ(再履修)」の組合せから再履修すること。「ドイツ語Ⅲ,Ⅳ」は、「ドイツ語Ⅲ(ド2B)」とその年度に指定された「ドイツ語Ⅳ(再履修)」の組合せから再履修すること。

III その他の外国語およびウェルネス

特に英語とウェルネスでは、履修の条件が細かく決められているので、詳細を本便覧当該ページなどで確認し、あわせて各科目の履修説明会に必ず参加してください。

IV 専門科目の履修の仕方

ドイツ文学専攻の専攻設置科目は、

- ① ドイツ語力養成科目
- ② ドイツ語圏文学-文化関連科目
- ③ ドイツ語学関連科目

の3分野に大別できます。学生は、専門の基礎を身につけるために、これら3分野の基礎科目をまず履修します。その後は、主に各自の興味に基づき履修する科目を選択し、4年次では広い意味でのドイツ語学・文学・文化の分野で卒業論文を書くこととなります。ただし、3分野は、必ず履修しなければならない専攻必修科目（必修科目・選択必修科目）と選択科目とに分かれています。

また、3分野のうちドイツ語力養成科目は、すべての分野の研究にとって最も大事な基盤を作る科目ですから、特に1・2年次には力を入れて学習し、できるだけ3・4年次にも履修することを強く勧めます。また、実践的なドイツ語力を身につけたい人は、ランゲージプログラムに参加して下さい。以下、履修の仕方について説明しますので、各自の学習・研究計画作成の参考にしてください。

なお、「ドイツ語演習ⅡA・B」以外の2年次専攻設置科目は、上述の通り、1年次外国語科目の「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」および専攻設置科目の「基礎ドイツ語会話A」と「ドイツ語演習ⅠA・B」の計8単位のうち、取得単位数4単位未満の人は履修を認めません。

<1・2年次で専門の基礎を身につける>専攻必修科目のうち必修科目はすべて専門の基礎

科目です。これら必修科目（1年次の「ドイツ語演習ⅠA・B」,「基礎ドイツ語会話A」,「ドイツ文学史A・B」と「基礎演習（ドイツ語圏文化）A・B」,2年次の「ドイツ語演習ⅡA・B」）は,「基礎ドイツ語会話A」（春学期）を除き,すべて通年履修する科目です。2年次の専攻設置科目は,上記一つを除いてすべて選択必修科目および選択科目になります。

なお,「基礎ドイツ語会話B」は形式上選択科目ですが,実力養成の観点から,可能な限り「基礎ドイツ語会話A」と合わせ通年履修することを強く勧めます。

<2～4年次専門科目群>2～4年次にかけて,それぞれの分野を深めるための専門科目が用意されています。

〔ドイツ語力養成科目〕2年次「ドイツ語演習ⅡA・B」は必修科目ですが,「ドイツ語作文・会話ⅠA・B」は選択科目です。3・4年次の「ドイツ語演習ⅢA・B」,「ドイツ語演習ⅣA・B」は選択必修科目,「ドイツ語作文・会話ⅡA・B」,「ドイツ語表現法A・B」は選択科目です。

〔ドイツ文学関連科目〕2～4年次には選択必修の「ドイツ文学講読A・B」,「ドイツ文学講読C・D」,「ドイツ文化演習A・B」,「ドイツ文学演習A・B」が用意されています。これらはみな卒業論文作成に必要な基礎を習得する科目です。ただし,和泉キャンパス開講の科目は,原則として2年生用のものです。

3・4年次には選択必修科目の「ドイツ文学講読C・D」,「ドイツ文化演習A・B」,「ドイツ文学演習A・B」,「ドイツ作家作品研究A・B」,選択科目の「ドイツ文化研究A・B」,「ドイツ社会誌研究A・B」,「ドイツ文学特殊研究A・B」,「ドイツ文学史特講A・B」,「異文化理解（ドイツ）Ⅰ・Ⅱ」があります。

選択必修科目中「ドイツ文化演習A・B」と「ドイツ文学演習A・B」だけは,それぞれ最低4単位の取得が義務付けられており,上限12単位まで履修できますが,内訳はAを6単位,Bを6単位でなければなりません。ただし,最低1つは同一年度内に同一教員の演習をA・Bセットで履修して下さい。

〔ドイツ語学関連科目〕2年次に用意されている「ドイツ語学概論A・B」は,和泉キャンパスのみでの開講であり,ドイツ語を理論的・歴史的に概観する基礎的な科目ですから,選択科目ではあっても2年次に履修することを強く勧めます。3・4年次には「ドイツ語学特殊研究A・B」が用意されています。これは「概論」が一般知識をねらったものに対し,ドイツ語のより専門的な理論的・歴史的理解を導くのがねらいです。

V 大学院設置科目および専攻外設置科目（他専攻・他学科・共通選択科目など）

3・4年次で専門分野をさらに深く学びたい人は,大学院設置科目を4科目8単位まで選択科目として履修することが可能です。ただし,履修の条件がありますので,詳細は別途さだめる規定を参照してください。

他専攻や他学科が設置する科目には,ドイツ文学をさらに大きなパースペクティブに置いて理解する上で,非常に有益な科目があります。例えば,西洋史学専攻設置の「ドイツ史A・B」はできるだけ全員が履修することを強く勧めますし,日本文学・フランス文学・演劇学・文芸メディアの設置科目も示唆に富むはずですので,選択科目として積極的に履修してください。また大学院科目や他専攻・他学科の設置科目ではない共通選択科目にも,有益な科目を多く見つけることができるはずです。積極的履修が望まれます。

Ⅵ 卒論予備ゼミ（3年）、卒業論文指導（4年）および卒論提出に必要な単位数

3年次秋学期の11月中旬頃に、「卒論予備ゼミ」を設け、4年次での卒業論文作成に向けた指導を具体的に開始します。これは単位のある科目ではない特設のゼミですが、3年生は必ず全員登録してください。しかるべき時期に、このためのガイダンスをおこないます。指導教員は、原則として学生各自の希望テーマと教員の専門分野を勘案して決定されます。ただし、予備ゼミの指導教員が4年次の卒論指導教員となることを必ずしも意味しません。

4年次での「卒業論文」は、各自取り組んできた学習・研究の集大成である卒業論文を書くための必修科目です。このためのガイダンスは4月中に開きます。どの指導教員のクラスに入るかは、原則として各自の希望を尊重して決定されます。ただし、履修希望者がクラスの定員を超えた場合、希望に応じられないこともあります。また、「卒業論文」以外の卒業要件単位をすでに取得していても、「卒業論文」と同時に、指導教員の担当しているその他の駿河台開講授業を必ず一つは履修すること。（Ⅶ参照）

4年次に「卒業論文」指導を受け卒論を提出するには、3年次までの卒業要件単位の取得単位数が80単位以上なければなりません。これを下回る場合は、原則として「卒業論文」は履修できないことを銘記しておいてください。

Ⅶ 卒業論文の履修にあたって

「卒業論文」を履修するにあたって、それと同時に、卒論指導教員の担当する駿河台開講授業を必ず履修することを強く求めます（Ⅵ参照）。その際、履修科目は「ドイツ文化演習A・B」もしくは「ドイツ文学演習A・B」を原則とし、特別の理由のある場合に限り、これを他の科目に替えることができます。「演習」は原則としてすべて専任教員が担当しますので、「卒業論文」と合わせてこれを履修することが、論文の指導をより効果的かつ円滑にするからです。

Ⅷ 同一名の科目の重複履修が可能な場合および卒業論文と同一曜日・時限の授業

「ドイツ文学講読」、「ドイツ文化演習」、「ドイツ文学演習」、「ドイツ作家作品研究」、「ドイツ文学史特講」（隔年開講）は、毎年内容が変わるので、同じ科目名・同一担当者であっても複数回履修することができます。これ以外は重複履修することはできません。

「卒業論文」と同一曜日・時限にある専攻設置科目は、特別の事由がある場合、卒論指導教員自書の理由書を学部事務室に提出することにより、履修することができます。できるだけ重ならないよう時間割を組んでいますが、場合によってはやむなく重なることもありうるので、事前に担任や指導教員と協議することが求められます。

Ⅸ イェーナ大学・ジューゲン大学・ウィーン大学への留学およびウィーン大学夏期語学研修

希望する学生は、ドイツおよびオーストリアの上記大学へ1学期間から最大1年間協定校留学できる制度があります。ただし、留学前までの良好な成績を条件とし、面接試問を通過した人のみです。

オーストリアのウィーン大学夏期語学講習へは、各学年の希望者全員が参加できます。詳細は、国際教育事務室に問い合わせてください。

フランス文学専攻

フ
ラ
ン
ス

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
フランス文学史A	1・2	◆	2	8	左記の科目群から8単位を修得することが必要。8単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。
フランス文学史B	1・2	◆	2		
基礎フランス語講読A	1	◆	2		
基礎フランス語講読B	1	◆	2		
フランス語学概論A	2	◆	2		
フランス語学概論B	2	◆	2		
基礎演習(フランス文学)A	1	◆	2	2	
基礎演習(フランス文学)B	1	◆	2	2	
フランス文学演習(2年)A	2	◆	2	8	左記の科目群から8単位を修得することが必要。8単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。
フランス文学演習(2年)B	2	◆	2		
フランス文学演習(3・4年)A	3・4	◆	2		
フランス文学演習(3・4年)B	3・4	◆	2		
フランス文学演習(3・4年)A	3・4	◆	2		
フランス文学演習(3・4年)B	3・4	◆	2		
フランス語学演習A	3・4	◆	2		
フランス語学演習B	3・4	◆	2		
基礎フランス語会話I A	1	◆	2	4	左記の科目群から4単位を修得することが必要。4単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。
基礎フランス語会話I B	1	◆	2		
基礎フランス語会話II A	1	◆	2		
基礎フランス語会話II B	1	◆	2		
中級フランス語会話I A	2	◆	2	10	左記の科目群から10単位を修得することが必要。10単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。
中級フランス語会話I B	2	◆	2		
中級フランス語会話II A	2	◆	2		
中級フランス語会話II B	2	◆	2		
中級フランス語講読A	2	◆	2		
中級フランス語講読B	2	◆	2		
フランス語圏文学講読A	3・4	◆	2		
フランス語圏文学講読B	3・4	◆	2		
フランス語圏文学講読A	3・4	◆	2		
フランス語圏文学講読B	3・4	◆	2		
フランス語圏思想A	3・4	◆	2		
フランス語圏思想B	3・4	◆	2		
文学研究方法論A	3・4	◆	2		
文学研究方法論B	3・4	◆	2		
フランス語学研究A	3・4	◆	2		
フランス語学研究B	3・4	◆	2		
卒業論文I	4	◆	2	2	
卒業論文II	4	◆	2	2	

フランス文学専攻

フ
ラ
ン
ス

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	フランス語を必修とし、英語・ドイツ語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(フランス文学専攻)

履修上の留意点

卒業に必要な単位は128単位です。内訳は以下のとおりです（本便覧17ページも参照）：

(1) 必修科目（合計58単位）

- ① 専攻必修科目（38単位）、② 外国語科目（16単位）③ ウェルネス科目（4単位）
 （外国語科目はフランス語が必須。もう一つの外国語は英語を取るよう指導しています）

(2) 選択科目（70単位以上）

- ① 専攻選択科目 A（12単位以上）フランス文学専攻の選択科目
 ② 専攻選択科目 B（最低取得単位制限はない）他専攻設置科目
 ③ 共通選択科目（24単位以上）一般教養科目

（選択科目 A、B 及び共通選択科目を併せて48単位以上必要）

- ④ その他、余分に取得した必修や上記選択科目、学部間共通外国語の一部、他学部設置科目、3年次から大学院設置科目（8単位以内）なども卒業要件に算入することができます。また、卒業要件単位に入りませんが、4年から大学院先取り履修が可能です。

I. フランス文学専攻の1～4年次の新カリキュラム表（参考）

濃い網かけの科目は専攻必修科目（選択必修を含む）

薄い網かけの科目は専攻選択科目 A

		1年次	2年次	3年次	4年次
	検定目標	仏検3級・DELF B1	仏検準2級・DELF A2	仏検2級・DELF B1	検準1級・DELF B2
実用 フランス語 関係科目	文法・構文	フランス語ⅠA・B フランス語ⅡA・B	フランス語ⅢA・B フランス語ⅣA・B		
	リーディング	基礎フランス語講読A・B (2クラス)	中級フランス語講読A・B(2クラス)	上級フランス語講読A・B	特別資格フランス語A・B
	リスニング スピーキング	基礎フランス語会話ⅠA・B 基礎フランス語会話ⅡA・B (各2クラス)	中級フランス語会話ⅠA・B 中級フランス語会話ⅡA・B (各2クラス)	上級フランス語会話ⅠA・B 上級フランス語会話ⅡA・B	特別フランス語会話A・B
	ライティング		中級フランス語作文A・B	上級フランス語作文A・B	
専門科目	フランス語学	言語学A・B	フランス語学概論A・B	フランス語学研究A・B	
	文学	フランス文学史A・B		フランス語圏文学講読A・B 文学研究方法論A・B	
	思想	(共通選択：西洋思想史)		フランス語圏思想A・B	
	文化・歴史	フランス文化研究A・B、 フランス史A・B、他		異文化理解Ⅰ・Ⅱ(フランス) フランス語圏表象文化Ⅰ フランス語圏表象文化Ⅱ	現代フランス文化研究 ロマンス語圏研究
演習(ゼミ)・卒論	基礎演習(フランス文学)A・B	フランス文学演習(2年)A・B	フランス文学演習(3・4年)A・B フランス語学演習A・B	卒論指導	

フランス文学専攻の選択肢の多様性

左記の表のとおり、フランス文学専攻の科目は、多様な選択肢を持つ独自のカリキュラムによって編成されています。フランス語の運用能力を身につけることを最優先させたい、フランス語という言語について考えていきたい、文学や思想について研究したい、フランスやフランス語圏の文化について幅広く学んでいきたい、これらすべてに触れていきながら、自分が特に興味ある部分に力を入れていくことができます。

II. 実践的なフランス語を身につけるランゲージ・プログラム (LP)

フランス語を習得していくには、文法を学んでいくだけでなく、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの能力をバランスよく向上させていく必要があります。そして、仏検やフランスの文部省が設置している DELF や TCF の検定をめざすことも、ひとつの励みとなるはずです。(網掛け部分は厳密には LP 科目ではありませんが、運用能力の向上に役に立ちます)

レベル		科目名	内容・目標
Step1 1年次	文法	フランス語ⅠA・B, ⅡA・B (週2回)	基礎文法をしっかり学ぶ, 簡単な文章を書く。
	読む	基礎フランス語講読A/B	フランス語が音読できる, 簡単な文章が理解できる。
	聞く 話す	基礎フランス語会話ⅠA/B 基礎フランス語会話ⅡA/B	基礎的な日常会話, 旅行会話を身につける。
	その他	学部間共通外国語, とくにネイティブスピーカーによる夏期集中講座を推奨	
検定目標: 仏検3級, TCF Niveau 2 (200点以上) DELF A1			
Step2 2年次	文法	フランス語ⅢA・B, ⅣA・B (週2回)	中級文法の授業。フランス語の一通りの時制と用法, 主な文法事項を習得する。
	読む	中級フランス語講読A/B	時事問題や文化的な事柄に関するやさしい文章が読める, 広範な語彙や構文を習得する。
	書く	中級フランス語作文A/B	様々は目的の手紙(出来事や指示を伝える, 招待する, 断るなど)や小論文形式の短い意見文を書く。
	聞く 話す	中級フランス語会話ⅠA/B 中級フランス語会話ⅡA/B	自分について語り, 場所や出来事を説明する。相手と協力して計画をたてるなどのことができる。
	その他	フランス語とはどういう言語なのかを学ぶ「フランス語学概論」を推奨 ネイティブスピーカーによる夏期集中講座の上級クラスも推奨	
検定目標: 仏検準2級~2級, TCF Niveau 3 (300点以上), DELF A2			
Step3 3年次	読む	上級フランス語講読A/B	パンフレットや新聞記事等の展開を把握して, 文章の重要な情報が抽出でき, それに応じた対応ができる。
	書く	上級フランス語作文A/B	自己紹介, 伝記を書く, 依頼や抗議などの改まった手紙を書く, 社会問題などについて小論文を書く。
	聞く 話す	上級フランス語会話ⅠA/B 上級フランス語会話ⅡA/B	状況や重要な情報が聞き取れる, 困った場面で切り抜かれる。ある文章について自分の意見を述べる。
	その他	フランス語を言語学の観点から分析・研究する「フランス語学研究」と学部間共通外国語の「国際理解講座・フランス語圏A・B」なども履修できる。	
検定目標: 仏検2級~準1級, TCF Niveau 4 (400点以上), DELF B1~B			

Step4 4年次	読む 書く	特別資格フランス語A/B	上級の資格試験で要求される高度なフランス語の読解力を養う（3年次でも履修可能）
	聞く 話す	特別フランス語会話A/B	DELFに向けた聞き取りの強化と会話を中心にフランス語の運営能力を高める。
		卒業論文I・II	フランス語で卒業論文を作成
検定目標：仏検準1級，TCF Niveau 5（500点以上），DELF B2			

上記のプログラムの Step 3 まで修了すれば、フランス人と話ができ、会社などで連絡の手紙が書け、フランスに行っても困らないで生活ができるようになるはずです。さらに Step 4 では卒業論文をフランス語で書くこともできます。

フランス文部省の CIEF が運営している DELF や TCF は、EU（ヨーロッパ連合）が設定している基準にしたがって、6 レベル（Niveau）あります。Niveau 3 の DELF B1 や TCF Niveau 3 か 4 はフランスの大学が協定校留学などの際に求めることが多い資格です。

なお、高校でフランス語を勉強してきた学生のために、1～2年次は既習者用プログラムがありますので、ガイダンス時に専任教員と相談してください。

Ⅲ. フランス文学，フランス語学，フランス思想，フランス文化関係の科目履修について

語学関係科目も含めて、必修科目の履修については、本便覧のフランス文学専攻必修科目表と照らし合わせて、必修科目の各枠の単位数を満たすように注意してください。

科目名称に「フランス語圏」とついている科目がありますが、フランス語が公用語となっている国は、フランス、ベルギー、スイス、カナダ、アフリカ諸国など、併せて32カ国あります。他にもフランス語を話す人口が多い北アフリカや東欧の地域があり、全世界で2億人以上がフランス語を話すと言われています。フランス文学や思想、文化はこれらの国や地域の豊かな貢献なくしては語れない現状となっているため、名称を変更しました。

1. 演習（ゼミ）と卒論について

最初に掲げた表の一番下をみると、各学年に演習が設置してあることがわかります。これは、少人数のゼミ形式の授業です。1年次の基礎演習は最初からクラス分けしてありますが、2年次以降は、自分でクラスが選べます。演習は、教員も自由に授業方式を決めていますが、共通して自分で調べ、考え、発表していく能力を身につけることを主眼としています。3・4年次の演習は選択範囲が広く、また複数の演習が履修できるようになります。

3年次の演習を踏まえて、4年次になると指導教員を決めて、卒論を書きます。たいへんそうに聞こえるかもしれませんが、それまでの蓄積もあり、自分で取り組んで挑戦した卒論は、先輩たちにとって大きな自信となり、思い出となっているようです。

2. 文学関係科目について

フランス文学は世界的に有名な多くの作家・作品を輩出し、歴史、思想、芸術の領域にも大きな影響を与えています。ですから1～2年次に必ずフランス文学史を履修してください。文

学だけでなく、フランスの文化・思想も含めた歴史を鳥瞰しておくことは、その後の全ての科目を理解するためにも重要です。より専門的に文学を学びたい人は、文学関係の演習科目を取ることを勧めます。

3. フランス語学（言語学）関係科目について

フランス語とはどのような特徴を持った言語なのかを学ぶフランス語学関係の科目はフランス語の習得にも役に立ちますが、卒論の対象にもなる専門分野でもあります。この領域に興味がある学生は1年次の「言語学A・B」などの科目も履修し、2年次の「フランス語学概論」、3・4年次の「フランス語学研究」と「フランス語学演習」の履修を勧めます。

4. フランス文化関係科目について

1～2年次は演習で基礎的な知識を身につけるほか、「フランス文化」の授業が設定されています。3～4年次には複数の半期科目があります：芸術、映画、演劇の領域を対象とした「フランス語圏表象文化ⅠとⅡ」、広く社会のことを学んでいく「現代フランス研究」、同じラテン系の言語を使用するイタリアなどの文化について学ぶ「ロマンス語圏研究」、「異文化理解（フランス）Ⅰ・Ⅱ」があります。学部間共通選択科目の「フランス研究講座」の履修も勧めます。

5. 思想関係科目

「フランス語圏思想A・B」という科目があります。思想に興味がある学生は1～2年次に「西洋思想史A・B」などの関連科目を履修することを勧めます。

IV. 夏期フランス語研修と留学について

毎年和泉キャンパスで、ネイティブスピーカーの教師による「夏期集中フランス語講座」（初級～上級）が行われるほか、南仏のトゥルーズにおける一カ月間の夏期フランス語研修が開催され、全学年の学生が参加できます。

2015年度から、パリ国立デイドロ大学での2～3週間の春期講習が実施されています。

そのほかに、2年次から、語学研修も兼ねた認定校留学制度があり、大学間協定校（フランス：パリ第7大学、リヨン第3大学など8校、カナダ：モントリオール大学）、学部間協定校（フランス：ボルドー・モンテーニュ大学）への留学制度もあります。興味がある学生は、国際教育事務室のほか、専任教員にも相談してください。

演劇学専攻

演劇

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
演劇概論 A	1・2	◆	2	22	左記の科目群から22単位を修得することが必要。必要単位数を超えて修得した単位は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。
演劇概論 B	1・2	◆	2		
戯曲作品研究 A	1・2	◆	2		
戯曲作品研究 B	1・2	◆	2		
日本演劇史 I A	1・2	◆	2		
日本演劇史 I B	1・2	◆	2		
日本演劇史 II A	1・2	◆	2		
日本演劇史 II B	1・2	◆	2		
日本演劇史 III A	3・4	◆	2		
日本演劇史 III B	3・4	◆	2		
西洋演劇史 I A	1・2	◆	2		
西洋演劇史 I B	1・2	◆	2		
西洋演劇史 II A	1・2	◆	2		
西洋演劇史 II B	1・2	◆	2		
西洋演劇史 III A	3・4	◆	2		
西洋演劇史 III B	3・4	◆	2		
基礎演習（演劇学） A	1	◆	2	2	A と B は同じ教員のクラスを履修すること。
基礎演習（演劇学） B	1	◆	2	2	
演劇学演習（2年） A	2	◆	2	2	A と B は同じ教員のクラスを履修すること。
演劇学演習（2年） B	2	◆	2	2	
演劇学演習（3年） A	3	◆	2	2	A と B は同じ教員のクラスを履修すること。
演劇学演習（3年） B	3	◆	2	2	
卒業論文 I	4	◆	2	2	
卒業論文 II	4	◆	2	2	

演劇学専攻

演劇

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1か国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(演劇学専攻)

履修上の留意点

1年次

各自、シラバスを良く読んで履修すべき科目を確認してください。

基礎演習（演劇学）A・Bについては、シラバスを読んだ上で希望クラスを決め、事務からの指示に従って期日までにウェブ上で抽選申込をしてください。

その後、決定した教員名を掲示するので、各自自分の基礎演習（演劇学）の所属クラスを確認してから履修登録してください。

2年次

2年次までに履修すべき科目を各人の条件にあわせて十分確認してください。

演劇学演習（2年）A・Bについては、シラバスを読んだ上で希望クラスを決め、事務からの指示に従って期日までにウェブ上で抽選申込をしてください。

その後、決定した教員名を掲示するので、各自自分の演劇学演習（2年）A・Bの所属クラスを確認してから履修登録してください。

3年次

4年次の就職活動や卒業論文に備え、履修単位数に間違いがないよう再度確認してください。

総履修単位数だけでなく、必修科目、専攻選択科目、共通選択科目それぞれに必要な単位数を、成績通知表であらためて確認してください。

4年次の卒業論文指導について、秋学期（11月～12月頃）に説明会を開くので、必ず出席してください。希望する指導教員と、論文のテーマ等についても考えておいてください。各教員の指導分野についてはシラバスを参照してください。

4年次

自分の希望する卒業論文指導教員による4月初回の授業には必ず出席し、指導教員と相談した上で履修登録をしてください。

必修科目の単位が未履修で、その科目と卒業論文の授業時間が重複する場合は、希望する卒業論文指導教員に相談してください。特別に認める場合もあります。

演習科目について

基礎演習（演劇学）、演劇学演習（2年）、演劇学演習（3年）の演習科目は、A（春学期）、B（秋学期）ともに同一教員による演習を、同一年度内に継続して履修してください。

文芸メディア専攻

文
メ

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
文芸メディア概論A	1・2	◆	2	2	
文芸メディア概論B	1・2	◆	2	2	
表現・創作 I A	1・2	◆	2	2	
表現・創作 I B	1・2	◆	2	2	
基礎演習（文芸メディア）A	1	◆	2	2	
基礎演習（文芸メディア）B	1	◆	2	2	
文芸メディア演習（2年）A	2	◆	2	2	8単位まで履修可能。4単位は必修で、4単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
文芸メディア演習（2年）B	2	◆	2	2	
文芸メディア演習（3・4年）A	3・4	◆	2	2	12単位まで履修可能。4単位は必修で、4単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
文芸メディア演習（3・4年）B	3・4	◆	2	2	
日本文芸思潮史A	3・4	◆	2	2	それぞれ6単位まで履修可能。それぞれ2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
日本文芸思潮史B	3・4	◆	2	2	
外国文芸受容史	3・4	◆	2	2	6単位まで履修可能。2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
テキスト研究A	2～4	◆	2	2	それぞれ10単位まで履修可能。それぞれ2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
テキスト研究B	2～4	◆	2	2	
テキスト講読A	2～4	◆	2	2	それぞれ10単位まで履修可能。それぞれ2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
テキスト講読B	2～4	◆	2	2	
卒業論文・卒業制作 I	4	◆	2	2	
卒業論文・卒業制作 II	4	◆	2	2	

文芸メディア専攻

文
メ

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1か国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(文芸メディア専攻)

履修上の留意点

- ① 文芸メディア専攻の授業の種類は、大きく、「講義科目」と「演習科目」に分けられますが、「演習」の授業は、基本的に学生の発表を中心として運営されます。選択した素材（テキストなど）について、発表者の学生の興味・関心に引き寄せた問題提起・調査・研究・発表をもとに、参加学生の質疑応答を重ねて、問題意識を深めつつ問題点究明を行う場です。したがって、より積極的な授業参加の姿勢が求められます。
- ② 演習科目は、A（春学期）とB（秋学期）を同一教員で同一年度に継続して履修すること。
- ③ 「表現・創作 I A・B」は「演習科目」に準ずる科目なので、②と同様の履修法に従う。
- ④ 卒業論文・卒業制作は I・II は、同一教員を選ぶこと。
- ⑤ 履修可能単位数について、科目配当表の備考欄にも示してありますが、以下にも示しますので、確認して下さい。
 - ・「文芸メディア演習（2年）A・B」－8単位まで履修可能。4単位は必修で、4単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
 - ・「文芸メディア演習（3・4年）A・B」－12単位まで履修可能。4単位は必修で、4単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
 - ・「日本文芸思潮史A・B」－それぞれ6単位まで履修可能。それぞれ2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
 - ・「外国文芸受容史」－6単位まで履修可能。2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
 - ・「テキスト研究A・B」－それぞれ10単位まで履修可能。それぞれ2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
 - ・「テキスト講読A・B」－それぞれ10単位まで履修可能。それぞれ2単位は必修で、2単位を超えて修得した単位は選択科目の単位として認定される。
- ⑥ 文芸メディア専攻の必修科目・選択必修科目として指定してある科目（「表現・創作 I A・B」, 「日本文芸思潮史A・B」, 「テキスト講読A・B」, 「文芸メディア演習A・B」, 「テキスト研究A・B」など）は、中学校・高等学校教諭1種免許状「国語」を修得するための、必要とする授業単位に対応しています。詳細は「資格課程案内」等を参照して下さい。

日本史学専攻

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
史学概論 A	1・2	◆	2	2	
史学概論 B (日本史)	1・2	◆	2	2	
日本史概論 A	1・2	◆	2	2	
日本史概論 B	1・2	◆	2	2	
基礎演習 (日本史) A	1	◆	2	2	
基礎演習 (日本史) B	1	◆	2	2	
史料演習 (日本史) A	2	◆	2	2	
史料演習 (日本史) B	2	◆	2	2	
文献講読 A (日本史)	2	◆	2	2	
文献講読 B (日本史)	2	◆	2	2	
演習 I (日本史) A	3	◆	2	2	
演習 I (日本史) B	3	◆	2	2	
卒業論文 I	4	◆	2	2	
卒業論文 II	4	◆	2	2	

② 外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から2カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
外国語 I A (1)	1	○	1	1	
外国語 I B (1)	1	○	1	1	
外国語 II A (1)	1	○	1	1	
外国語 II B (1)	1	○	1	1	
外国語 III A (1)	2	○	1	1	
外国語 III B (1)	2	○	1	1	

③ ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツ A	1	○	1	1	
ウェルネススポーツ B	1	○	1	1	

(日本史学専攻)

履修上の留意点

《履修科目について》

文学部日本史学専攻の授業科目と卒業所要単位

		1年次	2年次	3年次	4年次	合計単位数		
必修科目	専攻必修科目	20		4	4	28	44	128 以上 ※
		基礎演習A・B (日本史)	史料演習(日本史)A・B 文献講読A(日本史) 文献講読B(日本史)	演習I A・B (日本史)	卒業論文 I・II			
		史学概論A・B 日本史概論A・B						
	外国語科目	8	4※			12		
	ウェルネス科目	4				4		
選択科目	専攻選択科目A	12以上				62以上	84以上	
	専攻選択科目B							
	共通選択科目	24以上						
	その他選択科目							
年次履修制限単位数		48	48	48	48	資格課程用の科目含まず		
専攻選択科目A		日本古代史 日本中世史 日本近世史 日本近代史 日本現代史I・II 日本思想史A・B						
		日本文化史A・B 民俗学A・B	日本史科学I・II・III・IV 日本史特説I A・B/II A・B 日本史図像資料研究A・B 日本史映像資料研究A・B マイノリティ論 ジェンダー論					

1 必修科目 (合計44単位)

(1) 専攻必修科目 (28単位)

日本史を専攻するうえでの最重要科目 (とりわけ下記の5つのゼミは重要)

基礎演習 (日本史) A・B, 史料演習 (日本史) A・B, 文献講読A・B (日本史),
演習I (日本史) A・B, 卒業論文I・II

(2) 外国語科目 (12単位)

1・2年次のうちに, 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・
朝鮮語の中から2カ国語 ※外国人留学生はP.22 e. 外国人留学生の日本語の履修を参照のこと。

(3) ウェルネス科目 (4単位)

1年次のうちに履修する。

2 選択科目 (合計84単位以上)

(1) 専攻選択科目A (12単位以上)

専攻必修科目に準ずる重要科目

(2) 専攻選択科目B

(3) 共通選択科目 (24単位以上)

一般教養科目, 選択体育, 選択語学 (中・上級), 情報関係科目など

* 選択科目合計で84単位以上が必要なので, あと少なくとも48単位は, 専攻選択

科目・共通選択科目のなかから選択する必要がある。

*その際、なるべく専攻選択科目Aを多く履修することが望ましい。

*教員免許状などの取得を考えている者は、最低限必要な「教科に関する科目」を1年次から計画的に履修すること。

(4) その他の選択科目

《履修例》

日本史学専攻学生の履修例（2015年度以降入学者用）

注意：時間割の関係で、必ずしもこの履修例の通りに履修できないこともあります。（日）は（日本史）の略です。

		1年生		2年生		3年生		4年生		合計
必修科目	外国語	外国語（英語）	2/2	外国語（英語）	2					12
		外国語（中国語）	2/2	外国語（中国語）	2					
	ウェルネス	ウェルネスライフ論	2							4
		ウェルネススポーツA・B	2							
	専攻必修科目	史学概論A	2	日本史概論A	2	演習Ⅰ（日）A・B	4	卒業論文Ⅰ・Ⅱ	4	28
		史学概論B（日）	2	日本史概論B	2					
		基礎演習（日）A・B	4	史料演習A・B	4					
			文献講読A（日）	2						
			文献講読B（日）	2						
選択科目	専攻選択科目A・B	日本文化史A	2	民俗学A	2	日本現代史Ⅰ	2	演習Ⅱ（日）A・B	4	56
		日本文化史B	2	民俗学B	2	日本現代史Ⅱ	2			
		人文地理学概論A	2	アジア史概論A	2	日本史科学Ⅰ	2			
		人文地理学概論B	2	アジア史概論B	2	日本史科学Ⅱ	2			
				西洋史概論A	2	日本史科学Ⅲ	2			
				西洋史概論B	2	日本史科学Ⅳ	2			
				自然地理学概論A	2	日本思想史A	2			
				自然地理学概論B	2	日本思想史B	2			
				日本古代史	2	日本史特説ⅠA	2			
				日本中世史	2	日本史特説ⅠB	2			
				日本近世史	2					
				日本近代史	2					
	共通選択科目	情報基礎論Ⅰ	2	哲学概論A	2					28
		情報基礎論Ⅱ	2	哲学概論B	2					
		国際関係論A	2	日本の伝統と文化A	2					
		国際関係論B	2	日本の伝統と文化B	2					
		日本美術史A	2	地域と文化A	2					
		日本美術史B	2	地域と文化B	2					
		経済史A	2							
経済史B	2									
合計単位数		44		44		32		8	128	
年次履修制限単位数		48		48		48		48		

アジア史専攻

ア
史

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
史学概論A	1・2	◆	2	2	
史学概論B (アジア史)	1・2	◆	2	2	
アジア史概論A	1・2	◆	2	2	
アジア史概論B	1・2	◆	2	2	
基礎演習 (アジア史) A	1	◆	2	2	
基礎演習 (アジア史) B	1	◆	2	2	
史料演習 (アジア史) A	2	◆	2	2	
史料演習 (アジア史) B	2	◆	2	2	
文献講読A (アジア史)	3	◆	2	2	
文献講読B (アジア史)	3	◆	2	2	
演習I (アジア史) A	3	◆	2	2	
演習I (アジア史) B	3	◆	2	2	
卒業論文I	4	◆	2	2	
卒業論文II	4	◆	2	2	

② 外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から2カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
外国語I A (1)	1	○	1	1	
外国語I B (1)	1	○	1	1	
外国語II A (1)	1	○	1	1	
外国語II B (1)	1	○	1	1	
外国語III A (1)	2	○	1	1	
外国語III B (1)	2	○	1	1	

③ ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(アジア史専攻)

履修上の留意点

1 卒業までの流れ

1年生

1・2年生の間は、和泉キャンパスでじっくりと基礎を学びます。

史学概論A〔必修〕史学の基礎知識や研究史を学びます。

史学概論B（アジア史）〔必修〕アジア史を研究する方法や研究史を学びます。

アジア史概論A・B〔必修〕アジア史の流れを学びます。

基礎演習（アジア史）A・B〔必修〕少人数クラスで、基礎的な史料を講読したり、発表したりします。3人の教員の演習から一つを選びます。AとBとで、同じ教員の講義を選択することが望ましい。

2年生

史料演習（アジア史）A・B〔必修〕基礎演習でつけた読解力を、さらにのばす授業です。4人の教員が担当し、3人は漢文・中国語文を中心に、もう1人は英語を中心に、演習を行う予定です。AとBとで、同じ教員の講義を選択することが望ましい。

和泉キャンパスでは、アジア史に関わる様々な講義・演習が開講されます。例えば、朝鮮史／イスラム史／中央ユーラシア史／アジア美術史／アジアの地域と思想／東洋思想史／漢文／中級中国語・中級朝鮮語・アラビア語などがあります（年度によって異なります）。興味・目的に合わせて選択してください。

3年生

3年生から、駿河台キャンパスで、卒論に向けての準備を本格化させます。

ちなみに、アジア史専攻教員の研究室は駿河台キャンパス（研究棟9階）にあります。

文献講読A・B（アジア史）〔必修〕漢文・英語・中国語などの史料を講読します。AとBとで、同じ教員の講義を選択することが望ましい。

演習I（アジア史）A・B〔必修〕卒業論文執筆に向けて、各自テーマを絞り発表します。AとBとで、同じ教員の講義を選択することが望ましい。

また、選択科目として以下のような例があげられます（年度によって異なります）。

東アジア古代史／東アジア中世史／東アジア近世史／東アジア近現代史／東アジア国際関係史／東南アジア史／南アジア史／マイノリティ論／アジア文化史／中国の考古学／朝鮮の考古学／アジアの考古学／オリエントの考古学／エジプトの考古学

11月中旬には、4年生の卒業論文中間報告を聴講します。

12月に、卒業論文の予定題目を提出し（次頁2参照）、**卒業論文**のゼミ仮分属を決めます。

4年生

卒業論文I・II〔必修〕5人の教員が分担して指導します。各演習（ゼミ）で何回か発表を行いながら、級友の質問や教員の指導を受けて、卒業論文を仕上げます（次々頁3参照）。

11月中旬には、卒業論文中間報告会を行い、各ゼミから代表で数名が発表します。

1月10日頃に卒業論文を提出し、1月末頃に、卒論面接を行います。

2 (参考) 3年次配布卒業論文予備調査票

アジア史専攻 3年生卒業論文予備調査書

年度3年生

ふりがな 氏名		クラス 番号	
現住所	〒		
電話番号	固定電話		
	携帯電話		
電子メール	パソコン		
	携 帯		
帰省先 住所	〒		
	電話		

関心を持っているテーマ（具体的に。複数でも可）

卒論執筆に向けた現在の準備状況

卒業後の進路希望（可能な範囲で具体的に）

備考

上記の個人情報は厳重に管理し、指導教員が授業のために利用する以外公開しません。

3 (参考) 3, 4年次配布卒業論文執筆要項

2018年度アジア史専攻卒業論文執筆要項 (第一版)

2017.10.03アジア史研究室

以下の基準を満たさないものは、卒業論文の審査対象にならない。

1. 卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取ってその指導を受け、教員の指示に従い**中間報告をおこなう**こと。
2. 論文の分量は**20,000字以上** (注や図表は含まない)。
3. 論文正本は下記指定日時・場所に提出すること。
4. 論文副本 (コピー版) 2部を作成し、1部は副査用として、論文提出後1週間以内に江川研究室 (研究棟9階912号室) へ提出すること (ただし、あくまで正本の提出を最優先とする)。もう1部は、控えとして手元に置いて面接に備え、**面接当日に持参**すること。
5. **面接には必ず出席**すること。欠席すると成績評価の対象にならない。
6. **卒論要旨 (1500字程度)** を規定のフォーマットに書いて面接までに提出すること。フォーマットは卒論提出後に配信する。

その他

* 卒業論文は締め切り日時 (時間も!) 厳守なので、事故が発生した場合は、速やかに指導教員もしくは事務室に連絡すること。

提出日: 2019年1月10日・11日ごろ

提出場所: リバティタワー6階 第4・5会議室 (予定)

提出時間: 未定 (例年12:30~16:00)

* 面接は1月末~2月1日ごろのうち1日。日程の詳細は卒論提出後に掲示する。

* 論文のデータは必ずUSBなど外部メモリーに複数保存しておくこと。

* 論文の体裁、用紙の指定、ゼミごとの中間報告については、各指導教員の指示に従うこと。

* 12月に卒論受付票など卒論提出時に必要な書類が文学部事務室より配布されるので、必ず受領すること。

* 論文を綴じるバインダーは、学部が指定する色のものを明大マートで購入すること。

* これから数ヶ月間は、卒業のかかった重要な期間なので、定期的に掲示板を確認し、クラスメートと連絡を取り合うなど、情報の収集を怠らないこと。

以上

西洋史学専攻

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
史学概論 A	1・2	◆	2	2	
史学概論 B (西洋史)	1・2	◆	2	2	
西洋史概論 A	1・2	◆	2	2	
西洋史概論 B	1・2	◆	2	2	
基礎演習 (西洋史) A	1	◆	2	2	
基礎演習 (西洋史) B	1	◆	2	2	
史料演習 (西洋史) A	2	◆	2	2	
史料演習 (西洋史) B	2	◆	2	2	
原書講読 A (西洋史)	1	◆	2	2	
原書講読 B (西洋史)	1	◆	2	2	
演習 I (西洋史) A	3	◆	2	2	
演習 I (西洋史) B	3	◆	2	2	
卒業論文 I	4	◆	2	2	
卒業論文 II	4	◆	2	2	

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から2カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
外国語 I A (1)	1	○	1	1	
外国語 I B (1)	1	○	1	1	
外国語 II A (1)	1	○	1	1	
外国語 II B (1)	1	○	1	1	
外国語 III A (1)	2	○	1	1	
外国語 III B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツ A	1	○	1	1	
ウェルネススポーツ B	1	○	1	1	

(西洋史学専攻)

履修上の留意点

西洋史学専攻 4年間のカリキュラム			
		1年	2年
西洋史への入門	専攻必修科目	史学概論A・B(西洋史) 西洋史概論A・B	
		基礎演習(西洋史)A・B	史料演習(西洋史)A・B
		原書講読A・B(西洋史)	
西洋各国史の講義	専攻選択科目A	アメリカ史A・B イギリス史A・B ドイツ史A・B フランス史A・B など	
		3年	4年
西洋史の専門的研究	専攻必修科目	演習I(西洋史)A・B	卒業論文I・II
西洋史の専門的講義	専攻選択科目A	西洋古代史A・B 西洋中世史A・B 西洋近代史A・B 西洋現代史IA・BおよびIIA・B 西洋史特説IA・BおよびIIA・B	

1. 卒業までに取得すべき科目と単位

卒業に必要な単位は、**128単位**(次の(1)必修科目と(2)選択科目の合計)です。

(1) **必修科目＝専攻必修科目28単位＋外国語12単位＋ウェルネス科目4単位**

3種類の科目それぞれに必要な単位数を取得し、**合計44単位**にする。

(2) **選択科目は、合計84単位以上取得すること。**

・専攻選択科目**A群**から**12単位以上**、

・共通選択科目から**24単位以上**、

・さらに専攻選択科目**B群**を上乗せして、**62単位以上**にすることが最低条件。

以上の3つで84単位以上にならずとも、これに**学部間共通外国語・大学院設置科目・他学部履修科目**からの修得単位を加えて**合計84単位以上**にすることができます。

2. 西洋史学専門科目の履修(上の表を参照のこと)

西洋史学専攻では、4年間で西洋史研究の基礎知識の習得から専門性の高い研究の実践にいたる勉強のカリキュラムを、次のように組んでいます。

(1) **西洋史に関する基礎知識の勉強について**

1・2年次におもに研究史や歴史理解の方法の手本などを、**史学概論A・B(西洋史)・西洋史概論A・B**で学びます。

また西洋各国の歴史については、**アメリカ史A・B**、**イギリス史A・B**、**ドイツ史A・B**、**フランス史A・B**などの講義が用意されています。

(2) **西洋史研究の方法に関する勉強について**

西洋史の入門的アプローチを**基礎演習A・B**で**1年次**に体験するほか、**1・2年次**で洋書専門文献や編纂史料にあたって読解力と分析力を身につける**原書講読A・B(西洋史)・史料演習(西洋史)A・B**授業が用意されています。

さらに、**3年次**では自分の問題関心を磨いて西洋史への個性的視点を育てる**演習Ⅰ（西洋史）A・B**を履修することになります。

(3) 西洋史研究の専門分野について

3年次以降、時代ごとに分かれて講義する**西洋古代史A・B**、**西洋中世史A・B**、**西洋近代史ⅠA・B**および**ⅡA・B**、**西洋現代史ⅠA・B**および**ⅡA・B**と、特別なテーマについて掘り下げた内容を論じていく**西洋史特説ⅠA・B**および**ⅡA・B**という授業で学ぶことができます。

そして、**4年次**に自分の勉強の集大成として**卒業論文Ⅰ・Ⅱ**を書いてもらいます。

3. 外国語の履修（上の1(1)を参照のこと）

西洋史学専攻では、英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から**2ヶ国語**を選択し、**どちらもそれぞれ1年次に4単位・2年次に2単位（計12単位）**を必修科目として修得しなければなりません。

外国語の選択は、自分が関心を持っている西洋史の時代と地域について、勉強を進めていくのに非常に重要なことですから、よく考えて行なってください。

必修科目には含まれませんが、**上級英語ⅠA・B**、**ⅡA・B**・**中級各国語ⅠA・B**、**ⅡA・B**・**ラテン語ⅠA・B**、**ⅡA・B**・**古典ギリシア語ⅠA・B**、**ⅡA・B**などの語学科目も専攻選択科目の中に入っていますので、必要に応じて履修することができます。

4. 指導教員の登録

3年生になって、和泉キャンパスから駿河台キャンパスへ学び舎が移る際、次のような手順で**指導教員**を選択し、その教員の**演習授業（ゼミ）**を受けることになります。

(1) 「予備登録ガイダンス」

指導教員の選択に際しては、**2年次の12月**にそのためのガイダンスを行ないますので、必ず出席して各教員の話をよく聞いてください。その際に、指導を受けたい教員の**希望を書くアンケート**を配布します。

(2) 指導教員の決定

翌年1月の指定された日までに、自分の研究関心をまとめた**レポート**を添えて、指導教員の希望アンケートを提出してもらいます。指導教員の登録は学生の希望を尊重しますが、特定の教員に学生が偏ることを避けるために、ゼミの人数に調整がなされることもあります。

(3) 卒業論文の指導教員

4年次の卒業論文演習の指導教員は、原則として**3年次の指導教員がそのまま**となり、特別な理由がない限り変更はできません。ですから、指導教員の登録は各学生一人一人が自分の問題関心とその後の勉強をよく考えて行なってください。

5. 4年次の演習ⅡA・Bの履修

3年次に指導教員の演習ⅠA・Bの単位を取得した学生が、4年次にもう一度、演習（西洋史）の授業を**演習ⅡA・B**として履修することが認められています（別の教員の演習でも、同じ指導教員の演習でもよい）。これは、演習授業が個別指導的に行なわれ、毎年、異なる実質を持つものだからです。

考古学専攻

考古

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
考古学概論ⅠA	1・2	◆	2	2	
考古学概論ⅠB	1・2	◆	2	2	
考古学概論ⅡA	1・2	◆	2	2	
考古学概論ⅡB	1・2	◆	2	2	
基礎演習（考古学）A	1	◆	2	2	
基礎演習（考古学）B	1	◆	2	2	
考古学研究法ⅠA	2	◆	2	2	
考古学研究法ⅠB	2	◆	2	2	
考古学研究法ⅡA	2	◆	2	2	
考古学研究法ⅡB	2	◆	2	2	
演習Ⅰ（考古学）A	3	◆	2	2	
演習Ⅰ（考古学）B	3	◆	2	2	
卒業論文Ⅰ	4	◆	2	2	
卒業論文Ⅱ	4	◆	2	2	

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から2カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
外国語ⅠA(1)	1	○	1	1	
外国語ⅠB(1)	1	○	1	1	
外国語ⅡA(1)	1	○	1	1	
外国語ⅡB(1)	1	○	1	1	
外国語ⅢA(1)	2	○	1	1	
外国語ⅢB(1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(考古学専攻)

履修上の留意点

1. 専攻カリキュラムの特徴

(1) カリキュラムの体系

専攻科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	基礎演習(考古学) A・B [基本文献講読, 発表・討議]	考古学研究法 IA・B, IIA・B [資料の観察・分析記録技術の習得]	演習 I (考古学) A・B [理論と実践]	卒業論文 I・II
	考古学概論 IA・B [人類史の再構成], 考古学概論 IIA・B [考古学の方法論と学史]			
専攻選択科目	自然科学と考古学 A・B, 考古学実習 I A・B [遺跡予備調査, 発掘調査, 分析・報告, 保存と活用]		旧石器時代の考古学 A・B, 縄文時代の考古学 A・B, 弥生時代の考古学 A・B, 古墳時代の考古学 A・B, 古代史と考古学 A・B, 歴史時代の考古学 A・B, 中国の考古学 A・B, 朝鮮の考古学 A・B, ヨーロッパの考古学 A・B, アジアの考古学 A・B, オリエンタルの考古学 A・B, エジプトの考古学 A・B, アメリカの考古学 A・B, 考古学特説 A・B	
			考古学実習 II A・B	

[] 内は内容の一部

考古学専攻では、1年次から4年次まで、考古学の基礎から専門に及ぶ知識体系を習得できるようカリキュラムを構成しています。

専攻必修科目は、1・2年次の講義2科目と、1～4年次の演習科目群で構成されています。1・2年次は考古学に関する基礎的な知識と学習技能を習得します。それを基礎として、3年次には先行研究論文を読解して発表と討議を行い、それらの集大成として、4年次に卒業論文を作成します。4ヶ年、順次ステップアップする仕組みです。

専攻選択科目は、1・2年次に考古学と自然科学との連携を学び、3・4年次に日本列島の各時代、および世界各地域・諸分野の考古学を幅広く学びます。また、考古学は実際の遺跡や遺構、遺物を通して人類史の解明に取り組むため、遺跡での野外調査の基礎を体験的に学ぶ実習科目が設置されています。各自の関心を深めるとともに、さらに広い視野から人類史を学べるよう環境を整えています。

以上の科目群のほか、史学地理学科および文学部・他学部に豊富な科目群が設置されています。文学部の教育目標は、「十分な専門知識を備えた幅広い教養人の育成」です。考古学という専門性を備えるとともに、幅広い教養を育むためのカリキュラム構成となっています。年度ごとに履修計画を立てることはもちろんですが、卒業までの履修計画を常に意識し、履修科目の選択を継続的に見直すことが重要です。

(2) 専攻必修科目について

講義科目「考古学概論 I・II」(1～2年次)では、考古学の基本的な考え方、方法・歴史・成果を学びます。演習科目群は、シラバスに基づき、学生自身が学習・研究して授業運営する科目です。「基礎演習(考古学)」(1年次)では、遺跡・遺構・遺物からどのようにして人類史を復元するのか、その基礎的な考え方や方法を学びます。「考古学研究法 I・II」(2年次)で

は、実際の土器や石器を観察し、それらに基づいて研究を展開してゆくプロセスを習得します。「演習Ⅰ」（3年次）では、考古学の方法や課題に関する専門的な論文を読解して、考古資料の分析や議論の方法などを学びます。そして「卒業論文」（4年次）では、①研究課題の設定、②先行研究や情報の整理、③具体的な資料操作を経て、自分自身の議論を構築してゆきます。卒業論文は通常4万字に達しますが、執筆までの一連のプロセスと方法は、卒業後、あらゆる分野に応用が可能です。

2. 履修上の注意

(1) 基礎演習A・Bの履修登録について（1年次）

「基礎演習A・B」はゼミ科目で、4～5人の班に分かれて発表や討議を進めます。1クラス25人程度となりますので、入学後の専攻別ガイダンスで調整します。

(2) 考古学研究法Ⅰ・Ⅱの履修登録について（2年次）

「考古学研究法ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB」は専攻必修科目です（2年次に登録）。実際の出土資料（土器、石器など）を手にとって観察するため、それらを収蔵・管理している駿河台キャンパス（考古学実習室）で実施します。クラス編成などの詳細は、2年次の専攻別ガイダンスで説明し、調整します。

(3) 考古学実習ⅠA・B、ⅡA・Bの履修について（1～3年次）

考古学専攻では専攻選択科目として1～2年次に「考古学実習ⅠA・B」（各1単位）、3年次に「考古学実習ⅡA・B」（各1単位）を設置しています。「考古学実習ⅠA・B」の履修登録は2年次、「考古学実習ⅡA・B」の履修登録は3年次におこないます。また、「考古学実習ⅡA・B」は「考古学実習ⅠA・B」を修得していなければ原則的に履修できません。

時間割の編成上、本科目は土曜日に設置してありますが、実際には休日・休暇期間を利用して学外の遺跡や博物館の見学、遺跡調査や出土品の整理・分析などを行います。各年次の実習内容は年度ごとに異なります。詳細は掲示等で連絡します。

(4) 演習ⅠA・Bと卒業論文の履修について（3年次）

考古学専攻では「演習ⅠA・B」（3年次必修科目）と「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」（4年次必修科目）の同時履修を原則的に認めていません。「演習ⅠA・B」の学習成果を基に卒業論文を作成するため、同一年次で卒業論文を作成することは不可能と考えているためです。したがって「演習ⅠA・B」は必ず3年次に履修してください。

(5) 専攻選択科目の履修について①（3年次）

考古学専攻では国内外の考古学を幅広く学べますが、少なくとも卒業論文で扱う時代の講義、指導教員が担当する講義は、必ず3年次に履修して下さい。また、隣接する時代や関連分野の講義を受講することを強く勧めます。以下はその一例です。

○旧石器時代を学ぶ：「旧石器時代の考古学A・B」、「縄文時代の考古学A・B」など

- 縄文時代を学ぶ：「旧石器時代の考古学A・B」, 「弥生時代の考古学A・B」など
- 弥生時代を学ぶ：「縄文時代の考古学A・B」, 「古墳時代の考古学A・B」, 「朝鮮の考古学A・B」, 「中国の考古学A・B」など
- 古墳時代を学ぶ：「弥生時代の考古学A・B」, 「古代史と考古学A・B」, 「朝鮮の考古学A・B」, 「中国の考古学A・B」など

このほか知識の幅を広げるために専攻選択科目「A」に指定された科目を優先的に履修することを勧めます。

(6) 専攻選択科目の履修について② (3～4年次)

専攻選択科目のうち次の科目は、春学期(A)が基礎的な概説、秋学期(B)がそれをふまえた各論として構成されている場合が多いため、通年で受講することを強く勧めます。

「旧石器時代の考古学A・B」／「縄文時代の考古学A・B」／「弥生時代の考古学A・B」
 ／「古墳時代の考古学A・B」／「古代史と考古学A・B」／「歴史時代の考古学A・B」
 「考古学特説A・B」

(7) キャリア支援プログラム科目「ジョブ・インターンシップ(考古)」の履修について(4年次)

本科目では学外の調査機関で埋蔵文化財の調査・整理に関する実務を学びます。卒業要件科目には含まれませんが、各地の埋蔵文化財センターや教育委員会など、埋蔵文化財行政に携わる仕事に就職を希望する場合は、履修を強く勧めます。本科目は夏期休暇中に実施しますので(2週間前後)、4月に履修登録を済ませてください。6～7月頃に登録者の面接を実施し、最終的な参加者を選抜します。

(8) 大学院設置科目の履修について

考古学専攻では、学部生が卒業要件科目として大学院設置科目を履修することは認めていません。ただし、「先取り履修制度」を利用して履修することは可能です(p.25)。

地理学専攻

地理

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
人文地理学概論 A	1・2	◆	2	2	
自然地理学概論 A	1・2	◆	2	2	
地誌学概論 A	1・2	◆	2	2	
人文地理学概論 B	1・2	◆	2	2	左記の科目群から2単位を修得することが必要。必要単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。
自然地理学概論 B	1・2	◆	2		
地誌学概論 B	1・2	◆	2		
基礎演習（地理学） A	1	◆	2	2	
基礎演習（地理学） B	1	◆	2	2	
地理学研究法 A	2	◆	2	2	
地理学研究法 B	2	◆	2	2	
地理学実習 I	1	○	1	1	
地理学実習 II	2	○	1	1	
地理学実習 III	3	○	1	1	
地理学実習 IV	4	○	1	1	
演習 I（地理学） A	3	◆	2	2	
演習 I（地理学） B	3	◆	2	2	
卒業論文 I	4	◆	2	2	
卒業論文 II	4	◆	2	2	

地理学専攻

地理

②外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	

③ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

(地理学専攻)

履修上の留意点

[大前提の留意点] 専攻科目の履修について説明する前に、大学での履修にあたっては以下の留意点が大前提であることを予め喚起しておきます。

- ① 大学との契約に相当するこの便覧を熟読し、理解して下さい。
- ② 履修にあたっては、シラバスをよく読んで、問題意識を持って受講して下さい。
- ③ 上記以外の連絡は、掲示板あるいは専攻 HP (ホームページ) によってなされますので、常に自らの責任で確認し、行動して下さい。
- ④ 卒業所要単位に示されている必修・選択科目や単位数はあくまで最低限必要であるという目安にすぎません。各学年や4年間を通じた履修にあたっては、下記に示したカリキュラムのねらいや見取り図を踏まえて、自ら学習・研究したい内容や方向との関連を常に意識して、計画的に履修して下さい。

1 1～4年次までのカリキュラムの見取り図

(ア) 外国語および学部間共通外国語

履修にあたっては、便覧「5. 履修科目について」の当該箇所を熟読して下さい。

(イ) 専門科目：地理学専攻のカリキュラム設計

- ① カリキュラム設計の目標：卒業論文を4年間の学習・研究の集大成として執筆できることです。以下、カリキュラム設計と科目群については、下記の科目履修モデル表に即して説明します。
- ② カリキュラム設計：上記の目標を達成するために、地理学専攻のカリキュラムは、研究法・演習科目群を中核として、3つの必修科目群（演習科目，講義科目，実習科目）および専攻選択科目群の4つの科目群から成り立っています。地理学専攻の学習のモットーは、「歩く・観る・考える」です。それぞれの科目群で、この3つの要素を常に心がけるようにして下さい。

地理学専攻履修モデル表

		1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	演習	基礎演習（地理学）A・B [テーマ別に数クラス設置]	地理学研究法A・B	演習Ⅰ（地理学）A・B [人文・自然に分かれて数クラス設置]	卒業論文Ⅰ・Ⅱ [ゼミナールの形式で行う]
	講義	人文地理学概論A・B、自然地理学概論A・B、 地誌学概論A・B			
	実習	地理学実習Ⅰ	地理学実習Ⅱ	地理学実習Ⅲ	地理学実習Ⅳ
専攻選択科目	技法系	地図学Ⅰ・Ⅱ [地図の読図と作成方法]、 地域統計学Ⅰ・Ⅱ [コンピュータを使用した統計的手法]		測量学Ⅰ・Ⅱ	演習Ⅱ（地理学）A・B [課題研究を専門的にさらに掘り下げる]
	講義系	【自然地理学分野】地形学Ⅰ・Ⅱ、気候学Ⅰ・Ⅱ 【人文地理学分野】経済地理学Ⅰ・Ⅱ、社会地理学Ⅰ・Ⅱ、都市地理学Ⅰ・Ⅱ、文化地理学Ⅰ・Ⅱ			【自然地理学分野】自然地理学特説Ⅰ・Ⅱ 【人文地理学分野】人文地理学特説Ⅰ・Ⅱ 【地誌学分野】日本地誌・外国地誌

[] は内容紹介の一部

[専門科目群の説明]

(ア) 演習科目群 (必修) : 地理学という学問への導入を行う**基礎演習 (地理学) A・B**, 地理学で使う具体的な手法や技術を学ぶ**地理学研究法A・B** (駿河台キャンパス開講), 卒論に向けた専門的調査の基礎を学ぶとともに, 自ら取得したオリジナルデータを研究法で身につけた技術に基づいて分析し検討することをトレーニングする**演習 I (地理学) A・B**, これらの集大成として, 各自のテーマに即して適切な指導のもとに研究をすすめる**卒業論文 I・II**の8科目からなります。学年配当に従うとともに, 各科目の目標をしっかりと身につけて, 卒業論文の研究に進むことが肝要です。

(イ) 講義科目群 (必修) : 研究の方法や手法はあくまで手段であり, 何をどう学び, 何をどのように研究するかを主体的に判断することが求められます。そして学習・研究の問題意識を醸成し, 卒業論文の方向づけをするためには, これまでの学問分野の蓄積について大筋で理解することが重要です。ここでは, **人文地理学・自然地理学・地誌学**の3分野が用意されています。基礎的な科目なので, 必修選択の如何を問わず, 3分野6科目をすべて履修することを薦めます。

(ウ) 実習科目群 (必修) : これはフィールドワークであり, **地理学実習 I ~IV**のすべてに参加する必要があります。必修科目に付随する実習や演習でゼミ生が企画する現地調査のほか, 毎月定期的な実施される日帰り実習も盛りだくさんな内容が用意されていますので, 積極的に参加して下さい。

(エ) 専攻選択科目群 : これはその性格から, 大きく2つに分かれます。1つは地理学の研究全般に関係する, 演習科目 (必修) に近い内容の講義 (実習) です。これには, 1・2年次に配当されている地図の読図と作成方法を学ぶ**地図学**とコンピュータを使用した統計的手法を学ぶ**地域統計学**, 3・4年次に配当されている測量の基礎を学ぶ**測量学**, 4年次に配当されている課題研究を専門的にさらに深める**演習 II A・B**があります。

これに対して2つ目は, 講義科目群 (必修) に近いもので, より専門的に学習・研究する演習や卒業論文に関係する科目群です。講義科目群 (必修) と同じく**自然・人文・地誌**の3分野, 20科目が用意されています。3年次になると演習 (ゼミ) に所属し, より専門的な分野について学んでいきますが, その準備のためにも, 2年次から履修できるようになっています。それぞれの分野に関連する科目群を履修するのは当然のこととして, 地理学ではすべての分野の素養が求められることが多いので, 全分野をまんべんなく履修しておくことが望ましいと思います。

2 専門科目群に関する特記事項

(1) 地理学実習

- ① シラバスの当該箇所を熟読して下さい。
- ② 1年次の4月中・下旬の週末に, 大学のセミナーハウスを使って1泊2日の**オリエンテーション実習** (地理学実習 I の日数に1日分, 算入されます) が実施されますので, 必ず出

席して下さい。

- ③ **地理学実習Ⅰ～Ⅳ**は所定の日数以上の実習に参加し、それぞれのレポートに合格した場合に、所定の単位が認められます。
- ④ 地理学実習が単位に必要な日数として認定されているかどうかについて、常に気を配るようにして下さい。5月上旬を目途に**地理学実習履修状況**が掲示されます。
- ⑤ 地理学実習のおおよその年間計画が5月に掲示されます。この計画を参照の上、また地理学実習履修状況を勘案して、各年次の地理学実習への参加を計画的に行って下さい。

(2) 演習Ⅰ（地理学）A・B

- ① シラバスの当該箇所を熟読して下さい。
- ② 上述のカリキュラム設計において演習Ⅰ（地理学）A・Bは地理学研究法と並んで、卒業論文執筆に向けて要の位置にある科目です。
- ③ **演習（ゼミ）の振り分け**は、別途求める履修希望申請届に基づいて、2年次の秋学期に行います。2年次の11月下旬までに、上記の科目群を履修して学習を進めるとともに、関心のある分野・テーマに関する基礎学習をして、各自が学習・研究したい内容を明確にしておいて下さい。
- ④ 2年次の春休みに演習担当者から課題が出される場合がありますので、掲示に注意するとともに、これに従って下さい。

(3) 卒業論文

- ① シラバスの当該箇所を熟読して下さい。
- ② 卒業論文の作成には、適切な論文指導が不可欠です。卒業論文の論文指導に必ず出席して下さい。論文指導の出席状況が悪い場合には、卒業論文の成績が不可と判定されることがあります。
- ③ 卒業論文の執筆に際しては、論文指導の授業時の諸注意および専攻HPに掲載される「**地理学専攻卒業論文作成上の注意**」を熟読し、それを遵守して下さい。
- ④ 成績は、卒業論文それ自体と、1月下旬から2月上旬に実施される面接試験（詳細は卒業論文提出後に掲示）とを併せて総合的に評価します。

(3) 4年間の履修すべき科目チェックシート

- ① 専攻としてチェックシートは提示しませんので、上掲の4年間の科目履修モデル表、さらには上記の専攻科目群に関する特記事項に従って、自らの責任でチェックして下さい。

(4) 資格課程との関連において注意すべき事項

- ① この便覧の「資格課程」の当該箇所を熟読して下さい。
- ② 履修方法や、各課程における専攻科目の読み替えなどは、ガイダンスで配布される資格課程案内および資格課程シラバスに記載されていますので、これらを熟読し、自らの責任で履修して下さい。

臨床心理学専攻

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
心理社会研究入門A	1	◆	2	2	
心理社会研究入門B	1	◆	2	2	左記の科目群から2単位を修得することが必要。必要単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。
心理社会研究入門C	1	◆	2		
心理社会研究基礎演習ⅠA	1	◆	2	2	
心理社会研究基礎演習ⅠB	1	◆	2	2	
心理社会調査研究法A（心理学統計法）	2	◆	2	2	
心理社会調査研究法B（心理学研究法）	2	◆	2	2	
心理的アセスメント	2	◆	2	2	
心理社会研究基礎演習ⅡA	2	◆	2	2	
心理社会研究基礎演習ⅡB	2	◆	2	2	
ライフサイクルと人間Ⅰ	3	◆	2	2	
ライフサイクルと人間Ⅱ	3	◆	2	2	
臨床心理学演習A	3	◆	2	2	
臨床心理学演習B	3	◆	2	2	
心理学実験A	3	○	1	1	
心理学実験B	3	○	1	1	
卒業論文Ⅰ	4	◆	2	2	
卒業論文Ⅱ	4	◆	2	2	

② 外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語ⅠA(1)	1	○	1	1	
外国語ⅠB(1)	1	○	1	1	
外国語ⅡA(1)	1	○	1	1	
外国語ⅡB(1)	1	○	1	1	
外国語ⅢA(1)	2	○	1	1	
外国語ⅢB(1)	2	○	1	1	
外国語ⅣA(1)	2	○	1	1	
外国語ⅣB(1)	2	○	1	1	

臨床心理学専攻

臨
心

③ ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

現代社会学専攻

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
心理社会研究入門B	1	◆	2	2	
心理社会研究入門A	1	◆	2	2	左記の科目群から2単位を修得することが必要。必要単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される（専攻選択科目・共通選択科目には含まれない）。
心理社会研究入門C	1	◆	2		
身体と社会	1	◆	2	2	
心理社会研究基礎演習ⅠA	1	◆	2	2	
心理社会研究基礎演習ⅠB	1	◆	2	2	
心理社会調査研究法A（心理学統計法）	2	◆	2	2	
心理社会調査研究法B（心理学研究法）	2	◆	2	2	
心理社会研究基礎演習ⅡA	2	◆	2	2	
心理社会研究基礎演習ⅡB	2	◆	2	2	
ライフサイクルと人間Ⅰ	3	◆	2	2	
ライフサイクルと人間Ⅱ	3	◆	2	2	
現代社会学演習A	3	◆	2	2	
現代社会学演習B	3	◆	2	2	
現代社会学実習A	3	○	1	1	
現代社会学実習B	3	○	1	1	
卒業論文Ⅰ	4	◆	2	2	
卒業論文Ⅱ	4	◆	2	2	

現代社会学専攻

現社

② 外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語Ⅰ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅰ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ A (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅱ B (1)	1	○	1	1	
外国語Ⅲ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅲ B (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ A (1)	2	○	1	1	
外国語Ⅳ B (1)	2	○	1	1	

③ ウェルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウェルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウェルネス科目を参照。
ウェルネススポーツA	1	○	1	1	
ウェルネススポーツB	1	○	1	1	

哲学専攻

哲学

① 専攻必修科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
心理社会研究入門 A	1	◆	2	2	左記の科目群から2単位を修得することが必要。必要単位を超えて修得した単位は選択科目として認定される(専攻選択科目・共通選択科目には含まれない)。
心理社会研究入門 B	1	◆	2		
心理社会研究入門 C	1	◆	2	2	
基礎演習(哲学) A	1	◆	2	2	
基礎演習(哲学) B	1	◆	2	2	
哲学交流論	1・2	◆	2	2	
哲学演習(2年) A	2	◆	2	2	
哲学演習(2年) B	2	◆	2	2	
心と身体 of 哲学	2	◆	2	2	
哲学プラクティス I A	2	◆	2	2	
哲学プラクティス I B	2	◆	2	2	
哲学演習(3年) A	3	◆	2	2	
哲学演習(3年) B	3	◆	2	2	
ライフサイクルと人間 I	3	◆	2	2	
ライフサイクルと人間 II	3	◆	2	2	
卒業論文 I	4	◆	2	2	
卒業論文 II	4	◆	2	2	

② 外国語科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
English Communication Skills A (Basic)	1	○	1	1	英語を必修とし、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語の中から1カ国語を選択。21ページから22ページの外国語科目を参照。
English Communication Skills A (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills A (Advanced)	1	○	1		
English Communication Skills B (Basic)	1	○	1	1	
English Communication Skills B (Intermediate)	1	○	1		
English Communication Skills B (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing A (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing A (Advanced)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Basic)	1	○	1	1	
English Paragraph Writing B (Intermediate)	1	○	1		
English Paragraph Writing B (Advanced)	1	○	1		
English Academic Reading A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Reading B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Reading B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Reading B (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing A (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing A (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing A (Advanced)	2	○	1		
English Academic Writing B (Basic)	2	○	1	1	
English Academic Writing B (Intermediate)	2	○	1		
English Academic Writing B (Advanced)	2	○	1		
外国語 I A (1)	1	○	1	1	
外国語 I B (1)	1	○	1	1	
外国語 II A (1)	1	○	1	1	
外国語 II B (1)	1	○	1	1	
外国語 III A (1)	2	○	1	1	
外国語 III B (1)	2	○	1	1	
外国語 IV A (1)	2	○	1	1	
外国語 IV B (1)	2	○	1	1	

哲学専攻

哲学

③ウエルネス科目

科目名	配当年次	総授業時間数	単位数	必要単位数	備考
ウエルネスライフ論	1	◆	2	2	23ページのウエルネス科目を参照。
ウエルネススポーツA	1	○	1	1	
ウエルネススポーツB	1	○	1	1	

心理社会学科のカリキュラムの特徴

(1) カリキュラムのねらい

臨床心理学専攻は、「心の問題」を主に個人や家族・コミュニティを形成する人間関係の内面と向かい合っ心理学的に解決していくことを、現代社会学専攻は「社会の問題」を主に地域や組織の問題として捉え、社会的に解決していくことを、哲学専攻は「現代の問題」を古代から蓄積されてきた先人たちの英知とフィールドワークから得られた情報を融合させた深い思索に基づいて解決していくことを目指しています。いずれも「現場性」「個別性」「実践性」という臨床的観点からアプローチしていこうとする基本的な考え方において、大きな共通性があります。そのため、専攻必修科目の一部やほとんどすべての専攻選択科目が重複しており、他の専攻の開講科目を自由に履修することができます。

臨床心理学専攻の特色としては、心理学全般の知識や方法論を十分身につけたうえで、将来専門的な援助職だけでなく、カウンセリングマインド豊かな社会人として、すべての学生が活躍できるような人材養成を目指して、臨床心理学の演習・実習に力を入れています。また、心理療法や心理アセスメントの基本を体験的に修得することを目標にカリキュラムが構成されています。

現代社会学専攻の特色としては、対象に観察的・傍観的に関わるのではなく、対象に触れ、共感を持って理解できる人材を養成するための演習・実習を重視しています。フィールドワークの形で現場に赴くことも含めて、実践的な教育を行います。

哲学専攻の特色としては、問題となる事象を深く知るために、文献・資料を読むと同時に、現場に出かけたり、人に会って話を聴いたりする「実践」を大切にします。とりわけ、「哲学プラクティス」という授業でその技法を学びます。さらに、自分の思考を鍛えるべく、西洋哲学だけではなく、日本や中国も視野に入れ、また心理学や社会学の成果を取り入れながら、さまざまな思索のかたちを「多角的に」学んでいきます。

(2) 履修表

以下に、履修の仕方を表に示します。

① 臨床心理学専攻

	1年次	2年次	3年次	4年次
専攻必修科目	心理社会演習基礎演習Ⅰ A 心理社会演習基礎演習Ⅰ B 心理社会研究入門 A 心理社会研究入門 B または C	心理社会演習基礎演習Ⅱ A 心理社会演習基礎演習Ⅱ B 心理社会調査研究法 A (心理学統計法) 心理社会調査研究法 B (心理学研究法) 心理的アセスメント	臨床心理学演習 A・B 心理学実験 A・B ライフサイクルと人間Ⅰ ライフサイクルと人間Ⅱ	卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻選択科目	臨床心理学概論Ⅰ、臨床心理学概論Ⅱ、健康・医療心理学、教育・学校心理学、心理学的支援法Ⅰ、社会・集団・家族心理学Ⅱ、感情・人格心理学、発達心理学、社会・集団・家族心理学Ⅱ、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、人体の構造と機能及び疾病、身体と社会、市民活動論、臨床社会学、環境社会学、社会的逸脱論、西洋思想研究、東洋思想研究、文学と哲学、歴史と哲学、臨床哲学		障害者(児)心理学、精神疾患とその治療、産業・組織心理学、司法・犯罪心理学、福祉心理学、深層心理学、心理学的支援法Ⅱ、障害学、ターミナルケア、マイノリティ論、ジェンダー論、ソーシャルワーク論、芸術と哲学、環境の哲学、コミュニケーションの哲学	

② 現代社会学専攻

	1年次	2年次	3年次	4年次
専攻必修科目	心理社会演習基礎演習ⅠA 心理社会演習基礎演習ⅠB 心理社会研究入門B 心理社会研究入門AまたはC 身体と社会	心理社会演習基礎演習ⅡA 心理社会演習基礎演習ⅡB 心理社会調査研究法A (心理学統計法) 心理社会調査研究法B (心理学研究法)	臨床社会学演習A・B 臨床社会学実習A・B ライフサイクルと人間Ⅰ ライフサイクルと人間Ⅱ	卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻選択科目	市民活動論, 臨床社会学, 環境社会学, 社会的逸脱論, 社会ネットワーク論, 社会意識論, アイデンティティ論, 情報社会学論, コミュニティデザイン論, 臨床心理学概論Ⅰ, 臨床心理学概論Ⅱ, 健康・医療心理学, 教育・学校心理学, 心理学的支援法Ⅰ, 社会・集団・家族心理学Ⅱ, 感情・人格心理学, 発達心理学, 西洋思想研究, 東洋思想研究, 文学と哲学, 歴史と哲学, 臨床哲学		障害学, ターミナルケア, マイノリティ論, ジェンダー論, ソーシャルワーク論, 社会運動論, 現代社会論, 社会的共生論, 障害者(児)心理学, 精神疾患とその治療, 産業・組織心理学, 司法・犯罪心理学, 福祉心理学, 深層心理学, 心理学的支援法Ⅱ, 芸術と哲学, 環境の哲学, コミュニケーションの哲学	

③ 哲学専攻

	1年次	2年次	3年次	4年次
専攻必修科目	基礎演習(哲学)A 基礎演習(哲学)B 心理社会研究入門C 心理社会研究入門AまたはB	哲学演習(2年)A 哲学演習(2年)B 心と身体の哲学 哲学プラクティスⅠA 哲学プラクティスⅠB	哲学演習(3年)A・B ライフサイクルと人間Ⅰ ライフサイクルと人間Ⅱ	卒業論文Ⅰ・Ⅱ
	哲学交流論			
専攻選択科目	西洋思想研究, 東洋思想研究, 文学と哲学, 歴史と哲学, 臨床哲学, 臨床心理学概論Ⅰ, 臨床心理学概論Ⅱ, 健康・医療心理学, 社会・集団・家族心理学Ⅱ, 感情・人格心理学, 発達心理学, 身体と社会, 市民活動論, 臨床社会学, 環境社会学, 社会的逸脱論, 社会ネットワーク論, 社会意識論		哲学プラクティスⅡA・B(3年次) 芸術と哲学, 環境の哲学, 政治と哲学, コミュニケーションの哲学, ジェンダーの哲学, 老いと病いの哲学, 戦争論・平和論, 障害者(児)心理学, 精神疾患とその治療, 産業・組織心理学, 司法・犯罪心理学, 福祉心理学, 深層心理学, 障害学, ターミナルケア, マイノリティ論, ジェンダー論, ソーシャルワーク論, 社会運動論	

公認心理師の受験資格を得るための必修科目（臨床心理学専攻の学生のみ該当）

公認心理師資格は文部科学大臣及び厚生労働省大臣が主務大臣となる国家資格です（2017年9月15日施行）。

公認心理師試験を受験するためには、臨床心理学専攻に在籍中に下記の科目を全て履修する必要があります。科目等履修生及び大学院生として下記の科目を履修しても受験資格は得られません。各自、確認し、履修計画を立ててください。

臨床心理学専攻の一学年につき、10～15名が受験資格を得られることを想定しております。

なお、本学では、臨床心理学専攻を卒業後、大学院に進学し、公認心理師の受験資格を取得するための科目を修めるとともに、臨床心理士（公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会）の受験資格を合わせて取得することを推奨しております。学部卒業後、大学院に進学せずに公認心理師の資格試験を受験するためには、文部科学省及び厚生労働省より認定を受けた機関において、一定期間の実務経験を積む必要があります。

	科目名称	備考
1	公認心理師の職責	
2	心理学概論 A	共通選択科目
3	臨床心理学概論 I	
4	心理社会調査研究法 B（心理学研究法）	
5	心理社会調査研究法 A（心理学統計法）	
6	心理学実験 A	
7	知覚・認知心理学	
8	学習・言語心理学	
9	感情・人格心理学	
10	神経・生理心理学	
11	社会・集団・家族心理学 I 社会・集団・家族心理学 II	1科目以上を受講
12	発達心理学	
13	障害者（児）心理学	
14	心理的アセスメント	
15	心理学的支援法 I 心理学的支援法 II	1科目以上を受講
16	健康・医療心理学	
17	福祉心理学	
18	教育・学校心理学	
19	司法・犯罪心理学	
20	産業・組織心理学	
21	人体の構造と機能及び疾病	
22	精神疾患とその治療	
23	関係行政論	
24	心理演習	4年生のみ受講可
25	心理実習	4年生のみ受講可

選択科目

（ 専攻選択科目
共通選択科目
その他の選択科目 ）

※文学部設置科目は原則として半期科目となっています。その他の場合には、備考欄に記載してありますので、確認してください。

※総授業時間数欄の記号は次の意味を表しています。

- ◆・・・講義・演習科目 2単位 30時間
- ◇・・・講義・演習科目 4単位 60時間
- ・・・外国語・実習・スポーツ 1単位 30時間
- ◎・・・外国語・実習・スポーツ 2単位 60時間

注：専攻選択科目配当表の選考欄の記号は次の意味を表しています。

必・・・専攻必修科目

A・・・専攻選択科目A

B・・・専攻選択科目B

A*・・・教職課程履修者にとって履修が望ましい科目

×・・・履修不可

★・・・地理学専攻の学生は、★のついている科目のうち、卒業要件上8単位以上修得することが必要

☆・・・地理学専攻の学生で、測量士補資格登録申請に必要な科目

2. 選択科目について

① 専攻選択科目

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	ド 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備 考	
日本文学史A	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	A*	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学史B	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	A*	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学史C	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	A*	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学史D	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	A*	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講義ⅠA	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	A*	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講義ⅠB	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	A*	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学ⅠA	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学ⅠB	日文	2	◆	1・2	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講読ⅠA	日文	2	◆	2	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講読ⅠB	日文	2	◆	2	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講読ⅡA	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講読ⅡB	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講義ⅡA	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	A*	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文学講義ⅡB	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	A*	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
作家作品研究ⅠA	日文	2	◆	2	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
作家作品研究ⅠB	日文	2	◆	2	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
作家作品研究ⅡA	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
作家作品研究ⅡB	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学ⅡA	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学ⅡB	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学研究ⅠA	日文	2	◆	2	必	B	B	B	A*	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学研究ⅠB	日文	2	◆	2	必	B	B	B	A*	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学研究ⅡA	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	A*	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学研究ⅡB	日文	2	◆	3・4	必	B	B	B	A*	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英文学史A	英米	2	◆	1	B	必	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
米文学史A	英米	2	◆	1	B	必	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英語学概論A	英米	2	◆	1	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英文学史B	英米	2	◆	1	B	必	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
米文学史B	英米	2	◆	1	B	必	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英語学概論B	英米	2	◆	1	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英文学講読A	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英文学講読B	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
米文学講読A	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
米文学講読B	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	ド 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
音声学A	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
音声学B	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
統語論A	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
統語論B	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
意味論A	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
意味論B	英米	2	◆	2	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英文学講読C	英米	2	◆	3・4	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
英文学講読D	英米	2	◆	3・4	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
米文学講読C	英米	2	◆	3・4	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
米文学講読D	英米	2	◆	3・4	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
ドイツ文学史A	ド文	2	◆	1・2	B	B	必	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文学史B	ド文	2	◆	1・2	B	B	必	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文学講読A	ド文	2	◆	2~4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文学講読B	ド文	2	◆	2~4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文学講読C	ド文	2	◆	2~4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文学講読D	ド文	2	◆	2~4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ作家作品研究A	ド文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ作家作品研究B	ド文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A・B合わせて12単位まで履修可能。
基礎ドイツ語会話B	ド文	2	◆	1	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
フランス文学史A	フ文	2	◆	1・2	B	B	必	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス文学史B	フ文	2	◆	1・2	B	B	必	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス語学概論A	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス語学概論B	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
基礎フランス語講読A	フ文	2	◆	1	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
基礎フランス語講読B	フ文	2	◆	1	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中級フランス語講読A	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能
中級フランス語講読B	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能
中級フランス語会話I A	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中級フランス語会話I B	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中級フランス語会話II A	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中級フランス語会話II B	フ文	2	◆	2	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス語圏文学講読A	フ文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能
フランス語圏文学講読B	フ文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能
フランス語圏思想A	フ文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	
フランス語圏思想B	フ文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	
文学研究方法論A	フ文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
文学研究方法論B	フ文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス語学研究A	フ文	2	◆	3・4	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
フランス語学研究B	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
演劇概論A	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
演劇概論B	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
戯曲作品研究A	演劇	2	◆	1・2	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
戯曲作品研究B	演劇	2	◆	1・2	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本演劇史ⅠA	演劇	2	◆	1・2	A	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本演劇史ⅠB	演劇	2	◆	1・2	A	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本演劇史ⅡA	演劇	2	◆	1・2	A	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本演劇史ⅡB	演劇	2	◆	1・2	A	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本演劇史ⅢA	演劇	2	◆	3・4	A	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本演劇史ⅢB	演劇	2	◆	3・4	A	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
西洋演劇史ⅠA	演劇	2	◆	1・2	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
西洋演劇史ⅠB	演劇	2	◆	1・2	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
西洋演劇史ⅡA	演劇	2	◆	1・2	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
西洋演劇史ⅡB	演劇	2	◆	1・2	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
西洋演劇史ⅢA	演劇	2	◆	3・4	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
西洋演劇史ⅢB	演劇	2	◆	3・4	A	B	A	B	必	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
文芸メディア概論A	文メ	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	
文芸メディア概論B	文メ	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本文芸思潮史A	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	6単位まで履修可能
日本文芸思潮史B	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	6単位まで履修可能
外国文芸受容史	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	6単位まで履修可能
テキスト研究A	文メ	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	10単位まで履修可能
テキスト研究B	文メ	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	10単位まで履修可能
テキスト講読A	文メ	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	10単位まで履修可能
テキスト講読B	文メ	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	10単位まで履修可能
史学概論A		2	◆	1・2	B	B	B	B	B	必	必	必	B	B	B	B	B	B	
史学概論B（日本史）	日史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本史概論A	日史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	必	B	A	B	B	B	B	B	B	
日本史概論B	日史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	必	B	A	B	B	B	B	B	B	
史学概論B（アジア史）	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	
アジア史概論A	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	
アジア史概論B	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	必	A	B	B	B	B	B	B	
史学概論B（西洋史）	西史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	B	
西洋史概論A	西史	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	
西洋史概論B	西史	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	必	B	B	B	B	B	B	
考古学概論ⅠA	考古	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	必	B	B	B	B	B	
考古学概論ⅠB	考古	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	必	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
考古学概論ⅡA	考古	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	必	B	B	B	B	
考古学概論ⅡB	考古	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	必	B	B	B	B	
人文地理学概論A	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	必	B	B	B	
人文地理学概論B	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	必	B	B	B	
自然地理学概論A	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	必 ☆	B	B	B	
自然地理学概論B	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	必 ☆	B	B	B	
地誌学概論A	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	必	B	B	B	
地誌学概論B	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	必	B	B	B	
ライフサイクルと人間Ⅰ	臨心	2	◆	3	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	必	必	必	
ライフサイクルと人間Ⅱ	現社	2	◆	3	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	必	必	必	
身体と社会	現社	2	◆	1	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	必	B	
哲学交流論	哲学	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	必	
心と身体の哲学	哲学	2	◆	2	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	A	必	
文学概論A		2	◆	1・2	A	B	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
文学概論B		2	◆	1・2	A	B	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学各説ⅠA	日文	2	◆	1・2	A	B	B	B	A *	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学各説ⅠB	日文	2	◆	1・2	A	B	B	B	A *	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学各説ⅡA	日文	2	◆	3・4	A	B	B	B	A *	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
国語学各説ⅡB	日文	2	◆	3・4	A	B	B	B	A *	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学講読ⅠA	日文	2	◆	1・2	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学講読ⅠB	日文	2	◆	1・2	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学講読ⅡA	日文	2	◆	3・4	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
中国文学講読ⅡB	日文	2	◆	3・4	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
Public Speaking A	英米	2	◆	2	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
Public Speaking B	英米	2	◆	2	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
Discussion & Debate A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
Discussion & Debate B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英米文学基礎研究A	英米	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英米文学基礎研究B	英米	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英作家作品研究A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英作家作品研究B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
米作家作品研究A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
米作家作品研究B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英語学研究A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	8単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
英語学研究B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	8単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
語用論A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
語用論B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
音韻・形態論A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	ド 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
音韻・形態論B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
社会言語学	英米	2	◆	3・4	A	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
心理言語学	英米	2	◆	3・4	A	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
英米劇作家作品研究A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英米劇作家作品研究B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英米文化研究A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英米文化研究B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
Essay Writing A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
Essay Writing B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	4単位まで履修可能。ただし、同一担当者の履修は不可。
英語史A	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
英語史B	英米	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
比較文学A	英米	2	◆	3・4	A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
比較文学B	英米	2	◆	3・4	A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
異文化理解Ⅰ(英米)	英米	2	◆	3・4	A	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
異文化理解Ⅱ(英米)	英米	2	◆	3・4	A	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
異文化理解Ⅰ(ドイツ)	ド文	2	◆	3・4	A	B	A	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
異文化理解Ⅱ(ドイツ)	ド文	2	◆	3・4	A	B	A	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
異文化理解Ⅰ(フランス)	フ文	2	◆	3・4	A	B	B	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
異文化理解Ⅱ(フランス)	フ文	2	◆	3・4	A	B	B	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
上級英文解釈A	英米	1	○	1	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級英文解釈B	英米	1	○	1	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語学概論A	ド文	2	◆	2	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語学概論B	ド文	2	◆	2	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語作文・会話ⅠA	ド文	2	◆	2	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語作文・会話ⅠB	ド文	2	◆	2	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語作文・会話ⅡA	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語作文・会話ⅡB	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語表現法A	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語表現法B	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文学史特講A	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A・B合わせて8単位まで履修可能
ドイツ文学史特講B	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文化研究A	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A・B合わせて8単位まで履修可能
ドイツ文化研究B	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ社会誌研究A	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A・B合わせて8単位まで履修可能
ドイツ社会誌研究B	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ文学特殊研究A	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A・B合わせて8単位まで履修可能
ドイツ文学特殊研究B	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ドイツ語学特殊研究A	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	ド 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
ドイツ語学特殊研究B	ド文	2	◆	3・4	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
言語学A	フ文	2	◆	1・2	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
言語学B	フ文	2	◆	1・2	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス文化研究A	フ文	2	◆	1・2	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス文化研究B	フ文	2	◆	1・2	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中級フランス語作文A	フ文	2	◆	2	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
中級フランス語作文B	フ文	2	◆	2	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語作文A	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語作文B	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語講読A	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語講読B	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語会話ⅠA	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語会話ⅠB	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語会話ⅡA	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
上級フランス語会話ⅡB	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
特別フランス語会話A	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
特別フランス語会話B	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
特別資格フランス語A	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
特別資格フランス語B	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス語圏表象文化Ⅰ	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
フランス語圏表象文化Ⅱ	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
現代フランス文化研究	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
ロマンス語圏研究	フ文	2	◆	3・4	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
演出論A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
演出論B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
演技論A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
演技論B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞台芸術研究ⅠA	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞台芸術研究ⅠB	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞台芸術研究ⅡA	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞台芸術研究ⅡB	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞台芸術研究ⅢA	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞台芸術研究ⅢB	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
戯曲論A	演劇	2	◆	3・4	A	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
戯曲論B	演劇	2	◆	3・4	A	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本近代戯曲研究A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本近代戯曲研究B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
劇場論A	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
劇場論B	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
劇場運営論A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
劇場運営論B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
映画論A	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
映画論B	演劇	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞踊学A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
舞踊学B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
芸術学A	演劇	2	◆	1・2	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	A	
芸術学B	演劇	2	◆	1・2	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	A	
映像論A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
映像論B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
演劇論研究A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
演劇論研究B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
同時代日本演劇A	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
同時代日本演劇B	演劇	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
表現・創作ⅡA	文メ	2	◆	3・4	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	×	
表現・創作ⅡB	文メ	2	◆	3・4	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	×	
小説研究A	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
小説研究B	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
詩歌研究A	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
詩歌研究B	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
評論研究	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
翻訳研究	文メ	2	◆	3・4	A	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
批評理論	文メ	2	◆	3・4	A	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
メディア史	文メ	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
メディア研究	文メ	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
パフォーマンス研究	文メ	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
ジャーナリズム研究	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
編集・企画	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
表現と倫理	文メ	2	◆	3・4	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	A	
現代文化論	文メ	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
サブカルチャー研究	文メ	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
出版印刷研究	文メ	2	◆	3・4	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
DTP	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
放送論	文メ	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	
日本古代史	日史	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本中世史	日史	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本近世史	日史	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
日本近代史	日史	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本現代史Ⅰ	日史	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本現代史Ⅱ	日史	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本思想史A	日史	2	◆	2~4	A	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本思想史B	日史	2	◆	2~4	A	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本文化史A	日史	2	◆	1・2	A	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本文化史B	日史	2	◆	1・2	A	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史科学Ⅰ	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史科学Ⅱ	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史科学Ⅲ	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史科学Ⅳ	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
民俗学A	日史	2	◆	1・2	A	A	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	
民俗学B	日史	2	◆	1・2	A	A	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史特説ⅠA	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史特説ⅠB	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史特説ⅡA	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史特説ⅡB	日史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	
日本史画像資料研究A	日史	2	◆	3・4	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	
日本史画像資料研究B	日史	2	◆	3・4	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	
日本史映像資料研究A	日史	2	◆	3・4	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	
日本史映像資料研究B	日史	2	◆	3・4	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	
演習Ⅱ（日本史）A	日史	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	
演習Ⅱ（日本史）B	日史	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	×	
イスラム史A	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
イスラム史B	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
中央ユーラシア史A	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
中央ユーラシア史B	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
朝鮮史A	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
朝鮮史B	ア史	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア古代史A	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア古代史B	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア中世史A	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア中世史B	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア近世史A	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア近世史B	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア近現代史A	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア近現代史B	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東アジア国際関係史A	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
東アジア国際関係史B	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
南アジア史A	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
南アジア史B	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東南アジア史A	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
東南アジア史B	ア史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	
演習Ⅱ（アジア史）A	ア史	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	
演習Ⅱ（アジア史）B	ア史	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	×	
アメリカ史A	西史	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
アメリカ史B	西史	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
イギリス史A	西史	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
イギリス史B	西史	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
ドイツ史A	西史	2	◆	1・2	B	B	A	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
ドイツ史B	西史	2	◆	1・2	B	B	A	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
フランス史A	西史	2	◆	1・2	B	B	B	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
フランス史B	西史	2	◆	1・2	B	B	B	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋古代史A	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋古代史B	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋中世史A	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋中世史B	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋近代史ⅠA	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋近代史ⅠB	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋近代史ⅡA	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋近代史ⅡB	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋現代史ⅠA	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋現代史ⅠB	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋現代史ⅡA	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋現代史ⅡB	西史	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋史特説ⅠA	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋史特説ⅠB	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋史特説ⅡA	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
西洋史特説ⅡB	西史	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	
演習Ⅱ（西洋史）A	西史	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	
演習Ⅱ（西洋史）B	西史	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	×	
旧石器時代の考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
旧石器時代の考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
縄文時代の考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
縄文時代の考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
弥生時代の考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
弥生時代の考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
古墳時代の考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
古墳時代の考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
古代史と考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
古代史と考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
歴史時代の考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
歴史時代の考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
中国の考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
中国の考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
朝鮮の考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
朝鮮の考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
ヨーロッパの考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	
ヨーロッパの考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	
アジアの考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
アジアの考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
オリエントの考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
オリエントの考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
エジプトの考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
エジプトの考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
アメリカの考古学A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
アメリカの考古学B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
自然科学と考古学A	考古	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
自然科学と考古学B	考古	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
考古学特説A	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
考古学特説B	考古	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	
考古学実習ⅠA	考古	1	○	1・2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	
考古学実習ⅠB	考古	1	○	1・2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	
考古学実習ⅡA	考古	1	○	3・4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	考古学実習ⅠA・Bを修得していることが前提
考古学実習ⅡB	考古	1	○	3・4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	×	考古学実習ⅠA・Bを修得していることが前提
演習Ⅱ（地理学）A	地理	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	
演習Ⅱ（地理学）B	地理	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	×	
地形学Ⅰ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A ★☆☆	B	B	B	
地形学Ⅱ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A ☆☆	B	B	B	
気候学Ⅰ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A ★☆☆	B	B	B	
気候学Ⅱ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A ☆☆	B	B	B	
地図学Ⅰ	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A ☆☆	B	B	B	
地図学Ⅱ	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A ☆☆	B	B	B	
測量学Ⅰ	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A ☆☆	B	B	B	

考古学実習ⅠA・Bを修得していることが前提
考古学実習ⅡA
考古学実習ⅡB
考古学実習ⅠA・Bを修得していることが前提

地理学専攻は、★のついている科目から8単位以上修得することが必要。☆のついている科目は、測量士補免許状申請に必要な科目。

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 メ	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
測量学Ⅱ	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A☆	B	B	B	地理学専攻は、★のついている科目から8単位以上修得することが必要。☆のついている科目は、測量士補免許状申請に必要な科目。
経済地理学Ⅰ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A★	B	B	B	
経済地理学Ⅱ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	
社会地理学Ⅰ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A★	B	B	B	
社会地理学Ⅱ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	
都市地理学Ⅰ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A★	B	B	B	
都市地理学Ⅱ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	
文化地理学Ⅰ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A★	B	B	B	
文化地理学Ⅱ	地理	2	◆	2~4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	
地域統計学Ⅰ	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A☆	B	B	B	
地域統計学Ⅱ	地理	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A☆	B	B	B	
日本地誌	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	
外国地誌	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	A	B	B	B	
自然地理学特説Ⅰ	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A☆	B	B	B	
自然地理学特説Ⅱ	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A☆	B	B	B	
人文地理学特説Ⅰ	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	
人文地理学特説Ⅱ	地理	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	
公認心理師の職責	臨心	2	◆	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	
臨床心理学概論Ⅰ	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
臨床心理学概論Ⅱ	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
知覚・認知心理学	臨心	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
学習・言語心理学	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
感情・人格心理学	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
神経・生理心理学	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	×	B	B	B	B	B	A	B	B	
社会・集団・家族心理学Ⅰ	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
社会・集団・家族心理学Ⅱ	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
発達心理学	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
障害者（児）心理学	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
心理学的支援法Ⅰ	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
心理学的支援法Ⅱ	臨心	2	◆	3・4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	
健康・医療心理学	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
福祉心理学	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
教育・学校心理学	臨心	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
司法・犯罪心理学	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
産業・組織心理学	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
人体の構造と機能及び疾病	臨心	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
精神疾患とその治療	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
関係行政論	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	×	B	B	B	B	B	A	B	B	

科目名	設置 専攻	単 位 数	総 授 業 時 間 数	配 当 年 次	日 文	英 米	下 文	フ 文	演 劇	文 学	日 史	ア 史	西 史	考 古	地 理	臨 心	現 社	哲 学	備考
心理演習	臨心	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	
心理実習	臨心	2	◆	4	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	×	×	
深層心理学	臨心	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	
市民活動論	現社	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	
臨床社会学	現社	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
環境社会学	現社	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	
社会的逸脱論	現社	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
社会ネットワーク論	現社	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
社会意識論	現社	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	
アイデンティティ論	現社	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
情報社会論	現社	2	◆	1・2	B	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	A	B	
コミュニティデザイン論	現社	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
障害学	現社	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
ターミナルケア	現社	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
マイノリティ論	現社	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	A	B	
ジェンダー論	現社	2	◆	3・4	B	A	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	A	B	
ソーシャルワーク論	現社	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
社会運動論	現社	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
現代社会論	現社	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
社会的共生論	現社	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	
哲学プラクティスⅡA	哲学	2	◆	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	
哲学プラクティスⅡB	哲学	2	◆	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	A	
文学と哲学	哲学	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	A	
歴史と哲学	哲学	2	◆	1・2	B	B	B	B	A	A	B	B	A	B	B	B	B	A	
西洋思想研究A	哲学	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	A	
西洋思想研究B	哲学	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	A	
東洋思想研究A	哲学	2	◆	1・2	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	
東洋思想研究B	哲学	2	◆	1・2	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	
環境の哲学	哲学	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	A	
コミュニケーションの哲学	哲学	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	A	A	
臨床哲学	哲学	2	◆	1・2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	
老いと病いの哲学	哲学	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	
ジェンダーの哲学	哲学	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	A	
政治と哲学	哲学	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	A	
戦争論・平和論	哲学	2	◆	3・4	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	A	
芸術と哲学	哲学	2	◆	3・4	B	B	B	B	A	A	B	B	A	B	B	B	A		

② 共通選択科目

科目名	年次	単位	総授業時間数	備考
哲学概論A	1・2	2	◆	
哲学概論B	1・2	2	◆	
哲学特論A	3・4	2	◆	
哲学特論B	3・4	2	◆	
倫理学概論A	1・2	2	◆	
倫理学概論B	1・2	2	◆	
倫理学特論A	3・4	2	◆	
倫理学特論B	3・4	2	◆	
論理学概論A	1・2	2	◆	
論理学概論B	1・2	2	◆	
東洋思想史A	1・2	2	◆	
東洋思想史B	1・2	2	◆	
西洋思想史A	1・2	2	◆	
西洋思想史B	1・2	2	◆	
現代の思想A	1・2	2	◆	
現代の思想B	1・2	2	◆	
社会思想史A	1・2	2	◆	
社会思想史B	1・2	2	◆	
宗教学A	1・2	2	◆	
宗教学B	1・2	2	◆	
キリスト教史A	3・4	2	◆	
キリスト教史B	3・4	2	◆	
アジア文化史A	3・4	2	◆	
アジア文化史B	3・4	2	◆	
西洋文化史A	3・4	2	◆	
西洋文化史B	3・4	2	◆	
日本美術史A	1・2	2	◆	
日本美術史B	1・2	2	◆	
アジア美術史A	1・2	2	◆	
アジア美術史B	1・2	2	◆	
西洋美術史A	1・2	2	◆	
西洋美術史B	1・2	2	◆	
音楽史A	1・2	2	◆	
音楽史B	1・2	2	◆	
ロシア文学史A	1・2	2	◆	
ロシア文学史B	1・2	2	◆	
ロシア作家作品研究A	3・4	2	◆	
ロシア作家作品研究B	3・4	2	◆	
中国文化論A	3・4	2	◆	
中国文化論B	3・4	2	◆	
日本の伝統と文化A	1・2	2	◆	
日本の伝統と文化B	1・2	2	◆	
漢文A	1・2	2	◆	
漢文B	1・2	2	◆	
書道A	3・4	1	○	
書道B	3・4	1	○	
日本語音声学	1・2	2	◆	
日本語史	1・2	2	◆	

科目名	年次	単位	総授業時間数	備考
社会史A	3・4	2	◆	
社会史B	3・4	2	◆	
経済史A	1・2	2	◆	
経済史B	1・2	2	◆	
地域と文化A	1・2	2	◆	A・Bあわせて8単位まで履修可能
地域と文化B	1・2	2	◆	
地域と文化C	3・4	2	◆	C・Dあわせて8単位まで履修可能
地域と文化D	3・4	2	◆	
留学準備講座A	1～4	2	◆	
留学準備講座B	1～4	2	◆	
海外授業シミュレーションA	1～4	2	◆	
海外授業シミュレーションB	1～4	2	◆	
日本文化発信A	1～4	2	◆	
日本文化発信B	1～4	2	◆	
海外現地研修A	1～4	1	○	4単位を上限として、重複履修可能
海外現地研修B	1～4	2	◎	
アジアの地域と思想A	1・2	2	◆	
アジアの地域と思想B	1・2	2	◆	
国際関係論A	1・2	2	◆	
国際関係論B	1・2	2	◆	
法律学概論	1～4	2	◆	
日本国憲法	1・2	2	◆	
政治学概論	1～4	2	◆	
経済学概論	1～4	2	◆	
社会学概論	1～4	2	◆	
教育学A	1・2	2	◆	
教育学B	1・2	2	◆	
文化人類学A	1・2	2	◆	
文化人類学B	1・2	2	◆	
心理学概論A	1・2	2	◆	
心理学概論B	1・2	2	◆	
心理学特論	3・4	2	◆	
こころの科学A	1・2	2	◆	
こころの科学B	1・2	2	◆	
科学思想史A	1・2	2	◆	
科学思想史B	1・2	2	◆	
地球環境A	1・2	2	◆	
地球環境B	1・2	2	◆	
生態学A	1・2	2	◆	
生態学B	1・2	2	◆	
人類学A	1・2	2	◆	
人類学B	1・2	2	◆	
スポーツ文化論Ⅰ	1・2	2	◆	
スポーツ文化論Ⅱ	1・2	2	◆	
ウェルネスライフ特論Ⅰ	3・4	2	◆	
ウェルネスライフ特論Ⅱ	3・4	2	◆	
生涯スポーツ論Ⅰ	3・4	2	◆	
生涯スポーツ論Ⅱ	3・4	2	◆	
生涯スポーツⅠ-1	1・2	1	○	

科目名	年次	単位	総授業時間数	備考
生涯スポーツⅠ-2	1・2	1	○	
生涯スポーツⅠ-3	1・2	1	○	
生涯スポーツⅠ-4	1・2	1	○	
生涯スポーツⅡ-1	3・4	1	○	
生涯スポーツⅡ-2	3・4	1	○	
生涯スポーツⅡ-3	3・4	1	○	
生涯スポーツⅡ-4	3・4	1	○	
生涯スポーツⅢ-1	1~4	1	○	
生涯スポーツⅢ-2	1~4	1	○	
生涯スポーツⅢ-3	1~4	1	○	
生涯スポーツⅢ-4	1~4	1	○	
生涯スポーツⅣ-1	1~4	1	○	
生涯スポーツⅣ-2	1~4	1	○	
生涯スポーツⅣ-3	1~4	1	○	
生涯スポーツⅣ-4	1~4	1	○	
ラテン語ⅠA	1・2	1	○	
ラテン語ⅠB	1・2	1	○	
ラテン語ⅡA	2~4	1	○	
ラテン語ⅡB	2~4	1	○	
古典ギリシア語ⅠA	1・2	1	○	
古典ギリシア語ⅠB	1・2	1	○	
古典ギリシア語ⅡA	2~4	1	○	
古典ギリシア語ⅡB	2~4	1	○	
上級英語ⅠA	1・2	1	○	
上級英語ⅠB	1・2	1	○	
上級英語ⅡA	3・4	1	○	
上級英語ⅡB	3・4	1	○	
中級ドイツ語ⅠA	2	1	○	
中級ドイツ語ⅠB	2	1	○	
中級ドイツ語ⅡA	3・4	1	○	
中級ドイツ語ⅡB	3・4	1	○	
中級フランス語ⅠA	2	1	○	
中級フランス語ⅠB	2	1	○	
中級フランス語ⅡA	3・4	1	○	
中級フランス語ⅡB	3・4	1	○	
中級ロシア語ⅠA	2	1	○	
中級ロシア語ⅠB	2	1	○	
中級ロシア語ⅡA	3・4	1	○	
中級ロシア語ⅡB	3・4	1	○	
中級スペイン語ⅠA	2	1	○	
中級スペイン語ⅠB	2	1	○	
中級スペイン語ⅡA	3・4	1	○	
中級スペイン語ⅡB	3・4	1	○	
中級中国語ⅠA	2	1	○	
中級中国語ⅠB	2	1	○	
中級中国語ⅡA	3・4	1	○	
中級中国語ⅡB	3・4	1	○	
中級朝鮮語ⅠA	2	1	○	
中級朝鮮語ⅠB	2	1	○	

科目名	年次	単位	総授業時間数	備考
中級朝鮮語ⅡA	3・4	1	○	
中級朝鮮語ⅡB	3・4	1	○	
共通総合講座	1～4	2	◆	4単位まで履修可能
ICT エレメンタリー	1～4	2	◆	16単位まで履修可能。「ICT エレメンタリー」以外の科目は、Ⅰの単位を修得しないとⅡの履修はできません。各科目とも、Ⅰだけの履修は可能です。ⅠとⅡの同時履修の申請については「情報関係科目シラバス」を参照してください。
ICT ベーシックⅠ	1～4	2	◆	
ICT ベーシックⅡ	1～4	2	◆	
ICT 統計解析Ⅰ	1～4	2	◆	
ICT 統計解析Ⅱ	1～4	2	◆	
ICT データベースⅠ	1～4	2	◆	
ICT データベースⅡ	1～4	2	◆	
ICT メディア編集Ⅰ	1～4	2	◆	
ICT メディア編集Ⅱ	1～4	2	◆	
ICT アプリ開発Ⅰ	1～4	2	◆	
ICT アプリ開発Ⅱ	1～4	2	◆	
ICT コンテンツデザインⅠ	1～4	2	◆	
ICT コンテンツデザインⅡ	1～4	2	◆	
ICT 総合実践Ⅰ	1～4	2	◆	
ICT 総合実践Ⅱ	1～4	2	◆	
人間と情報Ⅰ	1・2	2	◆	
人間と情報Ⅱ	1・2	2	◆	
文化財科学A	3・4	2	◆	
文化財科学B	3・4	2	◆	
環境歴史学	3・4	2	◆	
日韓比較文学	3・4	2	◆	
人権と心理	1・2	2	◆	
家族論	1・2	2	◆	
生命の政治社会学	3・4	2	◆	

※下記の資格関係科目は、8単位まで共通選択科目として文学部の卒業に必要な単位に含まれます。なお、履修方法等詳細については、「資格課程案内」「資格課程シラバス」を参照してください。

科目名	単位数	卒業要件として算入できる単位数
教育基礎論	2	2
教育心理学	2	2
教育行政学	2	2
学校の制度と経営	2	2

③その他の選択科目

科目名	配当年次	卒業要件として 算入できる単位数	総授業 時間数	備考
【キャリア支援科目】				
キャリア・デザイン	1・2	2	◆	修得した単位は選択科目「キャリア支援科目」として認定される。
ジョブ・インターンシップ (GPA 対象外科目)	1~4	2	—	
【留学関係科目】				
海外短期留学関係科目 A	1~4	1	○	参加したプログラムに応じて、4単位まで認定される(科目の重複可能)。修得した単位は選択科目「留学関係科目」として認定される。
海外短期留学関係科目 B	1~4	2	◎	
海外短期留学関係科目 C	1~4	2	◆	
海外短期留学関係科目 D	1~4	4	◇	
【日本語教員養成プログラム科目】 ※この他に定められた科目を修得する必要あり。				
日本語教授法 I	3・4	2	◆	修得した単位は選択科目「日本語教員養成プログラム科目」として認定される。
日本語教授法 II	3・4	2	◆	
日本語教育学演習 A	3・4	2	◆	
日本語教育学演習 B	3・4	2	◆	
日本語教育実習 I	3・4	1	○	
日本語教育実習 II	3・4	2	◎	
【学部間共通外国語科目】				
English Communication II C	1~4	2	◎	修得した単位は選択科目「学部間共通外国語科目」として認定される。
English Communication III C	1~4	2	◎	
【各専攻大学院設置科目】	3・4	8	—	所定の要件を充たせば8単位まで履修可能。修得した単位は選択科目「大学院設置科目」として認定される。
【他学部履修科目】	1~4	22	—	他学部設置科目は60単位まで履修可能。修得した単位は22単位まで選択科目「他学部履修科目」として認定される。
【国際教育プログラム科目】				
基幹科目(異文化理解) I	1~4	2	◆	修得した単位は16単位まで選択科目「国際教育プログラム科目」として認定される。
基幹科目(異文化理解) II	1~4	2	◆	
基幹科目(文化・歴史) I	1~4	2	◆	
基幹科目(文化・歴史) II	1~4	2	◆	
基幹科目(法律・政治) I	1~4	2	◆	
基幹科目(法律・政治) II	1~4	2	◆	
基幹科目(経済) I	1~4	2	◆	
基幹科目(経済) II	1~4	2	◆	
【国際協力人材育成プログラム】	※	16単位	—	修得した単位はこれらのプログラム全体として16単位まで選択科目として認定される。
【日本 ASEAN 相互理解プログラム】				
【グローバル人材育成プログラム】				

※科目によって配当年次は異なる。

MEIJI UNIVERSITY

2018年度便覧

全学共通事項

MEIJI
2018年度便覧
UNIVERSITY

全学共通事項

I

学 籍

-
1. 学生証
 2. 個人認証用パスワード
 3. 学生番号
 4. 学籍上の氏名
 5. 学籍異動

I

学籍

1. 学生証

(1) 学生証の利用

学生証は、本学学生の身分を有することを証明するもので、在学期間中のみ有効です。在学中は常に携帯し、次の場合に提示してください。

- ① 本学教職員の請求があった場合
- ② 各種証明書及び学生・生徒旅客運賃割引証（学割証）の交付を受ける場合
- ③ 試験を受ける場合
※ 定期試験受験時に学生証を持参していない場合は、各キャンパスに設置されている証明書自動発行機または所属学部事務室で仮学生証（発行手数料：100円）の交付を受けてください。
- ④ 通学定期券あるいは学生割引乗車券を購入する際、ならびにそれらを利用する際に係員から請求があった場合
- ⑤ 学生健康保険を利用する場合（学生健康保険証番号は学生証に記載されている学生番号と同一とする）
- ⑥ アパートやアルバイトの紹介を受ける場合
- ⑦ 図書館を利用する場合

(2) 学生証についての注意事項

- ① 学生証は他人に貸与または譲渡することはできません。
- ② 学生証を紛失または破損した場合は、直ちに所属学部事務室に申し出て、再発行手続きを行ってください（再発行手数料：2,000円）。
※ 新しい学生証は、原則として手続きの翌日に交付します。
- ③ 退学・除籍等によって学籍を失ったときは、直ちに所属学部事務室に返却しなければなりません。
- ④ 裏面に有効期限の記載された「学生証有効期限・通学区間」証明シールの貼付がない学生証は無効です。
- ⑤ 学生証は認証用の磁気ストライプ、ICチップ等が内蔵されている電子精密機器です。取り扱いには十分注意してください。

《避けてほしい取り扱い例》

- ① 学生証をズボンのポケットに入れたまま座る。
- ② カバン等に学生証を直接入れ、教科書等と一緒に持ち歩く。
- ③ 磁気リーダーに学生証を通す際に必要以上に強く押しつける。
- ④ IC読み取りの際に強くたたきつける。
- ⑤ 磁気に近づける。

⇒バッグの留め具，ノートパソコン，スマートフォン（スマートフォンケースの留め具），テレビ等に使用されている磁石の作用により，学生証の磁気情報が消失する場合があります。

(3) 学生証記載事項

① 表面

学生証表面には，所属，学生番号，氏名，生年月日，入学年月日が記載されています。

② 裏面

学生証の裏面には，有効期限，所属，学年・組・番号，学生番号，氏名，本人住所，所属キャンパス，通学区間が記載された「学生証有効期限・通学区間」証明シールを貼付します。



学生証表面



学生証裏面

(4) 「学生証有効期限・通学区間」証明シール

「学生証有効期限・通学区間」証明シールは，在学期間中，毎年度始め（ガイダンス時等）に新しいものを配付します。シールの有効期限

は、当該年度の3月31日までです。

なお、住所・通学区間に変更があった場合、あるいは通学定期券発欄に余白がなくなった場合は、随時、新しいシールを配付しますので、所属学部事務室に申し出てください。

○ 通学定期券を利用するにあたっての注意

【通学定期券とは】

通学定期券は、通学することを目的として、学生自宅住所の最寄駅から所属キャンパスの最寄駅までの区間に限り購入できるものです。課外活動のみを理由として購入することはできません。

※ 他のキャンパスでの授業や学外の実習先での単位修得のために通学定期券が必要な場合は、所属学部または資格課程事務室に申し出てください。

【通学定期券の購入】

本学では、「学生証有効期限・通学区間」証明シールが、通学定期券の購入に必要な通学証明書を兼ねています。通学証明は大学の承認印が必要です。通学定期券の購入にあたっては、学生証の裏面に「学生証有効期限・通学区間」証明シールを貼付して、駅窓口にて提示してください。

※ バスの通学定期券の購入にあたって、バスの通学区間の証明を求められた場合は、所属学部事務室に申し出てください。

【住所・通学区間の変更】

「学生証有効期限・通学区間」証明シールに記入してある住所・通学区間に変更があった場合は、速やかに所属学部事務室に申し出てください。住所変更の場合は、併せて住所変更届を提出してください。

【不正行為の禁止】 **注意**

他人名義の通学定期券を使用して乗車をする、または、虚偽の通学区間を申請し、通学定期券を購入するなどの行為は、不正行為であり、犯罪です。不正行為が発覚した場合は、個人に罰金が科されるだけでなく、大学が通学定期券発行停止の処分を受ける場合があります。多くの学生の迷惑となります。また、大学においてもこのことが発覚した場合は、厳しく処分します。

正しい通学定期券の購入手続き及び利用を行ってください。

(5) 仮学生証

定期試験受験時等、本学教職員から学生証の提示を求められた際に、学生証を携帯していない場合は、各キャンパスに設置されている証明書自動発行機で仮学生証（発行手数料：100円）の交付を受けてください。

※ 仮学生証は発行当日のみ有効です。

※ 仮学生証は学内でのみ有効です。

※ 仮学生証の発行手続きに要する時間は、試験時間には一切考慮されません。

※ 仮学生証を破棄する際は、個人情報に十分注意して行ってください。

※ 学生証を紛失した場合は、直ちに所属学部事務室に申し出て、再発行手続きを行ってください（再発行手数料：2,000円）。

2. 個人認証用パスワード

個人認証用パスワード（共通認証パスワード）は、本学共通認証アカウントのパスワードです。アカウントは学生番号10桁です。Oh-ol Meiji システムや駿河台・和泉・中野キャンパスでのPC利用、証明書自動発行機、図書館オンラインサービス利用時に使用します。

① 初期パスワードについて

初期パスワードには、入学手続き時に「入学手続き者登録票」で申請されたパスワードが設定されています。初期パスワードは入学後、必ず変更しましょう。

② パスワードの変更、忘失時の手続きについて

パスワードを変更する場合は、次の「パスワードの変更方法」にしたがって、自身で行ってください。パスワードを忘失した場合は、所属学部事務室に届け出てください。

パスワードの変更方法

手 順

- ① Oh-ol Meiji システム利用時等の個人認証画面を開く。
- ② 画面の指示にしたがって、必要項目を入力する。
- ③ パスワードが変更されたことを確認する。

パスワードに使用できる文字

8桁以上16桁以内の任意の半角英数字

【例：MU0623GOGO, 040401LT】

注 意

パスワード変更の際、初期パスワードが認証されない場合は、所属学部事務室に申し出てください。

③ パスワードに関する注意

- ・パスワードは他人に予測されにくいものを設定しましょう。（誕生日や電話番号等は避ける）
- ・なるべく複雑なものにしましょう。（英大文字、小文字、数字などを混ぜる）
- ・定期的な変更を心がけるようにしましょう。

④ 共通認証アカウントについて詳しくは、各キャンパスメディアサービスホームページをご覧ください。

(駿河台) <http://www.meiji.ac.jp/ksys/it/account.html>

(和泉) <http://www.meiji.ac.jp/wsys/account/kyotsu-ninsho.html>

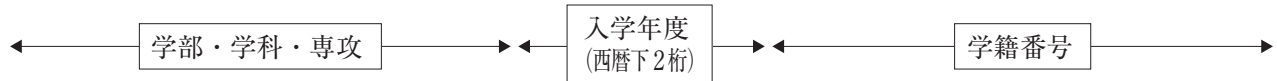
(生田) <http://www.meiji.ac.jp/isis/office/account.html>

(中野) http://www.meiji.ac.jp/nksd/it_account.html

3. 学生番号

学生番号は、学生証に記載された10桁の番号です。事務手続き時や大学が提供する各種システムを利用する際の個人認証において必要となるため、正確に覚えておいてください。

				1	8				
--	--	--	--	---	---	--	--	--	--



コード	学部	学科	専攻
1110	法学部	法律学科	
1210	商学部	商学科	
1310	政治経済学部	政治学科	
1320		経済学科	
1330		地域行政学科	
1411	文学部	文学科	日本文学専攻
1412			英米文学専攻
1417			ドイツ文学専攻
1418			フランス文学専攻
1415			演劇学専攻
1416			文芸メディア専攻
1421		史学地理学科	日本史学専攻
1426			アジア史専攻
1423			西洋史学専攻
1424		心理社会学科	考古学専攻
1425			地理学専攻
1433			臨床心理学専攻
1434		心理社会学科	現代社会学専攻
1435			哲学専攻

コード	学部	学科	専攻
1512	理工学部	電気電子生命学科	電気電子工学専攻
1513			生命理工学専攻
153R		機械工学科	
154R		機械情報工学科	
155R		建築学科	
156R		応用化学科	
157R	農学部	情報科学科	
158R		数学科	
159R		物理学科	
1610		農学科	
1650	農学部	食料環境政策学科	
1630		農芸化学科	
1640		生命科学科	
1740	経営学部	経営学科	
		会計学科	
		公共経営学科	
1810	情報コミュニケーション学部	情報コミュニケーション学科	
1910	国際日本学部	国際日本学科	
2610	総合数理学部	現象数理学科	
2620		先端メディアサイエンス学科	
2630		ネットワークデザイン学科	

4. 学籍上の氏名

学籍上の氏名は、入学手続き時に本人が届け出たもの〔住民票記載事項証明願に記載された戸籍上の氏名、外国籍の学生は住民票に記載された本名または通称名の一方〕とします。なお、漢字はJIS漢字（第二水準まで）を使用します。これ以外の文字を使用している場合は、JIS漢字（第二水準まで）に変換します。

また、外国人留学生の氏名について、JIS漢字で表記できず代替文字も使用することができない場合は、以下の3つから選択することになります。

- ① JISコード（第一水準，第二水準）で表現できる文字は使用し，表現できない文字はカナ表記を混ぜて使用することとする。
- ② 全てカナ表記とする。
- ③ 全てアルファベット表記とする。

本学が交付する書類は、これに基づき取り扱います。学籍上の氏名を変更する場合は、所属学部事務室へ相談の上、届け出をしてください。

5. 学籍異動

	要旨	必要書類	備考
休学	<p>病気・その他やむを得ない事由により休学しようとする者は、あらかじめ所属学部の窓口にご相談し、休学願を指定期日までに提出する。休学は当該学期の期間とするが、延長が必要な場合には所定の手続を経て許可を受けることで、引き続き次の学期についても休学することができる。</p> <p>休学手続締切日 春学期：5月31日 秋学期：11月20日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休学願（所定用紙） ※病気を事由とした休学の場合は、医師の診断書が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○休学期間の延長は当初の休学期間を含めて2年を限度とするが、特別の事情がある場合には、所定の手続を経て、さらに2年を上限として休学を許可することがある。 ○在学中に休学することができる期間は、通算して4年を超えることができない。ただし、2年次に編入学した者は3年、3年次に編入学した者は2年を限度とする。 ○休学する者は、休学在籍料を納入するものとし、休学期間に係るその他の学費（入学金を除く。）は免除する。 ※クラス担任の承認が必要な場合があり、学部窓口で確認する。
復学	<p>休学した者は、休学期間が満了となり、休学理由が解消した場合、復学することができる。復学は学期の始めに限り許可されるので、復学願を指定期日（所属学部の窓口へ確認）までに提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・復学願（所定用紙） ※病気で休学した者が復学する場合は、通学が可能であることを示す医師の診断書が必要。 	
退学	<p>○学則第30条による退学（任意） 病気その他やむを得ない事由で退学を希望する場合は、あらかじめ所属学部の窓口にご相談し、退学願を提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学願（所定用紙） 退学事由を明記の上、保証人連署のもの。 ・学生証返却 	<ul style="list-style-type: none"> ○退学願の提出にあたっては、願い出の日に係る学期までの学費を納入していなければならない。 ※クラス担任の承認が必要な場合があり、学部窓口で確認する。
	<p>○学則第67条による退学（懲戒） 学則で次に該当する者は退学となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 性行不良で改善の見込がないと認められる者。 ② 本学園の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者。 ③ 正当な理由なくして、学業を怠る者。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生証返却 	

	要旨	必要書類	備考
原級	進級に必要な単位または卒業単位が修得できず、進級・卒業ができなかった者で、在学の意志がある場合は、原級届または在籍原級届を、指定期日（所属学部の窓口を確認）までに提出する。	・原級届もしくは在籍原級届	
除籍	① 学費の納付を怠った者は、除籍する。(学則第62条) ② 学部の指定期日までに原級届、在籍原級届、復学願を未提出の者は除籍する。 ③ 学費滞納者で在学の意志がなく、在籍抹消を希望する場合には、本人都合により除籍する。 除籍受付期間 春学期：5月31日まで 秋学期：11月30日まで	・学生証返却 ・除籍同意書（③のみ）	
再入学	退学者及び除籍者が再入学を願い出たときは、教授会の議を経て、選考試験の上、学期の始めに限り許可することがある。	・再入学願（所定用紙）	再入学の資格は、退学後及び除籍後4年以内とする。

MEIJI
2018年度便覧
UNIVERSITY

全学共通事項

Ⅱ

履 修

-
1. 学年と学期
 2. 単位制
 3. 修学指導
 4. 授業
 5. 資格課程
 6. 定期試験

II

履修

ここで記載している「履修」の事柄は、全学共通事項のみです。詳細については学部事項に記載してありますので、必ず熟読してください。

1. 学年と学期

学年は、春学期と秋学期の2期に分かれ、各学期の授業期間はそれぞれ14週を基本としています。春学期は4月1日から始まり9月19日まで、秋学期は9月20日に始まり3月31日までとなっています。詳細については、学年暦（各学部シラバス参照）をご覧ください。

2. 単位制

単位制とは、授業科目を所定の時間履修し、試験に合格することによって、それぞれの授業科目に付与されている単位を修得していくことです。その単位の合計が一定の要件を満たした者に対して卒業が認定されます。

なお、各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、「教室等での授業による学修（授業時間）」と「授業時間外に必要な学修（予習・復習等の自習）」の時間を合わせた学修活動によって算出されます。なお、下表のとおり、授業の方法に応じ、単位算出方法は異なります。

授業科目1単位に必要な学修時間（学期通算）

授業の方法	授業時間数	自習時間 (予習・復習等)	合計
講義・演習	15時間	30時間	45時間
実験・実習・実技・ 外国語・スポーツ	30時間	15時間	

※授業時間数は、45分を1時間と換算しています。

講義であれば、15時間＝675分の授業となり、2単位科目では30時間＝1350分となります。

※2単位科目の場合、実際の単位付与に必要な授業時間は1350分ですが、本学は2017年度より原則1回の授業を100分で実施し、100分×14週（回）＝1400分の総授業時間となります。この差分となる50分間の運用は各教員に委ねられています。

3. 修学指導

大学では、学部ごとに卒業要件として修得しなければならない単位数が決められており、適切な学習計画により授業を履修し、単位修得に努めなければなりません。

各学部においては、学年ごとに定める基準に沿って修学指導を行っています。定められた基準を満たすことができない者に対しては、教育的配慮から、退学勧告を行うことがあります。修学指導の具体的な内容については、各学部事項を確認してください。

なお、退学勧告により退学した場合でも、一定の条件のもとに再入学することができます。再入学に関しては、『I-5 学籍異動』を参照してください。

4. 授業

(1) 授業科目

授業科目は、大きく分けると次のように3つに分類されます。ただし、実際の名称は学部によって異なります。詳細については、学部事項をご覧ください。

必修科目・・・卒業するまでに必ず単位を修得しなければならない科目
選択必修科目・・・科目グループの中から選択し、必要単位数を修得しなければならない科目
自由選択科目・・・上述の科目以外の科目で、自由に選んで履修できる科目

なお、各学部に設置された授業科目の他、学部間共通の科目として、次のような科目が設置されています。ただし、卒業要件外としてしか履修できない科目もありますので注意してください。その他、他学部に設置された科目も60単位（卒業に必要な単位への認定は学部によって異なる）まで修得することが認められています。

※ 他学部設置科目で履修の認められない科目もあります。所属学部の窓口にお問い合わせください。

① 学部間共通外国語科目

概要	各学部に設置されている外国語科目を補完し、外国語能力の向上を目的として設置されている科目です。会話科目のほか、アラビア語・ギリシア語・ラテン語などの科目や、夏期・春期の長期休暇中に実施する集中講座もあります。
問合せ先	駿河台：教務事務室 和泉：和泉教務事務室 生田：生田キャンパス課 中野：中野キャンパス事務室
記載物	学部間共通外国語シラバス

② 学部間共通総合講座

概要	学生の知的好奇心を刺激し、また学生に自分が学んでいることの意義と目標を再確認させ、学習意欲を喚起することを目的として設置されています。 時代と学生の動向に配慮した複数のテーマが設定されており、授業形態は、本学教員に加え、広く社会の叡智を大学に取入れるため、社会の第一線に立つ識者・研究者を学外から迎え、一講座に対して複数の教員による「総合授業」として実施しています。
問合せ先	駿河台：教務事務室 和泉：和泉教務事務室 生田：生田キャンパス課 中野：中野キャンパス事務室
記載物	学部間共通総合講座シラバス

③ 情報関係科目

概要	理工学部及び総合数理学部を除いた全学共通科目として設置され、基礎的及び応用的情報教育を実施しています。自ら問題を発見・解決し、その成果を的確に表現することと情報環境を利活用することができる能力を養うことに主眼を置いてカリキュラムを構成しています。
問合せ先	駿河台：メディア支援事務室 和泉：和泉メディア支援事務室 生田：生田メディア支援事務室 中野：中野キャンパス事務室
記載物	情報関係科目シラバス

④ GLOBAL NAVI

概要	国際社会で活躍できるグローバル人材を育成するための本学の各種取組み（全学部共通科目、語学力強化支援、留学制度、留学支援体制など）について紹介しています。
問合せ先	駿河台：教務事務室 和泉：和泉教務事務室 生田：生田キャンパス課 中野：中野キャンパス事務室
記載物	GLOBAL NAVI

(2) 履修登録

履修登録とは、授業科目について履修する（授業を受ける）ことの意味表示をすることです。所属学部が指定した期間内に必ず手続きを行ってください。

なお、履修登録の方法・注意事項の詳細については学部事項「履修について」および学部シラバスをご覧ください。また、履修科目の選択については、各自の学習計画に基づき、卒業要件や履修に関する制限等を考慮して、慎重に行ってください。一度履修登録した科目は、原則として変更できません。

(3) 卒業要件及び履修登録できる単位数の上限

卒業に関しては、次の表のような単位数の要件の他、必修科目・選択必修科目などの要件を満たすことが必要です。また、各学年ごとに履修できる科目の単位数の上限が設定されています。

	履修登録できる単位数の上限					卒業要件 単位数
	1年	2年	3年	4年	合計	
法学部	46	49	49	49	193	128
商学部	春学期23 秋学期23	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	190	134
政治経済学部	春学期21 秋学期21	春学期22 秋学期22	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	182	124
文学部	48 半期30単位上限	48 半期30単位上限	48 半期30単位上限	48 半期30単位上限	192	128
理工学部	49	49	49	49	196	136
農学部	49	49	49	49	196	124
経営学部	春学期21 秋学期21	春学期21 秋学期21	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	180	134
情報コミュニケーション学部	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	192	124
国際日本学部	春学期20 秋学期20	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	春学期24 秋学期24	184	124
総合数理学部	49	49	46	42	186	124

※履修登録できる単位数の上限には、再履修科目（下級年次で履修した科目が、不合格となった科目を上級年次で再度履修する科目）の単位数を含んでいる学部と、これとは別に再履修科目の履修単位数を設定している学部があります。また、履修単位の下限を設けている学部もあります。詳細については学部事項をご覧ください。

(4) 半期履修制

本学では、ほとんどの科目が半期で区切られており、授業・試験・成績評価を半期毎に行っています。科目によっては段階的に履修する科目もあり、前提としている科目を修得しないと履修できない科目もありますので、注意してください。詳細については各学部事項をご覧ください。

(5) 休講

授業は、学年暦にしたがって行われますが、科目担当者が公務、校務、出張、学会、病気などによって授業を行えなくなり、休講となる場合もあります。休講については、Oh-o! Meiji システム・掲示板等によって連絡しますので、確認してください。

休講の掲示がなく30分経過しても授業が行われない場合は、所属学部の窓口まで問い合わせをしてください。

(6) 補講

補講は、授業の進度・休講を補う授業として行われます。補講が行われる場合には、各学部掲示板に掲示しますので、日時・教室等を確認して、受講してください。なお、補講は原則として学年暦（各学部シラバス参照）に記載されている日に実施されます。

(7) 同一日に複数キャンパスの授業を履修する際のキャンパス間移動ルール

同一日に複数キャンパスの授業を履修する際のキャンパス間の移動ルールは、次のとおり定められています。履修する際は、注意してください。

時限	→	時限	ルール
1	→	2	全キャンパス間の移動を不可とする
2	→	3	駿河台⇄和泉の移動は可とする 駿河台⇄中野の移動は可とする 駿河台⇄生田または黒川農場の移動は不可とする 和泉⇄生田の移動は可とする 和泉⇄黒川農場の移動は不可とする 生田⇄黒川農場の移動は不可とする 中野⇄和泉の移動は可とする 中野⇄生田または黒川農場の移動は不可とする
3	→	4	全キャンパス間の移動を不可とする
4	→	5	全キャンパス間の移動を不可とする
5	→	6	全キャンパス間の移動を不可とする

5. 資格課程



「資格課程案内」

本学には、資格を取得するための課程として、教職課程、学芸員養成課程、社会教育主事課程、司書課程及び司書教諭課程の5つの課程が設置されています。

これらの課程の履修希望者は、資格課程が年度始めに行う各課程のガイダンスに出席してください。このガイダンスに出席し、定められた期日までに所定の手続きをした者のみ履修を開始することができます。

なお、履修方法については、ガイダンスで配布される『資格課程案内』及び『資格課程シラバス（履修の手引）』に記載されています。両冊子を熟読のうえ、誤りのないよう履修登録をしてください。

また、転科、編入、学士入学等をした場合は、必ず、資格課程事務室まで申し出てください。（学部において卒業単位として認定された科目であっても、資格取得の要件科目としては使用できないことがあります。）

各課程の概要は次のとおりです。



『資格課程シラバス（履修の手引）』

〈新規履修者〉

年度始めのガイダンスで配布

〈継続履修者〉

年度始めに資格課程事務室で

配布

(1) 教職課程

- ① 本学には、中学校あるいは高等学校の教員を志望する者のために、「教職課程」が設けられています。
- ② 本学の教職課程は1年次から履修（登録）できます。
- ③ 取得できる免許状の種類と教科は、下記のとおり在籍する学部・学科・専攻によって定められています。決められた教科以外の免許状を取得することはできません。

学部・学科・専攻		中学校教諭 1種免許状	高等学校教諭 1種免許状
法学部		社会	地理歴史, 公民
商学部		社会	地理歴史, 公民, 商業
政治経済学部		社会	地理歴史, 公民
文学部	日本文学専攻	国語	国語
	演劇学専攻	国語	国語
	文芸メディア専攻	国語	国語
	英米文学専攻	英語	英語
	ドイツ文学専攻	ドイツ語	ドイツ語
	フランス文学専攻	フランス語	フランス語
史学地理学科		社会	地理歴史, 公民
心理社会学科		社会	公民
理工学部	電気電子生命学科	数学	数学
	機械工学科	数学	数学
	機械情報工学科	数学	数学, 情報
	建築学科	数学	数学
	応用化学科	理科	理科
	情報科学科	数学	数学, 情報
	数学科	数学	数学
物理学科	数学, 理科	数学, 理科	

学部・学科・専攻		中学校教諭 1種免許状	高等学校教諭 1種免許状
農学部	農学科	理科	理科, 農業
	食料環境政策学科	社会	地理歴史, 公民, 農業
	農芸化学科	理科	理科, 農業
	生命科学科	理科	理科
経営学部		社会	地理歴史, 公民, 商業
情報コミュニケーション学部		社会, 英語	公民, 英語, 情報
国際日本学部		社会, 英語	地理歴史, 公民, 英語
総合数理学部	現象数理学科	数学	数学
	先端メディアサイエンス学科	—	情報
	ネットワークデザイン学科	—	情報

(注) 文学部文学科に所属する学生は、専攻ごとに取得できる免許状の教科が定められていますが、他専攻の免許状の教科についても、当該専攻が許可する場合に限り、取得することができます。詳細については文学部事務室にお問い合わせください。

(2) 社会教育主事課程

- ① 社会教育主事は、都道府県・市町村など地方公共団体における教育委員会の事務局及び公民館関係施設・青少年施設におかれる職員で、「社会教育を行う者に専門的技術的な指導と助言を与える」ことを任務とする専門職です。
- ② 本学の社会教育主事課程は1年次から履修（登録）できます。
- ③ 社会教育主事課程を修了することにより、社会教育主事任用資格を得ることができます。（社会教育主事任用資格を得た後、1年以上「社会教育主事補」の職歴を経ることにより、社会教育主事の資格を得ることができます。）

(3) 学芸員養成課程

- ① 学芸員は、博物館の事業に携わる専門職です。博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究などを行います。
- ② 学芸員養成課程は2年次から履修（登録）できます。
- ③ 本学の学芸員養成課程を修了することにより、学芸員の資格を取得することができます。

(4) 司書課程

- ① 司書は、「図書館法」で定められた図書館で働く専門職です。情報資料の組織化、情報サービスの提供を通して地域の多様なニーズに応えます。

- ② 本学の司書課程は1年次から履修（登録）できます。
- ③ 司書課程を修了することにより，司書の資格を取得することができます。

(5) 司書教諭課程

- ① 司書教諭とは，小中高等学校の学校図書館で，児童生徒の図書をはじめとするあらゆるメディアの活用をサポートする教員のことで
- す。
- ② 本学の司書教諭課程は，1年次から履修（登録）できます。
- ③ 司書教諭課程において要件科目を修得し，申請手続きを行うことにより，司書教諭の資格を得ることができます。（ただし，司書教諭の資格は，教員免許状を有している者のみに効力が生じます。）

6. 定期試験

受講した授業科目の単位を修得するためには，試験を受けて単位が認定されなければなりません。定期試験（春学期試験・秋学期試験）は，学年暦に定められた一定の期間中に行われる試験（期間中試験）及び平常の授業期間に行われる試験（期間前試験）があります。また，試験に代えてレポート・ノート提出，平常点によって評価される場合もあります。

なお，定期試験受験の際の注意事項，特別試験，試験の時間割等については各学部事項をご覧ください。

※出席状況により受験資格が与えられない科目もあります。

MEIJI
2018年度便覧
UNIVERSITY

全学共通事項

Ⅲ

事務取扱業務

-
1. 学部窓口
 2. 掲示板案内
 3. その他の取扱部署
 4. 主な問合せ先
 5. 証明書の発行

Ⅲ

事務取扱業務

1. 学部窓口

大学あるいは学部から学生への通達、連絡および在学中の学習活動上必要とされる事務手続き等のほとんどは、各学部の窓口を通じて行われ、次のような業務を行っています。これらについては、この便覧に記載されていますので、この便覧を熟読し、学生生活に支障のないように注意してください。

また、勝手な解釈や判断をして、自らの学習活動に支障を来すことがないように、疑問のある点については、遠慮なく学部窓口にお問い合わせください。

- (1) 授業に関すること
- (2) 学籍に関すること
- (3) 進級・卒業・進学に関すること
- (4) 試験に関すること
- (5) 成績の管理に関すること（成績通知表の交付，その他）
- (6) 学生に対する通達，連絡に関すること

☆学部窓口

●和泉キャンパス

学 部	場 所	窓口取扱時間
法学部	第一校舎1階	平日（月～金） 9：00～18：00 （閉室11:30～12:30） 土曜日 8：30～12：00
商学部		
政治経済学部		
文学部		
経営学部		
情報コミュニケーション学部		

●駿河台キャンパス

学 部	場 所	窓口取扱時間
法学部	リバティタワー4階	平日（月～金） 9：00～18：00 （閉室11:30～12:30） 土曜日
商学部		
政治経済学部		
文学部		
経営学部	リバティタワー5階	8：30～12：00
情報コミュニケーション学部		

●生田キャンパス

学 部	場 所	窓口取扱時間
理工学部	中央校舎 1 階	平日 (月～金) 8 : 30～16 : 30
農学部		土曜日 8 : 30～12 : 00

●中野キャンパス

学 部	場 所	窓口取扱時間
国際日本学部	低層棟 3 階 3 番窓口	平日 (月～金) 9 : 00～18 : 00 (閉室11:30～12:30)
総合数理学部	低層棟 3 階 2 番窓口	土曜日 8 : 30～12 : 00

2. 掲示板案内

大学あるいは学部からの通達，連絡及び学生に対する伝達はすべて Oh-o! Meiji でのお知らせ配信，掲示板またはインフォメーションボードを通して行われますので必ず見るよう心がけてください。

設置場所

キャンパス	掲示板	インフォメーションボード
和泉	第一校舎正面入口右側壁面	第一校舎 1 階エントランスホール
駿河台	リバティタワー 2 階 インフォメーションスクエア	リバティタワー 1 階エントランスホール
生田	中央校舎 1 階	中央校舎 1 階
中野	高層棟 1 階学生インフォメーション	高層棟 1 階学生インフォメーション

3. その他の取扱部署

大学には各学部窓口の他，次のような機関・部署が組織されています。なお，「場所」・「主な取扱事項」・「取扱時間」は，夏季休業期間中等，変更になる場合がありますので，掲示等で確認してください。

機関・部署	場 所	主な取扱事項	取扱時間
駿河台キャンパス			
教務事務室	リバティタワー 5階	教務全般について ・サブゼミ教室の貸出 ・学部間共通外国語 ・学部間共通総合講座 ・障がい学生学習支援	平日（月～金） 9：00～18：00 （閉室11：30～12：30） 土曜日 8：30～12：00
学生支援事務室	リバティタワー 3階	・奨学金 ・教室貸出（公認サークルに限る） ・課外活動関係 ・M-Naviプログラム ・厚生施設 ・学生健康保険 ・学生教育研究災害傷害保険 ・遺失物 ・短期貸付金 ・住居／アルバイト紹介	平日（月～金） 9：00～18：00 ただし、奨学金係は 17：00まで 土曜日 8：30～12：00
駿河台ボランティアセンター	リバティタワー 3階	ボランティアに関する相談、情報提供、イベント実施など	平日（月～金） 9：00～17：00
学生相談室	大学会館 2階	・大学生生活への適応援助 【相談領域】 学業，人間関係，健康，法律問題，精神衛生など ・学生相談室主催行事	平日（月～金） 10：00～17：00 土曜日（原則隔週） 8：30～12：00
資格課程事務室	リバティタワー19階	・教職課程 ・学芸員養成課程 ・社会教育主事課程 ・司書課程 ・司書教諭課程	平日（月～金） 9：00～18：00 （閉室11：30～12：30） 土曜日 8：30～12：00 ※変更になることもありますので、資格課程の掲示板・HPで必ず確認してください。
就職キャリア支援センター（駿河台）	大学会館 2階	・就職支援・指導に関すること ・キャリア支援・指導に関すること	平日（月～金） 9：30～18：00 土曜日 8：30～12：00 状況により変更の場合があります。ホームページ等で確認してください。
国際教育事務室	グローバルフロント 2階	・海外留学等に関すること ・留学生の奨学金・宿舍・在留資格・留学生共通日本語等に関すること	平日（月～金） 9：00～17：00 （閉室11：30～12：30） 土曜日 8：30～12：00

機関・部署	場 所	主な取扱事項	取扱時間
駿河台キャンパス			
スポーツ振興事務室	リバティタワー 3階	体育会に関すること	平日（月～金） 9：00～18：00 土曜日 8：30～12：00
メディア支援事務室	12号館 7階	・情報関係科目 ・情報関連講習会 ・メディアライブラリーの利用 ・Meiji Mail の利用	平日（月～金） 9：00～20：00 土曜日 9：00～18：00
駿河台メディアライブラリー	12号館 7階	・メディア教材・資料の視聴・閲覧 ・グループ学習 ・PC 貸出	平日（月～金） 9：00～20：00 土曜日 9：00～18：00
駿河台サポートデスク	12号館 7階メディア支援事務室	・パソコン利用支援 ・Oh-o! Meiji システム利用支援 ・証明書自動発行機障害対応等	平日（月～金） 8：30～19：30 土曜日 8：30～14：00
診療所	大学会館 2階	・診療科目：内科，外科 ・医師による診療，怪我をしたときの応急処置（症状によっては，外部医療機関を紹介することもあります。） ・健康診断，健康相談	内科：月・水・木曜 外科：火・金曜 診療受付時間 9：30～12：00 13：30～16：30 土曜日（健康相談のみ） 8：30～12：00
財務課（学費）	大学会館 4階	学費に関すること	平日（月～金） 9：00～17：00 （閉室時間11：30～12：30） 土曜日 8：30～12：00
中央図書館	リバティタワー 〈閲覧室〉 1階・地下1～3階 〈書庫〉 研究棟地下2～3階 （書庫は閲覧室地下2階から連絡通路で入庫）	・図書館の利用 ・図書の貸出・閲覧	平日（月～金） 8：30～22：00 土曜日 8：30～19：00 日・祝日 10：00～17：00 ※サービス内容により，対応するカウンター及び時間が異なります。図書館ホームページでご確認ください。
リバティ アカデミー事務局	アカデミーコモン 11階	・TOEIC® IP テスト，TOEFL ITP® テスト ・資格・実務・語学講座 ・ビジネスプログラム ・教養・文化講座	平日（月～金） 10：30～19：00 土曜日 10：30～15：30

機関・部署		場 所	主な取扱事項	取扱時間
駿河台キャンパス				
国家試験指導センター	法制研究所	猿楽町第一校舎1階	法律専門職（法曹）養成に係る学習支援	平日(月～金) 9:00～20:30 土曜日 9:30～16:30
	経理研究所	猿楽町第一校舎1階	公認会計士試験の受験指導	平日(月～金) 9:30～17:00 土曜日 9:30～13:00
	行政研究所	猿楽町第一校舎1階	国家公務員総合職試験を中心とした受験指導	平日(月～金) 9:30～18:30 土曜日 9:30～13:00
和泉キャンパス				
和泉教務事務室	第1校舎	⑨番カウンター	教務窓口（学部以外の教務全般について） ・学部間共通外国語 ・学部間共通総合講座	平日（月～金） 9:00～18:00 （閉室11:30～12:30） 土曜日 8:30～12:00
和泉学生支援事務室	第1校舎	⑪番カウンター	・課外活動関係 ・教室貸出(公認サークルに限る)	平日（月～金） 9:00～18:00 ただし、奨学金係は 17:00まで （閉室11:30～12:30） 土曜日 8:30～12:00
		⑫番カウンター	・厚生施設 ・学生健康保険 ・学生教育研究災害傷害保険 ・遺失物 ・短期貸付金 ・住居／アルバイト紹介	
		⑬番カウンター	・奨学金	
和泉ボランティアセンター	第一校舎地下1階		ボランティアに関する相談、情報提供、イベント実施など	平日（月～金） 9:30～17:30 （閉室13:00～14:00）
学生相談室	第一校舎2階		・大学生活への適応援助 【相談領域】 学業、人間関係、健康、法律問題、精神衛生など ・学生相談主催行事	平日（月～金） 10:00～17:00 土曜日（原則隔週） 8:30～12:00
資格課程和泉分室	第一校舎1階		・教職課程 ・学芸員養成課程 ・社会教育主事課程 ・司書課程 ・司書教諭課程	平日（月～金） 9:00～17:00 （閉室11:30～12:30）
就職キャリア支援センター（和泉）	第一校舎1階		・就職支援・指導に関すること ・キャリア支援・指導に関すること	平日（月～金） 10:00～17:00 （閉室11:30～12:30）
国際教育事務室	第一校舎1階 ①番カウンター		・留学生の奨学金・宿舍・在留資格等に関すること	平日（月～金） 9:00～17:00 （閉室11:30～12:30）
海外留学相談窓口	第一校舎1階		・海外留学等に関すること	平日（月～金） 9:00～17:00 （閉室11:30～12:30）

機関・部署		場 所	主な取扱事項	取扱時間
和泉キャンパス				
国家試験指導センター	法制研究所	和泉リエゾン棟 2階	法科大学院入学試験の受験指導	平日（月～金） 9：30～17：30 土曜日閉室
	経理研究所	和泉リエゾン棟 2階	簿記・会計に関する資格試験の受験指導	平日（月～金） 9：00～17：00 土曜日閉室
	行政研究所	和泉リエゾン棟 2階	国家公務員総合職試験を中心に一般職試験，地方上級試験の受験指導	平日（月～金） 10：00～18：00 土曜日閉室
和泉メディア支援事務室	和泉メディア棟 1階	<ul style="list-style-type: none"> ・情報関係科目 ・情報関連講習会 ・Meiji Mail の利用 ・Oh-ol Meiji システムの利用 	平日（月～金） 8：30～18：00 土曜日 8：30～12：00 ※大学行事等により時間帯が変更になる場合があります。	
和泉サポートデスク	和泉メディア棟 1階	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン利用支援 ・Oh-ol Meiji システム利用支援 ・証明書自動発行機障害対応等 	平日（月～金） 8：30～19：30 土曜日 8：30～14：00 ※大学行事等により時間帯が変更になる場合があります。	
和泉メディアライブラリー	和泉メディア棟 1階	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア教材・資料の視聴・閲覧 	平日（月～金） 8：50～18：00 土曜日 8：50～12：00 ※大学行事等により時間帯が変更になる場合があります。	
和泉診療所	第一校舎 2階	<ul style="list-style-type: none"> ・診療科目：内科 ・医師による診療，怪我をしたときの応急処置（症状によっては外部医療機関を紹介することもあります。） ・健康診断，健康相談 	平日（月～金） 診療受付時間 9：30～12：00 13：30～16：30 ただし，木曜午前は 9：00～11：30 土曜日（健康相談のみ） 8：30～12：00 ※医師勤務都合等により時間帯が変更になる場合があります。	
和泉図書館	和泉図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用 ・図書の貸出・閲覧 	平日（月～金） 8：30～22：00 土曜日 8：30～19：00 日・祝日 10：00～17：00 ※サービス内容により，対応するカウンター及び時間が異なります。図書館ホームページでご確認ください。	

機関・部署	場 所	主な取扱事項	取扱時間
生田キャンパス			
生田キャンパス課	中央校舎 1 階	<ul style="list-style-type: none"> ・学部間共通外国語 ・学部間共通総合講座（文系教員がコーディネーターの講座） 	平日（月～金） 8：30～16：30 土曜日 8：30～12：00
生田学生支援事務室	中央校舎 1 階	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金 ・課外活動関係 ・厚生施設 ・学生健康保険 ・学生教育研究災害傷害保険 ・遺失物 ・短期貸付金 ・住居／アルバイト紹介 	平日（月～金） 8：30～16：30 （閉室11：30～12：30） 土曜日 8：30～12：00
生田ボランティアセンター	学生会館 2 階	ボランティアに関する相談、情報提供、イベント実施など	平日（月～金） 9：00～17：00 （閉室13：00～14：00） 土曜日 8：30～12：00 （土曜日は原則隔週）
学生相談室	中央校舎 2 階	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活への適応援助 【相談領域】 学業、人間関係、健康、法律問題、精神衛生など <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談主催行事 	平日（月～金） 10：00～17：00 土曜日（原則隔週） 8：30～12：00
資格課程生田分室	中央校舎 1 階	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程 ・学芸員養成課程 ・社会教育主事課程 ・司書課程 ・司書教諭課程 	平日（月～金） 9：00～17：00 （閉室11：30～12：30）
就職キャリア支援センター（生田）	中央校舎 1 階	<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援・指導に関すること ・キャリア支援・指導に関すること 	平日（月～金） 9：30～18：00 （11：30～12：30は資料室のみ利用可） 土曜日 8：30～12：00
生田メディア支援事務室	中央校舎 5 階	<ul style="list-style-type: none"> ・情報関係科目 ・情報処理教室の利用 ・情報関連講習会 ・Meiji Mail の利用 ・Oh-ol Meiji システムの利用 ・情報・メディア設備の利用 ・メディアライブラリーの利用 	平日（月～金） 8：30～18：00 土曜 8：30～12：00
生田サポートデスク	中央校舎 5 階	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン利用支援 ・Oh-ol Meiji システム利用支援 ・証明書自動発行機障害対応等 ・MIND 利用支援 	平日（月～金） 8：30～19：30 土曜日 8：30～14：00
国際教育事務室	中央校舎 1 階	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学等に関すること ・留学生の奨学金・宿舎・在留資格等に関すること 	平日（月～金） 9：00～17：00 （閉室11：30～12：30）

機関・部署		場 所	主な取扱事項	取扱時間
生田キャンパス				
生田診療所		中央校舎 2 階	<ul style="list-style-type: none"> ・診療科目：内科 ・医師による診療，怪我をしたときの応急処置（症状によっては外部医療機関を紹介することもあります。） ・健康診断，健康相談 	平日（月～金） 診療受付時間 9：30～12：00 13：30～16：30 土曜日（健康相談のみ） 8：30～12：00
生田図書館		生田図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用 ・図書の貸出・閲覧 	平日（月～金） 8：30～22：00 土曜日 8：30～19：00 日・祝日 10：00～17：00 ※サービス内容により，対応するカウンターおよび時間が異なります。図書館ホームページでご確認ください。
中野キャンパス				
中野キャンパス事務室	共通事項	低層棟 3 階	<ul style="list-style-type: none"> ・各種証明書発行 ・施設設備に関すること ・学部間共通外国語，学部間共通総合講座 	平日（月～金） 9：00～11：30 12：30～18：00 土曜日 8：30～12：00
	情報メディア	1 番窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム，設備に関すること ・教室等設備に関すること ・ICT 授業運営 	
資格課程支援室		高層棟 6 階	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程 ・学芸員養成課程 ・社会教育主事課程 ・司書課程 ・司書教諭課程 	平日（月～金） 9：00～11：30 12：30～17：00 （土曜日は閉室）
サポートデスク		低層棟 4 階	<ul style="list-style-type: none"> ・情報設備等利用支援 ・Oh-o! Meiji システム利用支援 ・MIND サポート ・情報設備の障害一次対応 	平日（月～金） 8：30～19：30 土曜日 8：30～14：00
中野教育研究支援事務室	学生支援	低層棟 3 階 5 番窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金 ・教室の貸出 ・課外活動関係 ・厚生施設 ・学生健康保険 ・学生教育研究災害傷害保険 ・短期貸付金 	平日（月～金） 9：00～11：30 12：30～18：00 土曜日 8：30～12：00
	中野ボランティアセンター		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに関する相談，情報提供，イベント実施など 	

機関・部署	場 所	主な取扱事項	取扱時間	
中野キャンパス				
中野教育研究支援事務室	国際連携	低層棟3階 4番窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学等に関すること ・留学生の奨学金・宿舍・在留資格に関すること ・中野キャンパスにおける国際交流行事 	平日（月～金） 9：00～11：30 12：30～18：00 土曜日 8：30～12：00
	学生相談室	低層棟4階	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活への適応援助【相談領域】 学業，人間関係，健康，法律問題，精神衛生など ・学生相談主催行事 	平日（月～金） 10：00～17：00 土曜日（原則隔週） 8：30～12：00
	就職キャリア支援室 (就職キャリアセンター (中野))	高層棟6階	<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援，指導に関すること ・キャリア支援，指導に関すること 	平日（月～金） 9：30～18：00 （相談受付 17：00まで） 土曜日 8：30～12：00 （相談受付 11：30まで）
	中野診療所	低層棟3階	<ul style="list-style-type: none"> ・診療科目：内科 ・医師による診療，怪我をしたときの応急処置（症状によっては外部医療機関を紹介することもあります。） ・健康相談 	平日（月～金） 診療受付時間 9：30～12：00 13：30～16：30 土曜日（休診：健康相談のみ） 8：30～12：00
	中野図書館	低層棟2階	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用 ・図書の貸出・閲覧 	平日（月～金） 8：30～22：00 土曜日 8：30～19：00 日・祝日 10：00～17：00

4. 主な問合せ先

問合せ事項	問合せ先				摘 要 (申請書・記載物等)
	和泉 キャンパス	駿河台 キャンパス	生田 キャンパス	中野 キャンパス	
各種届出・願について					
学籍関係届出について					
休学するには	学部窓口				休学願（病気の場合は医師の診断書を添付）
退学するには					退学願
復学するには					復学願（病気のために休学した場合は、医師の診断書を添付）
各種届について					
住所・連絡先の変更	学部窓口				変更届
保証人の変更					変更届
改姓（名）					変更届・戸籍抄本添付
特別試験を受験したい					特別試験受験願・証明書類添付
学費の延納を希望したい					学費延納願
学費の振込先を変更したい					学費振込用紙送付先変更届
各種証明書・学割証（学生・生徒旅客運賃割引証）・健康診断証明書について					
各種証明書を取得したい	証明書自動発行機または、学部窓口，中野キャンパス事務室				証明書自動発行機 ※自動発行機についての問合せは、各キャンパスサポートデスク
学割証がほしい	証明書自動発行機				
他キャンパスまでの通学証明書（定期券）がほしい	学部窓口				他キャンパスの授業を履修している場合に限りです。
健康診断証明書がほしい	証明書自動発行機または、診療所・学生支援事務室				自動発行機は卒業年次生のみ発行。他学年生は診療所で受診の後発行する。

問合せ事項	問合せ先				摘要 (申請書・記載物等)
	和泉 キャンパス	駿河台 キャンパス	生田 キャンパス	中野 キャンパス	
学生証について					
紛失及び破損した時	学部窓口			中野 キャンパス 事務室	学生証再発行願
磁気情報が消えた時					
「学生証有効期限：通学区 間証明」シールの記入欄が 埋まった時					
教室の貸出について					
教室の貸出(公認サークル)	学生支援事務室			中野教育 研究支援 事務室 (学生支援 5番窓口)	会場(教室)使用願
教室の貸出(サブゼミ)	学部窓口	教務事務 室	学部窓口 または生 田キャン パス課 (いずれ も担当教 員経由で 申請)		
各種相談ごとについて					
教務全般(履修・卒業要件・ 試験等)について	学部窓口				便覧, 学部シラバス
障がいのある学生の各種学 習支援について	教務事務室「障がい学生学習支援チーム」				
情報関係科目について	学部窓口 または, 和泉メ ディア支 援事務室	学部窓口 または, メディア 支援事務 室	学部窓口 または, 生田メ ディア支 援事務室	学部窓口 または, 中野キャン パス事務 室	学部シラバス, 情報関係科目シラバス
資格課程科目について	資格課程窓口			資格課程 支援室	学部シラバス, 資格課程案内, 資格課程シラ バス
学部間共通外国語科目につ いて	学部窓口 または, 和泉教務 事務室	学部窓口 または, 教務事務 室	学部窓口 または, 生田キャン パス課	中野 キャンパス 事務室	学部シラバス, 学部間共通外国語シラバス
学部間共通総合講座につい て					学部シラバス, 学部間共通総合講座シラバス
留学について	海外留学 相談窓口	国際教育事務室		中野教育 研究支援 事務室 (国際連携 4番窓口)	海外留学の手引き
編入について	学部窓口				編入学試験要項

問合せ事項	問合せ先				摘要 (申請書・記載物等)
	和泉 キャンパス	駿河台 キャンパス	生田 キャンパス	中野 キャンパス	
大学院への進学について	学部窓口または、 大学院・専門職大学院窓口				大学院案内
就職について	就職キャリア支援事務室			就職キャリア支援室	
学費について		財務課 (学費)			
学生生活（アパート・厚生施設・アルバイト・遺失物・サークル活動・健康診断・保険）について	学生支援事務室			中野教育研究支援事務室 (学生支援5番窓口)	CAMPUS HANDBOOK, サークル・ナビ, お部屋探しマニュアル, 学生健康保険のしおり
奨学金について				奨学金情報誌 ASSIST	
学生生活の悩み事に関する相談について	和泉 学生相談室	駿河台 学生相談室	生田 学生相談室	中野 学生相談室	学生相談室あんない
施設の利用					
図書館の利用について	和泉図書館	中央図書館	生田図書館	中野図書館	図書館利用案内
メディアライブラリーの利用について	和泉メディア支援事務室	メディア支援事務室	生田メディア支援事務室	ラーニング・ラウンジ	
厚生施設の利用について	学生支援事務室			中野教育研究支援事務室 (学生支援5番窓口)	明治大学セミナーハウス パンフレット
メディア自習室等施設の利用について	和泉メディア支援事務室	メディア支援事務室	生田メディア支援事務室	中野メディア自習室	リーフレット（『明治大学の情報サービス』）
学習支援室の利用について	和泉学習支援室		理工・農各学習支援室	ラーニング・ラウンジ	学習支援パンフレット, 各学習支援室発行の時間割

5. 証明書の発行

各種証明書は、次の要領により発行されます。

証明書種別	自動発行	手数料	学部	大学院	取扱場所	備考
在学証明書	○	200円	○	○	【証明書自動発行機設置場所】 ・駿河台：5台 リバティタワー3階（3台） アカデミーコモン1階（1台） グローバルフロント1階（1台） ・和泉：2台 第一校舎1階 ・生田：3台 中央校舎1階 ・中野：2台 低層棟3階 【証明書自動発行機稼働時間】 （月～金）9：00～19：30 （土）9：00～14：00 ※長期休業期間等、稼働時間を変更する場合があります。 証明書自動発行機で発行できる証明書は、所属学部・大学院にかかわらず、全キャンパスで取得できます。	
成績証明書	○	200円	○	○		
単位修得見込証明書	○	200円	※	△		※秋学期の履修登録確定後（10月上旬）より発行
卒業見込証明書	○	200円	※	△		※4年生のみ対象
修了見込証明書	○	200円	△	※		※修了年次生（博士後期課程及び法務研究科を除く）のみ自動発行
英文在学証明書	○	300円	○	○		
英文卒業見込証明書	○	300円	※	△		※4年生のみ対象
英文修了見込証明書	○	300円	△	※		※修了年次生（博士後期課程及び法務研究科を除く）のみ自動発行
英文成績証明書	○	300円	○	○		
教育職員免許状取得見込証明書	○	200円	○	△		
仮学生証	○	100円	○	○		
学生・生徒旅客運賃割引証（学割証）	○	無料	○	○		
健康診断証明書	○	300円	※	※		※卒業（修了）年次生のみ自動発行。卒業（修了）年次生以外は各キャンパス診療所に問い合わせること。
調査書	×	200円	○	○	学部事務室窓口	
退学証明書・除籍証明書	×	300円	○	○		
資格（教職・学芸・社教・司書・司書教諭）に関する各種証明書	×	※	○	○	資格課程事務室窓口（駿河台）	※資格に関する証明書の取扱いは、資格課程事務室窓口（駿河台）にて確認すること。
卒業生に関する各種証明書	×	※	○	○	学部事務室窓口	※証明書により料金が異なるため、取り扱い事務室にて確認すること。
通学証明書	×	無料	○	○	学部事務室窓口	
学生証再交付願	○	2,000円	○	○		

MEIJI
2018年度便覧
UNIVERSITY

全学共通事項

IV

各種制度・案内

-
1. 留学
 2. キャンパスライフ
 3. 就職キャリア
 4. インターンシップ

IV

各種制度・案内

1. 留 学



「海外留学の手引き」

《配布・問合せ先》

各キャンパス国際教育事務室、
海外留学相談窓口（和泉）、中
野教育研究支援事務室

本学では、夏季及び春季休業期間を利用した短期留学プログラムの他、在籍したまま1学期間から1学年間の留学ができる「外国留学制度」があります。1学期間から1学年間の留学は2年次から可能ですが、留学を実現するためには早期に準備をすることが重要です。留学をするためには、語学能力試験のスコアや成績評価（GPA）が選考対象になることが多く、継続して語学力を向上させることや本学での授業を計画的に履修することが求められます。

本学の「外国留学制度」を利用して留学をした場合は、所定の手続き・審査を経ることで、留学先で修得した単位を一部本学の卒業要件単位として認定することも可能です。また、「外国留学奨励助成金」という助成制度を設けており、申請資格を満たし採用された場合、30万円を上限とした留学経費助成と、留学先の授業料を負担する場合は授業料（一部）の助成を受けることができます。その他、優秀な学生の海外トップユニバーシティへの留学を促進するために、1学期間に300万円又は100万円を上限とした、「海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」制度を設けております。（当助成制度の内容は毎年見直しが行われます。詳細は当助成金募集要項を確認してください）。

本学の留学制度を利用しないで長期の留学をする場合は、休学制度を利用しての留学となります。その場合、留学期間は在学年数に算入されず、継続履修制度、単位認定、外国留学奨励助成金等の制度を利用することができません。休学しての留学を考えている場合は、諸条件等を所属学部とよく相談してください。

1学期間から1学年間の留学以外にも、長期休業期間等を利用した短期留学プログラムを実施しています。留学制度の詳細については国際教育センターが発行している「海外留学の手引き」（各キャンパス国際教育事務室等で配布）や本学のホームページを参照してください。

ホームページ：<http://www.meiji.ac.jp/cip/from/>

本学の留学制度（長期：1学期間から1学年間）

協定留学：本学又は学部・研究科と海外大学との協定に基づく留学

※留学に関する協定を締結している大学数：38カ国・地域、216大学
（2017年12月末現在）

※本学の協定締結状況についてはこちらで確認いただけます。

<http://www.meiji.ac.jp/cip/univlist/index.html>

認定留学：留学希望者本人が自分で留学先を選定して入学許可をとり、所属学部・研究科の承認を得た留学



2. キャンパスライフ

日々の大学生活の中で「こんな時はどうすればいいのだろう」と疑問が生じることがありませんか。そんな時はまず(1)「CAMPUS HANDBOOK」を開いてみてください。更に詳細な情報が必要な場合は、(2)～(5)の冊子や、各キャンパス学生支援事務室、中野教育研究支援事務室で配付している印刷物を参照、もしくは取扱部署に相談してください。



【Campus Handbook】
《配布・問合せ》
各キャンパス学生支援事務室、
中野教育研究支援事務室



【サークル・ナビ】
《配布・問合せ》
各キャンパス学生支援事務室、
中野教育研究支援事務室



【奨学金情報誌 assist】
《配布・問合せ》
各キャンパス学生支援事務室、
中野教育研究支援事務室

(1) 学生生活全般

名称	CAMPUS HANDBOOK
内容	キャンパスガイド／各種手続／人権教育／健康管理／学生相談／奨学金／課外活動／厚生施設利用／アルバイト／住居紹介／遺失物／短期貸付金／ボランティア／M-Naviプログラム／各種施設利用案内／大学の組織／明治大学に関わる資料・校歌 ほか
配布	入学時及び取扱部署窓口にて配布
取扱部署	各キャンパス学生支援事務室、中野教育研究支援事務室

(2) 課外活動

名称	サークル・ナビ
内容	新入生のための大学公認サークルガイド
配布	入学時及び取扱部署窓口にて配布
取扱部署	各キャンパス学生支援事務室、中野教育研究支援事務室

(3) 奨学金

名称	奨学金情報誌 ASSIST
内容	奨学金スケジュール／主な奨学金の紹介と説明／奨学金の手続について／申請書類
配布	希望者のみ ※配布の時期や場所については学内の掲示に注意してください
取扱部署	各キャンパス学生支援事務室、中野教育研究支援事務室



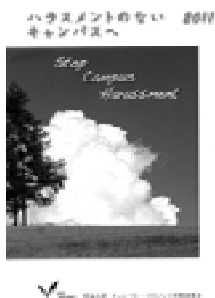
『学生健康保険のしおり
《病気やケガをしたときの
ために》』

《配布・問合せ先》
各キャンパス学生支援事務室、
中野教育研究支援事務室



『学生相談室あんない』

《配布・問合せ先》
各キャンパス学生相談室



『ハラスメントのないキャンパスへ』

《配布・問合せ先》
駿河台キャンパス
キャンパス・ハラスメント相談
室

(4) 学生健康保険

名称	学生健康保険のしおり《病気やケガをしたときのために》
内容	学生健康保険とその利用方法／学内診療所／協定医療機関／明治大学学生健康保険互助組合同規約／明治大学学生健康保険互助組合同規約細則
配布	入学時
取扱部署	各キャンパス学生支援事務室、中野教育研究支援事務室

(5) 学生相談

名称	学生相談室あんない
内容	学生相談室の利用方法と役割
配布	入学時
取扱部署	各キャンパス学生相談室

(6) キャンパス・ハラスメント相談

名称	ハラスメントのないキャンパスへ
内容	キャンパス・ハラスメントとは？／被害にあってしまったら（相談の申し込みについて）他
配布	入学時
取扱部署	駿河台キャンパス キャンパス・ハラスメント相談室

(7) 遺失物の取り扱いについて

遺失物の届出及び問い合わせは、各キャンパス学生支援事務室（中野キャンパスは防災センター）で取り扱います。所有者の明らかな遺失物については、各キャンパス学生支援事務室（中野キャンパスは中野教育研究支援事務室）を通じて連絡・返還します。

また、本学キャンパスにおいて遺失物を拾得した場合は、最寄りの事務室、守衛所（防災センター）まで届けてください。なお、貴重品は常に身体から離さぬよう、管理には十分注意してください。

(8) 通学について

本学は、キャンパスの環境維持と安全確保のため、キャンパス内への車両入構を禁止しています。

通学には公共の交通機関を利用してください。特に、駿河台キャンパスには駐輪場がありません。路上に置かれたバイクや自転車は、通行妨害や緊急時の救援活動の障害になる等々、地域に多大な迷惑をかけるとともに、取り締まりの対象になります。

3. 就職キャリア

就職は人生の新しいスタートライン

長い人生には、進学、就職、結婚、定年と大きな節目があります。これらの節目は常に新しいスタートであってゴールではありません。とりわけ就職は、自分の夢を実現し、豊かな人生を送るための重要なスタートラインです。

将来どう生きたいのか

「就職なんて先のこと」と思っていると、時間はあっという間に過ぎてしまいます。大学受験に際して「将来どんなことをしたいのか」、「そのために大学で何を学ぼうとしているのか」ということを十分考えて学部を選択をしたと思います。将来就こうと考えている職業には「どんなことが必要なのか」、「どんな勉強をしなければならないのか」、「そのためにはどういう科目を履修しなければならないのか」を研究してください。

充実した学生生活が大切

これからの社会が求める人材は、「言われたことをこなすだけの機械のようなタイプ」ではありません。「自ら問題を発見し、自ら解決方法を考え、解決するために行動できる人材」が求められています。

就職するにあたっては、これから過ごす学生生活が重要となり、そのことを問われます。学業（特にゼミナール・研究室）は勿論のこと、サークル活動等、学生時代でしか出来ないことを経験し、充実した学生生活を送ってください。また、学生生活をとおして「物の見方、考え方」を身に付けることが大切です。

「充実した学生生活」を送るためのポイント

希望の進路の実現に向けた「充実した学生生活」を送るためのポイントを挙げておきます。参考にしてください。

(1) 学業に真剣に取り組む

社会に必要な人材として活躍するためには、当然のことながら、次のような視点から学業に取り組む姿勢が必要です。

① 多様な科目履修による知識の拡大

(ア) グループディスカッション、プレゼンテーション、文章表現の能力を修得するため、1・2年次に設置されているゼミナール形式の演習科目を履修しましょう。

(イ) コース制等の利用で、自分の目標に応じて、修得することが必要と判断された専門科目を履修しましょう。

(ウ) 専門のゼミナールや卒業論文、研究等、自分が学ぶテーマを設定し、追究しましょう。

② 語学力の向上

(ア) カリキュラム上の外国語科目は勿論のこと、会話やコミュニケーション能力の向上を目的として、学部間共通外国語科目（全学部間共通の自由履修科目）の履修や、春期・夏期集中講座やカナダのヨーク大学等での英語研修講座など特別講座を受講しましょう。

(イ) TOEIC[®]・TOEFL[®]などの検定試験を積極的に受験し、客観的に自分を評価し、目標の設定などに役立てましょう。

(2) 学生生活の中で打ち込めるものを探す

就職活動の際には「学生時代にどのような目的（目的意識）をもって学生生活を送ってきたか」が重要視されます。次のような体験をきっかけとして、何か一つでも打ち込めるものを探し出してみましょう。

① サークル活動等の課外活動

正課とは違った課外活動を通して、他学部の学生とのネットワークを広げることができます。そのような活動から、自分とは違うものの見方（価値観）を学んだり、組織の中での自分の役割を考える機会が得られます。

② インターンシップ等の就業体験

社会活動での実体験を通して、社会観や職業観を養いましょう。責任感や良好な人間関係の作り方などを会得できる機会になります。

③ ボランティア等の自主活動

社会奉仕活動などの体験を通じて、社会貢献の意義を実感しましょう。いろいろな世代の人と交流することにより、他者を理解し、ものを見る目を養うとともに、将来の人生のイメージを描きましょう。

④ 旅行等の趣味

学生生活というまとまった時間があるときに、今しかできないようなこと（非日常的な体験）をしましょう。この体験を通して、見聞を広め、異文化や他者の中における自分といった、客観的な視点も身につけましょう。

就職は挑戦である

就職キャリア支援センターは、「就職は挑戦である」をモットーに皆さんの就職活動を支援しています。就職は偏差値で測ることができません。自分の夢を自分の力で切り開かなければなりません。皆さんの目標を達成するために様々な支援をします。夢の実現に向けて大いに挑戦をしてください。

就職キャリア支援センターとは

就職キャリア支援センターでは、低学年からのキャリア形成に関する支援及び職業安定法(第33条の2)に基づいた就職に関する支援を各キャンパス就職キャリア支援センターで行っています。また、理工学部・農学部・総合数理学部ではそれぞれ就職に関する委員会を設け、教員による就職指導も行っています。

就職キャリア支援センターの目的は、みなさんに能力及び特性が十分にいかせる進路や職業を選択してもらうための支援行事を行うことにあります。

具体的な例として、インターンシップ支援、個人・グループへの就職・進路相談、就職筆記試験や面接対策講座、各種セミナーの実施などを行っています。

(1) 相談コーナー

就職活動や進路選択のあらゆる段階で不安や疑問が生じると思われます。相談コーナーでは、このような質問を予約不要で、随時受け付けています。個人面談では、就職採用模擬面接、履歴書・エントリーシートのチェックやアドバイスなどを行っています。就職や進路選択に関することであれば、どんな質問・相談でも結構です。気軽に利用してください。

また「ひとりでは話しづらい」「友達と一緒に、就職活動全般についていろいろな話を聞いてみたい」という人には、ゼミやサークル、クラスなど、複数名での相談も受け付けています。

*相談受付時間

駿河台	月～金	9：30～17：00
	土	8：30～11：00
生田	月～金	9：30～11：00, 12：30～17：00
	土	8：30～11：30
和泉	月～金	10：00～11：30, 12：30～16：30
中野	月～金	9：30～17：00
	土	8：30～11：30

※開室時間等が変更する場合がありますので、掲示板またはホームページで確認してください。

(2) ホームページ

<http://www.meiji.ac.jp/shushoku/index.html>

就職キャリア支援センター主催の行事や本学の学生のみが見ることのできる求人情報など、みなさんにとって有益な情報が満載です。

(3) 資料室

資料室には、業界・企業研究に役立つ各種資料を取り揃えています。その中でも、「就職活動報告書」は、企業や団体に内定した卒業生が残した記録で、実際の面接で聞かれたことや筆記試験内容など詳細に記載されており、「明治大学ならではの！」の大変貴重な資料です。

(4) 主な就職キャリア支援行事年間スケジュール

就職キャリア支援センターでは、様々な行事を開催しています。(次々頁「就職キャリア支援行事カレンダー」参照)

4. インターンシップ

インターンシップとは？

一般的に学生が在学中に企業などにおいて、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うプログラムを指します。

このプログラムで得られる効果として、高い職業意識を持つ人材へと成長することや大学での学習意欲が向上するといったことなどが挙げられます。将来の進路選択に生かせる経験となるので、是非参加してください。

インターンシップの種類

大きく分けて次の3種類があります。

(1) 各学部実施型インターンシップ

特徴：各学部の授業の一環。事前に履修登録の必要があります。

単位認定：あり

問い合わせ先：各学部事務室（実施していない学部もあります）

(2) ALL MEIJI インターンシップ

特徴：大学と受入機関の間で協定を結んだ上で実施。

単位認定：学部毎に異なります（所属学部事務室にご確認ください）

問い合わせ先：各キャンパス就職キャリア支援センター

(3) 自己開拓（自由応募）型インターンシップ

特徴：各企業・団体が独自に実施

単位認定：学部毎に異なります（所属学部事務室にご確認ください）

問い合わせ先：各企業・団体

（各キャンパス就職キャリア支援センター掲示板等で紹介している場

合もあります)

MEIJI
2018年度便覧
UNIVERSITY

全学共通事項

V

情報サービス

1. Oh-o! Meijiシステム
 2. サポートデスク
 3. 電子メール, メディア
教室・自習室の利用等
- MIND 利用上の遵守事項ガイドライン

情報サービス



『明治大学の情報サービス』（カラー刷りリーフレット）

明治大学のさまざまな情報関連サービスを、横断的にわかりやすく紹介したリーフレットを配布しています。ここで紹介されている情報サービスをぜひ有効活用してください。

【掲載内容】

- 「明治大学の情報環境, 情報サービス」
- 「アカウントとパスワード」
- 「MIND 利用講習会」
- 「いろいろな情報サービス」
- 「サポート体制」等

【配布場所】

学部窓口, 図書館, サポートデスク, メディア支援事務室等

1. Oh-o! Meiji システム

明治大学には、インターネットを介して大学生活に必要な様々な情報にアクセスできる「Oh-o! Meiji システム」があります。

Oh-o! Meiji システムには、大学生活に関するお知らせを各自に配信する「ポータル」、授業資料やレポート提出などの授業情報にアクセスする「クラスウェブ」、曜日・時限や教員名、シラバス内容等で授業を検索する「授業検索」などの機能があります。

<https://oh-o2.meiji.ac.jp>

※スマートフォンからも利用できます。

(1) ポータル

ポータルでは、大学からの「お知らせ」の表示（お知らせは個人設定からメール転送も可能）、学年暦や休講・補講、個人のスケジュールを管理できる「カレンダー」、他にも「アンケート」「リンク集」など様々な機能を提供しています。



Oh-o! Meiji ポータル : PC サイト

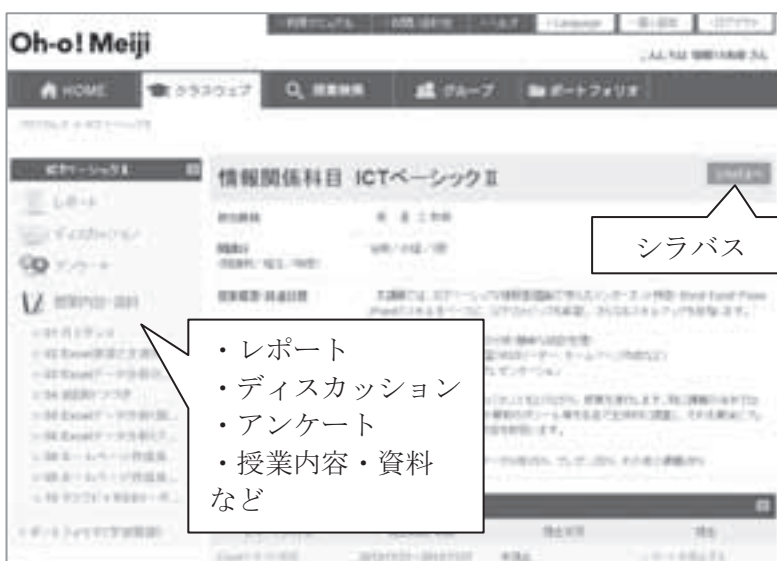


スマートフォンサイト

(2) クラスウェブ

クラスウェブでは、個人の時間割表から各授業ページへアクセスすることができます。各授業ページでは、「シラバス」「授業内容・資料」の閲覧、「レポート」の提出、「ディスカッション」「アンケート」「教員からのお知らせ」「出席管理」など授業を支援する様々な機能を提供しています。

※ クラスウェブの内容は、教員ごとに運用が異なります。



Oh-o! Meiji クラスウェブ : PC サイト



スマートフォンサイト

2. サポートデスク

情報サービス利用を支援するサポートデスクが各キャンパスに設置されています。

- ・学内メディア設備の使い方を教えてほしい。
- ・Oh-ol Meiji システムの使い方は？
- ・証明書自動発行機にお金を入れたのに発行されない。

など、情報サービスについてわからないことがある場合は、サポートデスクまで連絡してください。サポートデスクの場所や開室時間は、『Ⅲ－3 その他の取扱部署』をご覧ください。

3. 電子メール，メディア教室・自習室の利用等

- ・メールを利用したい場合

「Meiji Mail アカウント」を用いて、大学の電子メールサービスを利用することができます。

「Meiji Mail アカウント」は入学時に全員登録済みです。

- ・メール利用に関する窓口

メディア支援事務室，和泉メディア支援事務室，生田メディア支援事務室，中野キャンパス事務室

- ・大学のコンピュータを利用したい場合

メディア自習室やメディア教室が利用できます。メディア自習室にはTA（ティーチング・アシスタント）等が常駐し、きめ細やかなサービスを提供しています。

これら施設内のコンピュータは、「共通認証アカウント」(駿河台キャンパス，和泉キャンパス，中野キャンパス) または「基盤サービスアカウント」(生田キャンパス) で利用できます。

- * web ページを閲覧する資格を得るには「MIND 利用講習会」を受講する必要があります。新入生は、学部ガイダンス内で実施します。

MIND利用上の遵守事項ガイドライン

～インターネットを使う上で守るべきこと～

MIND(マインド)とは:Meiji University Integrated Network Domain の略。

明治大学に整備されたネットワークのこと。

このガイドラインは、MINDの利用基準(<http://www.meiji.ac.jp/mind/rule/mind-riyokijun.html>) 第7条に定める遵守事項を分かりやすく説明するためのものです。ガイドラインを十分に理解し、明治大学の一員としてMINDの良識ある利用を心がけてください。

1. はじめに

MINDでは、以下のような行為は不正利用として禁止されています!!【重要】

- ① 他者になりすましてMINDを利用すること、およびそれを助長すること。

例えば・・・

ID/パスワードを貸し借りすると、貸した者も借りた者も不正利用となります。
「自分のID/パスワードを使い学内パソコンにログオンし、そばについて友人に利用させる」等も、実質的に代人利用ですので不正です!

要注意!

- ② 他人の権利を不当に侵害する情報、公序良俗に反する情報を取り扱うこと。
- ③ 知的財産権により保護された情報を不当に扱うこと。
- ④ 教育・研究、およびその支援に関する目的以外に利用すること。
- ⑤ 特別に許可された場合を除き、営利目的のために利用すること。
- ⑥ 通信の秘密を侵害すること。
- ⑦ MINDの運用に支障を来すような利用をすること。

★不正利用に対する措置★

MINDを不正利用した者に対しては、MIND関連規程に則り、利用停止や利用資格取消等の厳しい措置がとられます。これらの措置を受けた者は、以下のような深刻な状況になります。

- ・ Webでの履修申請ができなくなる。
- ・ 証明書自動発行機が利用できなくなる。
- ・ Oh-o! Meiji システムの利用ができなくなる。
- ・ 授業や研究等で使用する場合であっても、MINDを利用することができなくなる。
- ・ 教室や自習室に設置してあるパソコンの利用ができなくなる。
- ・ 各キャンパス図書館の情報検索用パソコンの利用ができなくなる。
- ・ 学内の情報コンセントの利用ができなくなる。
- ・ 大学の電子メールが利用できなくなる。
- ・ その他MINDを利用する全てのサービスが受けられなくなる等...

このような状況を招かないためにも、以降の説明を熟読したうえで、適正にMINDを利用してください。

2. MIND利用の目的

MINDは、一般のプロバイダなどでのネットワーク利用とは異なり、「教育・研究及びその支援」以外の目的の利用を禁止しています(MIND利用基準第7条第1項第1号)。

したがって、MINDは、ゲームその他の娯楽や趣味の目的、ネット・ショッピングサイト開設などのような営利目的、純然たる政治活動の目的、特定の宗教の布教等の目的で利用できるシステムではありません。まして、ネットワークを利用したいいわゆる「出会い系サイト」の運営、「援助交際」や「ねずみ講」まがいの行為あるいは「ギャンブル」などは許されません。ソフトウェアの違法コピーのための利用も許されません。この他、ネットワーク上の迷惑行為、例えば商業的な広告宣伝の目的で不特定多数の人に電子メールを送りつける行為等も許されません。

3. 通信の秘密とプライバシーの保護

MINDでは、電子メールなどを利用して情報をやり取りすることができます。

情報のやり取りについては、憲法で保障された基本的人権である「通信の秘密」をはじめとして、「プライバシー」及び「個人情報」の保護が強く求められます。したがって、他人の電子メールの内容を勝手に見たり、本人の承諾を得ないまま電子メールの内容を他人に知らせたりすることは許されませんし、その他システム上のトラブルを招く行為も禁止されています。

サークルやゼミなどでは、お互いの連絡のためにメンバー限定で個人情報が共有されている場合があります。メーリングリストの参加者のアドレスを含め、公開されていない個人情報を、本人の承諾なく他人に知らせる行為も許されません。

4. システムの適正な利用

MINDは、非常に高機能なネットワーク・システムです。そして、とても多くの人たちが毎日このシステムを利用しています。

システムが円滑に運営されるためには、MINDを支えているコンピュータ・システムが安全に機能していることが不可欠です。システムの安全の確保にとって最も大きな脅威は、コンピュータ・ウイルスなどのマルウェアです。出所不明のプログラムや電子メールの転送、知らない人から送られてきた添付ファイルを安易に開くことは、とても危険なことです。

従来、パソコンのセキュリティ上の欠陥が発見される度に、それを悪用する新しいマルウェアが何者かによって作られてきました。本学でも、こうしたマルウェアによって、多くのパソコンが感染による機能不全に陥り、その結果として、ネットワークが遅くなるなど、大きな影響を受けたことがありました。このようなマルウェアの感染被害を防止するためには、MINDに接続する各パソコンにおいて、セキュリティ上の欠陥を修正するプログラムを実行すること(Windows Update 等)が大切です。

他の利用者の存在やシステムの負荷を考慮せず、利己的な都合だけで大量の電子メールを送受信することなどもシステムの円滑な利用を阻害します。なかなかネットワークにつながらないからといって、自分の端末装置(クライアント)をネットワークに接続し続ける行為やVPN 接続等の受け口を独占するような行為は、結果的に、システム全体の接続状況を悪化させることとなります。

5. 社会常識に反する行為

ホームページの開設やメーリングリストの利用などにより、一定の社会関係が形成されます。そこでは、参加する利用者に、人間としての尊厳を相互に尊重し合うことが求められます。このことは、普通の社会における人間関係とまったく同じです。したがって、ネットワーク上での誹謗中傷や名誉毀損行為、感情の流れにまかせた個人攻撃、不合理な差別行為、ストーカー行為やセクハラ行為などは、決して許されるものではありません。状況をわきまえないで、面半分だけのからかいや卑わいな言動をすることなども禁止されています。

6. 遵守事項違反行為に対する措置

MINDの遵守事項を守らない利用者に対しては、一定の措置が適用されます。

措置には、利用資格の取消、利用資格の停止、利用資格の変更、その他の教育的措置などがあります。MIND審査委員による最終的な措置が決定されるまでの間、仮の措置として、MINDの利用が暫定的に停止または制限されることがあります。

利用資格の停止がなされると、停止が解除されるまでの間はMINDにアクセスすることができません。その結果、ネットワークを利用する授業科目を受講できなくなることもあります。

学内に設置されているほとんどの共有施設のパソコンは、IDとパスワードによる認証を前提として運用されています。よって、それらの貸借は、その詐称行為に相当し、MINDの適正かつ正常な運用を妨げる不正行為として、貸した側の学生と借りた側の学生の両者が措置を受けることになります。

MINDの利用者のうち、MINDに接続する機器(サーバやパソコン、無線LAN接続を行ったスマートフォン等)を所有する者は、その管理責任を負うことから、「接続責任者」と呼ばれています。研究室や実験室のパソコンの接続責任者は、通常、その研究室や実験室の先生です。研究室や実験室のパソコンでネットワークを学生に使用させている場合、学生のいずれかが違反行為をすると、利用資格の取消などは接続責任者である先生に対してなされます。この場合、接続責任者である先生の利用権限に基づいて、それらの研究室や実験室などのパソコンでネットワークを利用している他の学生も、一同にネットワークの利用ができなくなってしまう。そのため、ネットワークを利用して教育活動をする先生は、学生などのユーザに対し、接続責任者としての教育・指導を徹底するように義務づけられています。ただし、情報コンセント接続、無線LAN接続、VPN接続をモバイル・アカウントで行う場合には、接続をする人が学生であっても接続責任者となります。

みなさんが管理・所有しているパソコンが、新たなマルウェアの発生源と認定された場合は、正常な状態に回復したことが確認されるまで、一時的に学内ネットワークへの接続を停止する、モバイル・アカウントを停止する等の措置をとらせていただくこともあります。

7. コンピュータ犯罪と民事賠償責任

MINDの利用上の違反行為が悪質な場合、コンピュータ犯罪として処罰されたり、民事上の責任として損害賠償責任を負うこともあります。たとえば、他の利用者のデータを勝手に書き換えたり壊したりすると犯罪になります。詐欺目的で課金システムに偽のデータを送信したりプログラムを書き換えたりすれば、重い罪になります。ネットワーク上の名誉毀損、業務妨害行為、ソフトウェアの違法コピーなども処罰対象となる行為です。さらに、わけつな画像や文章などをホームページに掲載するのも犯罪行為です。犯罪行為の場合には、刑事事件として警察の捜査対象となります。

コンピュータ犯罪にならないものも含めて、ネットワーク上で他人の権利を害する行為をすると、民事上の損害賠償責任を問われることがあります。たとえば、電子メールやメーリングリストあるいはホームページでの名誉毀損行為、誹謗中傷行為、脅迫行為、差別発言行為、ソフトウェアの違法コピーなどで悪質なものは、それが犯罪にならない程度のものであっても、民事上の損害賠償責任を負わされることがあるのです。わざとやったのではなく、まちがってネットワーク・システムを壊してしまった場合でも、そのあやまち(過失)の内容と程度によっては、損害賠償責任を負うことがあります。この場合、賠償金額がかなり巨額になる可能性があります。まちがいは言えないにしても度が過ぎた場合で、それが社会的な相当性を欠く場合も同じです。もし学生がMINDの規程違反行為その他の不都合な行為をしてしまい、法的責任を負わされる可能性があるときは、その後の対応(弁護士相談を含む)について、速やかに各キャンパスのメディア支援事務室または中野キャンパス事務室の窓口申し出てください。

8. ネットワークの快適な利用に向けて

MIND利用基準上の遵守事項は、大学の情報ネットワーク・システムを利用する上での最低限度のルールを定めるものです。

大事なことは、ネットワーク上であっても、普通の社会生活と同様に、社会の一員としての良識に従った利用が必要だということを自覚すること、すなわち、きちんとしたモラル意識を身につけることです。ネットワークの利用者は、相手の人格と生活を相互に尊重し、誰もが快適にネットワークを利用できるように気配りすることを心がけましょう。一人ひとりの心がけにより、快適で実り多いネットワーク利用が保障されるのです。



発行日	2018年4月1日
発行	明治大学 情報基盤本部
URL	http://www.meiji.ac.jp/mind/

MEIJI
2018年度便覧
UNIVERSITY

全学共通事項

VI

施設の活用

1. 図書館
2. メディアライブラリー
3. 国家試験指導センター
4. 学習支援室
5. メディア自習室

VI

施設の活用

1. 図書館



「図書館利用案内」

《配布場所》図書館カウンター

大学での学修・研究に図書館の利用を欠くことはできません。図書館を上手に活用することが大切です。

図書館の利用には、まず「勉学の場所」としての利用があげられます。また、図書館が所蔵する「図書・論文を閲覧する場所」としての利用があります。さらにインターネットを通して「学術情報を収集する」ためのポータル（portal、表玄関または入口のこと）として使われます。

ぜひ図書館を情報の窓口として活用してください。

4つのキャンパスの図書館を利用できます

明治大学は、駿河台、和泉、生田、中野のキャンパスがあります。

4つのキャンパスには、図書館がそれぞれ設置されています。蔵書数は、約262万冊です。本学の学生は、4つのキャンパスの図書館を自由に利用することができます。通学するキャンパスの図書館、住まい近くのキャンパスの図書館を上手に使いましょう。

図書館の利用についてわからないことがあれば、図書館のカウンター係員にたずねてください。

学生証が図書館利用証です

図書館の入口には、入館ゲートが設置されています。入館するには、学生証が必要です。図書を借りるにも、学生証が必要です。学生証は、必ず携帯してください。

書庫の本を直接、利用できます

図書・雑誌は、図書館の閲覧席に隣接している開架の図書・雑誌と、書庫に配架されているものがあります。利用者は書庫に入って、直接、必要な図書を自分で探すことができます。書庫は、知識の宝庫であり、あなたの頭脳に知的刺激を与えてくれる空間です。

本を探すには目録（OPAC）で検索します

必要な図書・雑誌を探すには、OPAC検索が必要となります。OPACは、Online Public Access Catalogの略称です。

OPACでは、図書の検索だけでなく、図書の予約、貸出延長、配送（他キャンパスの図書館からの取り寄せ）ができます。OPACは、インターネットで公開しているので、自宅でも利用できます。

デジタル資料が利用できます

図書館では、教育・研究の資料として重要な電子ジャーナルやデータ

ベースといったデジタル資料を数多く契約しています。図書館ホームページからご利用ください。図書館内のパソコンのほか、学内ネットワークに接続したパソコンであれば利用できます。

図書館内でパソコンが使えます

インターネット、デジタル資料等を利用するために図書館内でパソコンを貸出しています。また、閲覧席には、電源と情報コンセント（一部、無線LAN）が配備されています。図書館内に自分のパソコンを持ち込んで使うこともできます。

図書館ツアー（利用案内）を実施しています

図書館を上手に使うコツは、図書館をよく知ることです。図書館では、ゼミ単位のツアー、グループ単位のガイダンス、個人で参加できるフリーツアーを開催して、施設の案内、外部データベースの利用法等を説明しています。また、図書館情報リテラシーに関連した授業として、学部間共通総合講座「図書館活用法」が開講されています。

図書館ホームページを確認しましょう

図書館を知るには、図書館ホームページをご覧ください。開館日時、サービス内容、図書館に関する情報等が掲載されています。また、学術情報に関するポータルサイトとして活用できます。

図書館ホームページ URL： <http://www.lib.meiji.ac.jp/>

開館時間

	月～金	土	日・祝日
中央図書館	8：30～22：00	8：30～19：00	10：00～17：00
和泉図書館			
生田図書館			
中野図書館			

本学の学生・教職員は、いずれの図書館も利用できます。

休館日

- ・創立記念日（1月17日）及び創立記念祝日（11月1日）
 - ・夏季及び冬季休業期間のうち、図書館が定める日
 - ・入学試験実施に伴う入構制限期間 ※和泉図書館のみ
 - ・館内整理その他の理由で臨時休館する必要がある日
 - * 休日授業実施日は、原則として開館します。
 - * 開館時間・休館日は変更する場合があります。
- 掲示または図書館ホームページをご確認ください。

貸出冊数

貸出冊数は、15冊まで、15日間借りることができます。

- 図書館の利用方法については、『図書館利用案内 学生用』（小冊子、図書館内で配布）をご覧ください。

2. メディアライブラリー

語学等のメディア教材や資料を自由に視聴できるメディアライブラリーが、各キャンパスに設置されています。

キャンパス	場 所	利用時間
駿河台	12号館 7階	平日（月～金） 9：00～20：00 土曜日 9：00～18：00
和泉	メディア棟 1階	平日（月～金） 8：50～18：00 土曜日 8：50～12：00
生田	中央校舎 5階	平日（月～金） 8：30～17：30 土曜日 8：30～11：45 (受付は閉室30分前まで)
中野	高層棟 1階 (ラーニング・ラウンジ内)	平日（月～金） 9：00～17：45

3. 国家試験指導センター

(1) 法制研究所

将来、法曹界（裁判官・検察官・弁護士）を目指す学生に対して、基礎から専門科目までの学習支援をしています。主な内容は、ゼミナール、答案作成練習など集中的な学習支援にあります。さらに、外部機関との提携により、さまざまな法律専門職（法曹）養成講座及びロースクール入試対策講座を開講しています。

【法制研究所入室要領】

	入室試験	入室時期	募集人数
和泉研究室	なし	原則募集は4月	制限なし
駿河台研究室	なし	随時（3年生以上を原則とする）	制限なし

〔問い合わせ先等〕

和 泉：リエゾン棟 2階 (Tel:03-5300-1459, E-mail:izuhosei@cmm.meiji.ac.jp)
駿河台：猿楽町第一校舎 1階 (Tel:03-3296-4435, E-mail:hoseiken@cmm.meiji.ac.jp)



〔明治大学 法学学習支援各種試験対策入門講座〕

パンフレット

《配布場所》

和泉キャンパス：第一校舎入口付近

パンフレットコーナー他

駿河台キャンパス：法学部事務室他



「経理研究所」パンフレット
《配付》4月ガイダンス時に配付
和泉キャンパス第一校舎入口付近
パンフレットコーナー他

(2) 経理研究所

公認会計士を目指す学生に対し、学内講座・提携専門学校講座の利用機会、及び【特別会計研究室】の提供などを通じて、公認会計士試験合格支援のための諸活動を行っています。4月上旬に和泉キャンパスでガイダンスを実施します。

【講座】

学習コース	講座の種類	内容
会計士サポートコース	学内講座	初学者・経験者を対象に簿記入門講座（3・2級）～計算基礎クラス（1級）を開設（和泉）
	提携講座	提携専門学校が提供する会計士本科の利用が可能（専門学校）

※計算基礎クラスの利用は入室試験と連動しており、入室試験に合格することが条件です。ただし、2級合格者は筆記試験免除となります。

【特別会計研究室】

自習室や受験情報の提供、各講座の割引・合格奨励奨学金制度など学習環境の整備支援と、本学 OBOG の公認会計士・大学教員による指導などを行っています。

	入室試験の時期	定員	試験内容	対象
和泉	6月、8月、11月	約120名	簿記試験（日商簿記1～2級の各級）	1・2年生
駿河台	7月、2月	約120名	財務会計論（財表・簿記） 管理会計論・面接	在学生・ 卒業生・修了生

〔問い合わせ先等〕

和泉：リエゾン棟2階（Tel:03-5300-1445, E-mail:izukeiri@cmm.meiji.ac.jp）

駿河台：猿楽町第一校舎1階（Tel:03-3296-4427, E-mail:keiriken@cmm.meiji.ac.jp）

(3) 行政研究所

国家公務員総合職試験を目指す学生を中心に、試験対策への豊富な情報を提供するとともに、受験指導のエキスパートによる特別講義を通じて指導を行っています。和泉キャンパスでの指導は、国家公務員総合職試験をはじめとして、一般職試験、地方上級職試験にも対応しています。生田キャンパスでは理科系学生を対象に技術系公務員講座を開講しています。

【募集方法】

場所	学年	募集人員	
和泉分室	1年生	約100名	4月にガイダンスを行い、筆記・面接試験を実施する。
	2年生	約80名	
生田講座	3年生	約50名	4月にガイダンスを実施する。

〔問い合わせ先等〕

和泉：リエゾン棟2階（Tel:03-5300-1448, E-mail:izgyosei@cmm.meiji.ac.jp）

駿河台：猿楽町第一校舎1階（Tel:03-3296-4420, E-mail:gyoken@cmm.meiji.ac.jp）



「行政研究所 ガイドブック」パンフレット

《配付》4月ガイダンス時に配付
和泉キャンパス第一校舎入口付近
パンフレットコーナー他

4. 学習支援室



【明治大学学習支援】
パンフレット

学習支援室は、学生の学習をさまざまにサポートすることを目的に、和泉、生田、中野キャンパスに設置されています。現在は、主に大学院生のTA（ティーチングアシスタント）による学習指導を行っています。

学習支援室では下記のものを用意しております。

- ・パソコン
- ・辞書、辞典、参考書、参考文献等

キャンパス	施設名	場所
和泉	和泉学習支援室	第一校舎1階
生田	理工学部学習支援室	第二校舎D館2階
	農学部学習支援室	第一校舎2号館1階
中野	学習支援コーナー	高層棟1階 (ラーニング・ラウンジ内)

※ 各学習支援室によって、支援内容や支援時間が異なるので、詳細は各学習支援室にご確認ください。

5. メディア自習室

【メディア自習室】

メディア自習室を各キャンパスに開設しています。ゼミ課題等の学習に利用してください。

場所	開室時間	備考
和泉キャンパス 和泉メディア棟2階	平日（月～金） 8：50～19：50 土曜日 8：50～16：20	共通認証アカウントでログイン
駿河台キャンパス 12号館8階	平日（月～金） 9：00～21：00 土曜日 9：00～18：00	
生田キャンパス 中央校舎5階 中央校舎6階（※） 第二校舎A館2・3階（※）	平日（月～金） 8：30～19：00 土曜日 8：30～16：00	基盤サービスアカウントでログイン （※）月～金 9：00～18：50の うち授業がない時間のみ
中野キャンパス 高層棟2階	平日（月～金） 9：00～19：30 土曜日 9：00～16：00	共通認証アカウントでログイン

※上記開室時間は変更となる場合がありますので、各キャンパスメディア支援事務室のHP・掲示を確認してください。

MEIJI
2018年度便覧
UNIVERSITY

全学共通事項

VII

緊急時対応

1. 交通機関がストライキを行い、
電車の運行を停止した場合の
授業について
2. 大規模地震等災害発生時の対
応について

VII

緊急時対応

緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。

1. 交通機関がストライキを行い、電車の運行を停止した場合の授業について

- ① JR（山手，中央，総武，京浜東北，常磐，埼京）の各線のうち，2線以上の電車が運行を停止した場合には，次の区分により当日の授業を休講とします。
 - 午前5時までに中止されない場合
1・2時限の授業（Mmを含む）
 - 午前9時までに中止されない場合
1～4時限の授業（Lmを含む）
 - 正午までに中止されない場合
1～6時限の授業（Nm・専門職7時限を含む）
- ② 私鉄（東武，京成，東急，京王，西武，小田急，京浜急行，東京メトロ）および都営地下鉄のうち，3社以上の電車が運行を停止した場合にも，上記①のとおり当日の授業を休講とします。
- ③ 次の私鉄が電車の運行を停止した場合には，上記②に関わらず①のとおり当日の授業を休講とします。
 - 京王電鉄・・・和泉キャンパスのみ休講
 - 小田急電鉄・・・生田キャンパスのみ休講
- ④ 下記の場合等により，授業に支障があると判断される場合の休講措置については，その都度学長が決定します。
 - 上記以外の交通機関がストライキを行う場合
 - JR または大手私鉄が時限ストライキを行う場合
 - その他により，電車の運行が停止される場合

2. 大規模地震等災害発生時の対応について

【I】大規模地震発生時の行動

授業中に大規模地震が発生した場合は，あわてず次のような安全行動

をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震基準を満たしており、容易に倒壊するということはないと想定しています。

(1) 地震発生時の行動

身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。(大きな地震でも1～2分で揺れはおさまります。)

- ・机の下に隠れる、衣類や鞆等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。
- ・自動販売機、ロッカー等が倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、そばに近寄らないでください。

(2) 地震直後の行動

大きな地震の後には、必ず余震が来るとおぼやかしてください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。

- ・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。
- ・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を使用し初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。
- ・教室内の安全を確認してください。

(3) 地震後の行動

- ・傷病者がいたら、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。
- ・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。

(4) 避難行動

・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災や壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合や薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物で指定する「一時集合場所」へ移動してください。

- ・授業中の場合は、授業単位で移動してください。
- ・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。
- ・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物等から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。
- ・各キャンパスの一時集合場所は、本学のホームページに掲載している「明治大学防災ガイド」(<http://www.meiji.ac.jp/koho/>)

disaster/guide/index.html) を確認してください。

(5) 帰宅困難対策について

大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学には、災害用の食料等を備蓄しています。

【Ⅱ】火災発生時の対応

(1) 火災を発見した場合の行動

- ・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。
- ・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。
- ・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。
- ・消火できそうな火災は、消火器等を使用して初期消火にあたってください。

(2) 初期消火のポイント

- ・炎や煙に惑わされず、燃えているもの確かめてください。
- ・燃えているものに適した消火器等を使用して、適切な距離（3～5 m）から消火してください。
- ・出来るだけ多くの人で消火器等を集めて、一気に消火してください。
- ・二ヶ所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。
- ・消火器では消えないような火災のときは、無理に消そうとせず、直ちに避難してください。

(3) 避難行動

- ・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。
- ・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する際に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。
- ・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。
- ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。

【Ⅲ】災害発生時の連絡方法

- (1) 非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がかかりにくくなります。また、大学は個々の家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認は即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人あるいはクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。（遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・伝言ダイヤル・災害用伝言板、

Google パーソンファインダー, J-anpi 等を利用するなど。)

- (2) 大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、ホームページ及び所属の学部事務室から Oh-o! Meiji システムを通じてお知らせしますので、その指示に従ってご連絡ください。

《参考》

・災害発生時の公衆電話・

災害が発生し、加入電話の発信が規制されますと、緊急通報（119）も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話が繋がるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、NTT 回線が繋がっていれば、無料で電話がかけられます。

【IV】 平常時の備え

- (1) 本学 HP 内に掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。
- (2) 非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路（通路、階段等）には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。
- (3) 火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。
- (4) 実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。
- (5) 応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

参考資料

1. 明治大学の「建学の精神」と「使命」
2. 大学の沿革
3. 校歌
4. 各種規程
5. 学費等一覧
6. 明治大学の環境保全活動への取組み
7. キャンパス案内

1. 明治大学の「建学の精神」と「使命」

明治大学は、封建的な社会から近代社会へと変容する時代に、個人の権利を確立し、自由な社会を実現するために、フランス法学を教授する明治法律学校として、1881（明治14）年に創立されました。学部の増設にともなう総合大学となった現在でも、創立時からの伝統によって確立された建学の精神「権利自由、独立自治」に基づき、自由と自治の精神を養うことを明治大学の理念としています。

「権利自由、独立自治」は、個人の権利や自由を認め、学問の独立を基礎として自律の精神を養うという理念を広く普及させることを意味しています。「個」の確立を通じて近代化を図るべきであるとの視点のもと、近代市民の育成を目指し、創立以来有為な人材を数多く輩出してきました。「個」の確立を基礎とした教育方針は、「個を強くする大学」という理念へと継承されています。

グローバル化が一段と進展する中で、わが国においては、明治維新や戦後改革に次ぐ「第三の開国」とも言うべき大きな質的転換が迫られています。明治大学の建学の精神「権利自由、独立自治」、そして「個」の確立が改めて、重要な意味を持つ時代といえます。このような時代には、社会や組織の中にあっても、世界を見据えて自らの使命、役割を自覚し、他者との「連携・共生」を図りつつも、「個」として光り輝く人材が求められています。

時代の変化や社会の要請を先取りし、未来に羽ばたく優れた人材を育成するため、そして新しい時代にふさわしい価値を見出し、世界に向けて発信するため、明治大学は、歴史と伝統に安住することなく改革を推進していくことが必要です。「前へ」の精神を堅持しながら世界に開かれた大学を目指していきます。

そこで、建学の精神に基づく長年の歴史と伝統を踏まえつつ、これからの21世紀の世界を見据え、明治大学は「世界へ — 『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ —」を大学の基本理念として付加するとともに、「知の創造と人材の育成を通し、自由で平和、豊かな社会を実現する」を使命とし、教育・研究・社会貢献等に取り組んでいきます。

— 建学の精神 —
権利自由
独立自治

— 使 命 —
世界へ — 「個」を強め、世界をつなぎ、未来へ —
知の創造と人材の育成を通し、自由で平和、豊かな社会を実現する

2. 大学の沿革

前 史

明治法律学校、のちの明治大学は岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操によって創立された。岸本は鳥取藩、宮城は天童藩、矢代は鯖江藩といったように3人とも地方、それもかなり江戸から隔てた藩内で、しかも禄高が低い士族の家に、嘉永年間に生まれ、育った。

やがて、彼らは幕末維新の動乱と変革の中、明治政府の命をうけた藩の選抜生（貢進生）として上京した。そして彼らが出会ったところは明法寮（のちの司法省法学校）であった。同校は司法省が設立したものであり、司法官僚を速成することが目的であった。この学校で「お雇い外国人」教師のボアソナードらからフランス法学を学んだ彼らは、それぞれの道を歩んだ。

すなわち、岸本はフランスに留学し、帰国後は判事に、また宮城も同国に留学し、帰国後は検事になった。矢代は元老院に就職し、その傍ら法律私塾の講法学社（北島道竜設立）等の経営と教育に当たった。

明治法律学校の誕生

司法省法学校在学以来、きわめて親しい間柄の創立者3人は、本務は異なりながらも、常に最新、かつ本格的な法律教育をすることが脳裏にあった。

一方、講法学社の設置者の経営姿勢に不満をもっていた学生らは退学し、その内、十数名は神田小川町の長屋で自主学習をしていた。彼らはやがて、以前、同社で講師をしていた岸本・宮城に新しい法律学校の開校を願った。岸本らは友人であり、講法学社において学生に慕われていた矢代を誘い、東京府に私立法律学校設置願いを提出した。そして、ついに1881（明治14）年1月17日、麴町区の数寄屋橋の一角・島原藩邸跡に法学校を開校した。時あたかも自由民権の風潮の真っ只中、明治法律学校は「権利自由」を校訓とし、フランス法を中心として教育に当たっていった。

同校は資金難に苦しむが、志願者は日に日に急増していった。そのため、ついに1886（同19）年、神田南甲賀町に自前の校舎を新築し、移転した。

しかし、その後の同校の歩みは必ずしも順調ではない。特別監督条規等により東京帝国大学の統括・管理下に置かれたり、私学併合を企図されるなどした。「権利自由」を標榜する本学は特にその標的とされた。また、国策によるドイツ・イギリス法の保護は、やがてフランス法（本学など）と対立を引き起こす。その頂点は民法典施行をめぐる大論争であるが、結果としてフランス法系は敗北した。

大学昇格から戦時体制下へ

明治法律学校が大学令による大学（「明治大学」）となったのは1920（大正9）年のことである。しかし、そこにたどりつくまでには並々ならぬ苦闘と努力があった。学位「明法学士」の発案と授与，専門学校令による「明治大学」認可，法・商・政・文の4学部体制，駿河台移転，大学昇格のための募金運動等々はその代表的な事例である。とにもかくにも教職員・学生・校友らの奮闘努力により，総合大学としての明治大学が成立したのである。

このキャンパスでは留学から帰った新進気鋭の教員，かなりの数に上る留学生，さらには大正デモクラシーを謳歌する学生，そして時には学園騒動に関係する人達といった新たな動きが顕著になってきた。まさに伝統の在野精神・反骨精神を基軸に学園は右に左にと揺れたり，また良きにつけ悪きにつけ活況を呈していったといえよう。

そのような学園に大打撃を与えたのは関東大震災（1923（大正12）年9月1日）であった。だが，壊滅的な学園の焼け跡にかけつけ，いち早く復旧・復興に当たったのは教職員はもとより，学生・校友であった。その結果，1928（昭和3）年には記念館で復興の式典を挙げるまでになった。

しかし，やがて社会は経済不況・軍事拡大・テロといった暗雲がたちこめ，明治大学もまたファシズムや戦時体制（とくに太平洋戦争）に巻き込まれるようになった。興亜科の設置や勤労働員・学徒出陣などはその典型的な例である。ただ，その一方，女子教育の拡大，スポーツの振興，予科の移転（和泉キャンパス）等々，前向きの側面が認められたのも事実である。

戦後の復興から新時代へ

本学は1949（昭和24）年，新制明治大学として認可され，新たな出発をした。学部は法・商・政治経済・文・工・農の6学部からなり，さらに翌月には第2部（夜間制）が設置された。当然，このころは当時の社会状況と同様に，本学内においても大きな戸惑いと混乱が生じた。しかし，その一方，新しい大学をめざして気概と希望にみちていたわけでもある。

その後，本学では生田キャンパスの開設，大学院の拡充，経営学部の新設，さらには新校舎の建設が進められていった。こうした制度と施設設備の拡充は急速に推進された。そして1990年代後半から21世紀を迎えた今日にいたり，明治大学は新たなステージに立った。地上23階建てのリバティタワーに象徴される大規模施設を相次いで竣工するとともに，時代の要請に応える学部・大学院の改組・増設を進めた。2013年度には63年ぶりとなる新キャンパス・中野キャンパスを開設した。

建学の精神を受け継ぎながら，新しい時代を担い，「世界へ」さらなる飛躍を目指す都心型大学として，明治大学はたゆまぬ自己検証と将来像の構築につとめている。

◎明治大学の歴史（年表）

明 治	
1880年	2月 12月
岸本辰雄，仏国留学より帰朝（宮城浩蔵 6 月） 明治法律学校設立願提出 （麹町区上六番町36番地宮城浩蔵屋敷内）	
1881年	1月
明治法律学校開校 （有楽町 3 丁目 1 番地数寄屋橋内旧島原藩邸内）	
1886年	8月 12月
私立法律学校特別監督条規公布 有楽町旧島原邸より神田駿河台南甲賀町11に新築移転	
1888年	7月 8月
校長・教頭の制を置く，初代校長に岸本辰雄，教頭に宮城浩蔵が就任 特別認可学校規則により法律学部・政治学部の 2 学部が認可される	
1900年	2月
校則を改正し，卒業生に「明法学士」の称号を認可	
1901年	5月
制服・制帽の制を定める	
1903年	8月
明治法律学校を「明治大学」と改称（専門学校令）	
1904年	5月
学則改正により法学部・政学部・文学部・商学部設置，各学部に本科・専門科設置	
1905年	7月
大学組織を財団法人に改める	
1911年	10月
最初の記念館落成（現在の駿河台キャンパス） 創立30周年記念式典挙行 創立者岸本辰雄逝去 政学部を政治経済科と改称	
1912年	4月 7月
大 正	
1920年	4月 11月
大学令による大学設立認可 明治大学校歌公示（作詞・児玉花外，作曲・山田耕筰）	
1921年	2月 4月
大学予科校舎（駿河台）竣工 専門部に二部法科設置	
1923年	4月
専門部に二部経済科設置	
1925年	7月
政治経済学部認可	
昭 和	
1928年	4月
女子法科設置許可（翌年女子部として開校）	
1929年	4月
専門部商科二部設置	
1930年	4月
明治大学商業学校設置	
1931年	12月
専門部経済科（二部）の呼称を専門部政治経済科と改称	
1932年	4月
専門部文科設置	
1933年	8月
予科を和泉に移転すべく校舎建築着工（翌年移転）	
1939年	9月
専門部興亜科を新設，経営・貿易・農政・厚生 の 4 科設置	
1944年	3月 4月
女子部を改め明治女子専門学校設置 東京明治工業専門学校設置，専門部商科を経営科と改称	
1945年	9月
興亜科を産業経済科と改称	
1946年	6月
明治農業専門学校設置	
1949年	2月 3月
学校教育法により明治大学設置。法学部・商学部・政治経済学部・文学部・工学部・農学部設置 法学部・商学部・政治経済学部・文学部に二部設置	
1950年	3月 4月
工学部に二部を増設 短期大学設置	
1951年	3月
生田キャンパス建設 大学組織を学校法人に改める	
1952年	4月
大学院設置	
1953年	4月 12月
経営学部設置 大学院校舎竣工	
1957年	4月
大学院文学研究科増設	
1959年	4月
大学院農学研究科・経営学研究科増設	
1960年	3月
創立80周年記念事業としてアラスカ学術調査隊出発	
1961年	4月
大学院工学研究科建築学専攻博士課程	
1963年	4月
大学院政治経済学研究科経済学専攻博士課程	
1965年	3月
生田第二校舎，2・3号館竣工	
1966年	3月
大学院工学研究科工業化学専攻修士・博士課程増設	
1974年	1月
連合父母会結成	
1978年	4月
大学院農学研究科農芸化学専攻・農学専攻・農業経済学専攻増設	
1980年	11月
創立100周年記念式典挙行	
1983年	3月
生田第三校舎 3号館竣工	

1984年	4月	創立100周年記念図書館竣工
1985年	7月	創立100周年記念大学会館竣工
1987年	5月	和泉校舎図書館増築竣工
1988年	10月	和泉第1校舎竣工
平成		
1989年	2月	生田第一校舎4号館竣工
	4月	工学部を理工学部へ改組
	6月	生田第二校舎6号館竣工
1991年	1月	生田中央校舎竣工
1993年	4月	大学院理工学研究科増設，基礎理工学専攻修士課程設置
	9月	和泉校舎新第1学生会館（新学生食堂）竣工
1994年	3月	駿河台12号館竣工
	10月	『明治大学百年史』完結
1995年	4月	大学院理工学研究科，基礎理工学専攻博士課程設置
	11月	明治大学発祥の地に記念碑建立 （千代田区有楽町2丁目）
1996年	9月	和泉校舎体育館竣工
1998年	7月	明治大学ハイテク・リサーチ・センター竣工
	9月	生田第一校舎5号館竣工
1999年	3月	創立120周年記念館リバティタワー竣工 清里セミナーハウス竣工 生田構造物試験棟竣工
	4月	リバティ・アカデミー設立
2000年	3月	生田食堂館（スクエア21）竣工
	4月	農学部生命科学科増設 司書課程・司書教諭課程設置
	8月	生田第一校舎2号館竣工
	10月	知的資産センター設立 駿河台校舎中央図書館竣工
2001年	11月	創立120周年・創立者生誕150周年記念式典・祝賀会
2002年	4月	政治経済学部（一部）地域行政学科増設 文学部（一部）心理社会学科増設 経営学部会計学科，公共経営学科増設
2003年	4月	大学院農学研究科生命科学専攻増設
	12月	アカデミーコモン竣工
2004年	3月	生田第二校舎A館竣工
	4月	短期大学・二部学生募集停止 情報コミュニケーション学部設置 文学部文学科文芸メディア専攻増設 法科大学院設置
		公共政策大学院ガバナンス研究科設置 グローバル・ビジネス研究科設置 心理臨床センター設置
2005年	3月	和泉メディア棟竣工
2005年	4月	大学院文学研究科臨床人間学専攻増設 会計大学院会計専門職研究科設置
2007年	4月	理工学部電気電子生命学科設置
	11月	短期大学廃止
2008年	4月	国際日本学部設置 大学院理工学研究科新領域創造専攻設置 大学院情報コミュニケーション研究科設置 大学院教養デザイン研究科設置
		農学部農業経済学科を食料環境政策学科へ名称変更
2011年	4月	大学院先端数理科学研究科設置
2011年	11月	創立130周年記念式典挙行
2012年	3月	創立130周年記念和泉新図書館竣工
2012年	4月	大学院国際日本学研究科設置
2013年	1月	グローバルフロント竣工 中野キャンパス竣工
	4月	総合数理学部設置 中野キャンパス開設
2014年	4月	大学院グローバル・ガバナンス研究科設置

3. 校歌

明治大学校歌

児玉花外 作詩
山田耕筰 作曲

Tempo di marcia ben marcato (♩ = 112)

しーらくもなびくーすーるーがだいまー
 ゆひいでたるーわーこーうどがつくやじだ
 いのあーけーのーかねおんかのうし
 おーみーちーびきてとげしいしんのはー
 えーになうーめいじそのなぞわれらーがほこ
 うおおめいじそのなぞわれらーがほこ

明治大学校歌

山田耕筰 作曲
児玉花外 作詩

一 白雲なびく駿河台
 眉秀でたる若人が
 撞くや時代の暁の鐘
 文化の潮みちびきて
 遂げし維新の榮になふ
 明治その名ぞ吾等が母校
 明治その名ぞ吾等が母校

二 権利自由の揺籃の
 歴史は古く今もなほ
 強き光に輝けり
 独立自治の旗翳し
 高き理想の道を行く
 我等が健児の意気をば知るや
 我等が健児の意気をば知るや

三 霊峰不二を仰ぎつつ
 刻苦研鑽他念なき
 我等に燃ゆる希望あり
 いでや東亜の一角に
 時代の夢を破るべく
 正義の鐘を打ち鳴らさむ
 正義の鐘を打ち鳴らさむ

4. 各種規程

明 治 大 学 学 則 (抜粋)

第1章 目的

第1条 本大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、学術の理論と応用とを教授研究して、有為な人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

2 本大学は、前項の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検し、評価する。

第2章 大学の組織

第2条 本大学には、学部と大学院を置く。

2 本大学に、次の学部、学科を置く。

法	学	部	法律学科
商	学	部	商学科
政 治 経 済 学	部	政治学科，経済学科，地域行政学科	
文	学	部	文学科，史学地理学科，心理社会学科
理 工 学	部	電気電子生命学科，機械工学科，機械情報工学科，建築学科， 応用化学科，情報科学科，数学科，物理学科	
農	学	部	農学科，食料環境政策学科，農芸化学科，生命科学科
経 営 学	部	経営学科，会計学科，公共経営学科	
情報コミュニケーション	学部	情報コミュニケーション学科	
国 際 日 本 学	部	国際日本学科	
総 合 数 理 学	部	現象数理学科，先端メディアサイエンス学科，ネットワークデザイン学科	

3 各学部における学科ごとの人材養成その他の教育研究上の目的については、別表9のとおりとする。

4 各学部は、前項に規定する目的を踏まえて、次の方針を定める。

- (1) 卒業の認定に関する方針
- (2) 教育課程の編成及び実施に関する方針
- (3) 入学者の受入れに関する方針

5 前項各号の方針については、別に定める。

第2章の2 修業年限及び在学年限

第2条の2 学部の修業年限は4年とし、同一学部には、8年を超えて在学することができない。

2 前項の規定にかかわらず、本大学に3年以上在学し、各学部の定める卒業に必要な単位を優れた成績で修得した者で、当該学部教授会が適切と認めた場合には、卒業することができる。

3 2年次に編入学した者の当該学部の修業年限は3年とし、7年を超えて在学することができない。

4 3年次に編入学した者の当該学部の修業年限は2年とし、6年を超えて在学することができない。

第2条の3 削除

第3章 教職員組織

省略

第4章 学部教授会，連合教授会

省略

第5章 学年，学期，休日及び休業日

第14条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

各種規程

第15条 学年は、春学期と秋学期の2学期に分け、期間については、当該年度の学年暦において定める。

第16条 次に掲げる日を、休日及び休業日とする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 本大学創立記念日（1月17日）
- (4) 本大学創立記念祝日（11月1日）
- (5) 春季休業、夏季休業及び冬季休業（当該年度の学年暦において定める。）

2 前項の規定にかかわらず、教育上必要があるときは、休日又は休業日に授業を行うことがある。

3 必要がある場合は、第1項に定めた休業日のほか、臨時に休業日を定めることができる。

第6章 教育課程及び単位数

第17条 各学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

第18条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

第19条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、学習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究及び卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第19条の2 削除

第19条の3 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、当該学部教授会の議を経て、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、60単位を超えないものとする。

第20条 他の学部へ属する授業科目を選択履修しようとする者は、60単位以内に限り、修得することができる。

2 前項の場合において、履修できる授業科目等については、学部ごとに定める。

第20条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、当該学部教授会の議を経て、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、当該学部教授会の議を経て、学生が外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、修得した単位を、30単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第20条の3 本大学は、教育上有益と認めるときは、当該学部教授会の議を経て、学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条及び第28条の2第4項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第20条の4 本大学は、教育上有益と認めるときは、当該学部教授会の議を経て、学生が本大学に入学する前に、大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、当該学部教授会の議を経て、学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第20条の2第1項及び第2項、前条第1項並びに第28条の2第4項により本大学において修得したものとみなす単位数と第20条第1項により修得した単位数とを合わせて60単位を超えないものとする。

第21条 学生は、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間内に届け出なければならない。

第22条 各学部における授業科目の種類及びその単位数は、別表1及び別表1の2のとおりとする。

第7章 入学、転部、編入学、留学、休学、復学、退学及び再入学

第23条 入学の時期は、学期の始めとする。

第24条 本大学の学部に入學することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を持ち、本大学の選抜試験に合格した者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 中等教育学校を卒業した者
- (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (4) 通常の課程以外の課程によって前号に相当する学校教育を修了した者
- (5) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (7) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (10) 高等学校に2年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、各学部の定める分野において特に優れた資質を有すると認めたもの
- (11) その他本大学において相当の年齢に達し高等学校卒業者と同等以上の学力があると認めた者

第25条 入学を志願する者は、本大学所定の手続によって、願い出るものとする。

第26条 入学を許可された者は、本大学所定の入学手続書類をもって指定の手続期間内に入学手続を完了しなければならない。

第27条 本大学の学生で、他の学部へ移ろうとする者又は同一学部で所属の部、科あるいは専攻を変更しようとする者については、欠員のある場合に選考の上、これを許可することがある。

2 本大学を卒業した者が編入学を願い出た場合、前項の規定を準用する。ただし、卒業した学科又は専攻への編入学は認めない。

第28条 他の大学等に在学した者で、次の各号のいずれかに該当する資格を有する者が本大学に編入学を願い出た場合は、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業又は1年以上在学した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部の専攻科のうち、文部科学大臣が定める基準を満たす課程を修了した者
- (5) その他前各号と同等以上の学力があると認めた者

第28条の2 外国の大学において授業科目を履修しようとする者は、所定の留学願を提出し、許可を得て留学することができる。

- 2 前項による留学期間は、1年以内とする。ただし、特に必要と認める場合は、引き続き1年に限り、留学期間の延長を許可することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、外国の大学との複数学位協定による留学期間については、当該協定の定めによるものとする。
- 4 留学期間は、在学年数に算入する。
- 5 留学によって修得した単位は、当該学部教授会の議を経て、60単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- 6 その他留学に関する事項は、別に定める。

第29条 病気その他やむを得ない事由により休学しようとする者は、その事由を明記し、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。

- 2 病気を事由とする休学願には、医師の診断書を添えなければならない。
- 3 休学は、当該学期の期間とする。ただし、当該休学期間が満了してもなお休学を要する場合には、所定の手続を経て許可を得た上、引き続き次の学期について休学することができる。
- 4 前項の規定により休学期間を延長するときは、当初の休学期間を含めて2年を限度とする。ただし、特別の事情がある場合には、所定の手続を経て、更に2年を上限として休学を許可することがある。
- 5 在学中に休学することができる期間は、通算して4年を超えることができない。ただし、2年次に編入学した者については通算して3年、3年次に編入学した者については通算して2年を限度とする。
- 6 休学者は、学期の始めてなければ、復学することができない。
- 7 休学期間は、第2条の2に定める在学年数に算入しない。

第30条 病気その他の事由によって、退学しようとする者は、その事由を明記し、保証人連署で願い出なければならない。

第31条 削除

第32条 退学者が再入学を願い出たときは、当該学部の教授会の議を経て、選考試験の上、学期の始めに限り、許可することがある。

第33条 入学、転部、編入学、留学、休学、復学、退学及び再入学の許可は、当該学部の教授会の議を経て、学長がこれを行う。

第8章 収容定員

省略

第9章 委託学生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、外国人留学生及び交換留学生

第35条 委託学生、科目等履修生又は聴講生として入学を志願する者があるときは、正規の学生の学修に妨げがない限り、選考の上、許可することがある。

第36条 委託学生とは、官公庁、外国政府その他の委託に基づき、第23条及び第24条の規定によらないで、本大学において学修を許可された者をいう。

第37条 委託学生は、履修した科目について試験を受けなければならない。

- 2 前項の試験に合格した者には、証明書を交付する。

第38条 科目等履修生とは、単位修得を目的として、学部等の授業科目についての履修を、1科目又は複数科目許可された者をいう。

- 2 科目等履修生がその履修した科目について試験を受け、合格したときは、単位を与える。

第38条の2 聴講生とは、学部の授業科目についての聴講を、1科目又は数科目許可された者をいう。

第38条の3 本章の規定に定めるほか、科目等履修生及び聴講生に関し必要な事項は、別に規程で定める。

第39条 委託学生は、正規の学生と同様別表5に定める学費を納めなければならない。

第40条 科目等履修生は、別表6に定める入学金及び履修料を納めなければならない。

第40条の2 聴講生は、別表7に定める入学金及び聴講料を納めなければならない。

第41条 委託学生、科目等履修生及び聴講生については、本章の規定のほか、正規の学生についての規定を準用する。ただし、

第45条の規定は、準用しない。

第41条の2 特別聴講学生とは、他の大学と本大学との間で締結した協定に基づき、当該大学に在学する学生のうち、本大学における授業科目の履修を許可された者をいう。

2 特別聴講学生の受入れ、学費等に関し必要な事項は、別に定める。

第42条 外国人で本大学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 この学則に規定するもののほか、外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第42条の2 本大学と外国の大学との学生交流協定に基づき、本大学に入学を志願する者があるときは、選考の上、交換留学生として入学を許可することがある。

2 交換留学生の入学、在学年限、学費等に関する事項は、別に定める。

第10章 試験、卒業及び学位

第43条 履修した授業科目については、定期の試験を行い、学業成績を考査する。

2 学費の納付を怠っている者は、試験を受けることができない。

3 やむを得ない事由のため、定期の試験を受けることができなかった者については、特別試験を行うことがある。

4 試験の方法は、各学部の教授会で定め、筆記試験は、別に定める試験規程によって実施する。

第44条 学業成績は、次のとおりとし、S、A、B、Cを合格、Fを不合格とする。

学業成績	S	A	B	C	F
(点数)	(100～90)	(89～80)	(79～70)	(69～60)	(59～0)

2 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

3 不合格の授業科目については、特別試験を行うことができる。

第45条 第2条の2各項のいずれかに規定する在学期間を満たし、所定の授業科目を履修し、かつ、所定数の単位を修得し、卒業した者には、学士の学位を授与する。

2 学位を授与された者には、学位記を授与する。

3 学位に関し必要な事項は、明治大学学位規程（昭和33年規程第8号）の定めるところによる。

第46条 削除

第11章 教職関係科目

第47条 本大学に教育職員免許状を得るために必要な科目を置く。

第48条 中学校又は高等学校の教員免許状を得ようとする者は、別表8に定める履修料を納め、教育職員免許法及び同法施行規則に定める科目の単位を修得しなければならない。

第49条 本大学において開設する授業科目、単位数及び各学部の学生として受けることのできる免許状の種類は、別表2のとおりとする。

第12章 学芸員関係科目及び社会教育主事関係科目

第50条 本大学に学芸員資格取得のために必要な科目を置く。

第51条 学芸員の資格を得ようとする者は、別表8に定める履修料を納め、学芸員資格取得のために必要な科目の単位を修得しなければならない。

第52条 学芸員資格取得のために必要な科目及びその単位数は、別表3のとおりとする。

第52条の2 本大学に社会教育主事資格取得のために必要な科目を置く。

第52条の3 社会教育主事の資格を得ようとする者は、別表8に定める履修料を納め、社会教育主事資格取得のために必要な科目の単位を修得しなければならない。

第52条の4 社会教育主事資格取得のために必要な科目及びその単位数は、別表4のとおりとする。

第12章の2 司書関係科目及び司書教諭関係科目

各種規程

第52条の5 本大学に司書資格取得のために必要な科目を置く。

第52条の6 司書の資格を得ようとする者は、別表8に定める履修料を納め、司書資格取得のために必要な科目の単位を修得しなければならない。

第52条の7 司書資格取得のために必要な科目及びその単位数は、別表4の2のとおりとする。

第52条の8 本大学に司書教諭資格取得のために必要な科目を置く。

第52条の9 司書教諭の資格を得ようとする者は、別表8に定める履修料を納め、司書教諭資格取得のために必要な科目の単位を修得しなければならない。

第52条の10 司書教諭資格取得のために必要な科目及びその単位数は、別表4の3のとおりとする。

第13章 検定料，入学金，授業料その他

第53条 入学試験を受けようとする者は、別表5に定める当該検定料を納めなければならない。

第54条 入学を許可された者は、別表5に定める入学金を納めるものとする。

第55条 転部，転科，編入学又は再入学の試験を受けようとする者は、別表5に定める当該検定料を納めなければならない。

第56条 各学部の学生は、別表5に定める授業料その他所定の学費を納めなければならない。

第57条 削除

第58条 削除

第59条 授業料その他所定の学費は、学期の始めに納めなければならない。

第60条 検定料，入学金，授業料その他所定の学費の納入について必要な事項は、別に定める。

第61条 いったん納めた検定料及び学費は、返還しない。

第62条 学費の納付を怠った者は、除籍する。

第14章 大学院

第63条 大学院学則は、別に定める。

第15章 附属研究機関及び附属施設

第64条 本大学に次の附属研究機関及び附属施設を置く。

- (1) 研究・地財戦略機構
- (2) 国際連携機構
- (3) 図書館
- (4) 博物館
- (5) 心理臨床センター
- (6) 工作工場
- (7) 農場
- (8) 体育館
- (9) 寄宿舎

2 研究・知財戦略機構，国際連携機構，図書館，博物館，心理臨床センター，工作工場，農場，体育館及び寄宿舎については、別に規程で定める。

第16章 賞罰

第65条 人物，学業ともに優秀な者には、授賞することがある。

第66条 学生が、本大学の校規に違背し、若しくは本学園の秩序を乱し、又は学生の本分に反する行為があったときは、その情状によって懲戒を行う。

2 懲戒は、けん責，停学及び退学の3種とする。

第67条 次の各号のいずれかに該当する者は、退学させる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 本学園の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(3) 正当の理由なくして、学業を怠る者

第68条 賞罰は、当該学部の教授会の議を経て学長が行う。

第17章 厚生保健施設及び奨学制度

第69条 厚生保健施設及び奨学制度については、別に規程で定める。

附則及び別表1～8省略

別表9 人材養成その他の教育研究上の目的

学部	学科	目的
法学部	法律学科	「権利自由」・「独立自治」の建学の精神にのっとり、幅広い高度な教養教育・基礎法学教育・多様な法律分野にわたる法学教育を行い、これを基礎とした豊かな人間性・人権感覚・法的思考の涵養を通じて、現代社会の要請に応える自律的な市民社会の担い手を育成することを教育目標とする。この目標の下、多様な教養・言語・情報科目を設置して教育を充実させ、将来の進路に応じたコース制カリキュラム編成により、法学・隣接諸科学の体系的な研究及び実践的教育を実施し、社会に生起する諸事象から地球規模の視点に立脚して法的問題を発見・分析し問題を解決する能力と研究者を含めた法務・公共法務・国際関係・情報化社会・ビジネス社会の担い手としての活動に不可欠な創造的な思考力を養成することを目的とする。
商学部	商学科	「権利自由」・「独立自治」の建学の精神及び「学理実務兼ね通ずる人材の養成」という学部創設以来の基本的教育理念を継承し、専門と教養の「知の融合」を通じて、学生の内に新たな価値観、人間観及び世界観を「創生」することで、社会において活躍できる有為な人材を育成する。このため、商学の専門知識と深い教養とを内面的に融合させるとともに、さらに「総合的市場科学」の視点に基づき商学の最先端分野の理論的・実証的研究を行い、その成果を学生に教授することで、市場現象にかかわる多様な問題を的確に分析して解決ができる総合的判断力の涵養を目的とする。
政治経済学部	政治学科	政治学科は、社会の基本的枠組を決定する政治プロセス及びそれを支える社会の様々な状況を把握・分析する能力を育成し、幅広い視野と専門性を兼ね備えた学生を養成することを目的とする。とりわけ、グローバル化が進展する現代社会に対応するため、国際感覚を持ち、政治・社会に関する専門的な議論ができる学生を養成する。人材養成の観点からは、外国語能力に優れ、政治及び社会に関する分析能力を備えた人材を輩出する。
	経済学科	経済学科は、希少な経済資源の分配、生産及び消費によって、人々の経済的厚生を高めていく方法を分析し、理解させることを目的とする。それを踏まえて、本学科では、単に経済学の視点からだけではなく、他学科に設置されている政治学、行政学及び社会学系科目並びにその他学際的科目も履修させ、総合的視点から経済学を学ばせる。そして、この視点から多様な経済事象を分析し、政策立案ができ、かつ、グローバル化の進行に十分に対応できる人材を育成する。
	地域行政学科	地域行政学科は、自立して意思決定ができ、地域で活躍できる人材を養成することを目的とする。グローバリゼーション下の地域は、多様な意味を持つゆえに多くの可能性を持ち、反面で諸問題を抱えている。それゆえ、地域を構成する住民、企業及び自治体並びにそれらが機能するための共同体、産業及び行政をコーディネートさせることが不可欠であるため、地域をめぐる「理論」と「現実」及び諸課題を解決するための「運用」・「対処」の仕方を得得させる。
文学部	文学科	文学部は、究極的には人間そのものを総合的に理解することを目的として構成されているが、日本文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、演劇学及び芸術メディアの6専攻からなる文学科は、「主体的に学ぶ能力」と「国際的視野」を身につけた創造的かつ人間性豊かな教養人の育成を目的とする。さらに、本学科は、文学・思想・文化・芸術・メディアなどの様々な分野に大きな関心を寄せ、表現された現象を論理的に分析し、その結果を明晰に構築する訓練を重ねること、表面的事柄に惑わされることなく、事物の本質を客観的に判断できる能力を培い、それらを積極的に自らのメッセージとして、広く世界へと発信できる学生の育成を目的とする。
	史学地理学科	文学部は、究極的には人間そのものを総合的に理解することを目的として構成されているが、日本史学、アジア史、西洋史学、考古学及び地理学の5専攻からなる史学地理学科は、人間社会の歴史の探究を本旨とし、世界各地域に関する歴史的・地理的認識を深めるとともに、人間社会を多角的に把握する思考力を養い、創造的かつ人間性豊かな教養人の育成を目的とする。さらに、本学科は、史料・外国語文献の読解と分析、現地調査（フィールドワーク）、遺跡の発掘調査などを通じて、自然や人間世界をより深く理解するとともに、批判力を養い、積極的に自ら思考し、人類の発展と地域・環境の調和を目指す国際感覚豊かな学生の育成を目的とする。
	心理社会学科	文学部は、究極的には人間そのものを総合的に理解することを目的として構成されているが、臨床心理学専攻、現代社会学専攻及び哲学専攻の3専攻からなる心理社会学科は、人間の心と社会の問題の探究を本旨とし、「生きやすい社会」のあり方を求めて、共生する社会を模索しつつ、「心」を個人の内的問題としてだけではなく、「社会」とのかかわりを考慮に入れながら検討し、新しい時代に対応して徹底的に思考を展開できる人材の育成を目的とする。すなわち、子供から高齢者まで生きがいや心身の諸問題が噴出している現代社会の状況を踏まえ、人間性豊かな教養と、総合的なヒューマンサービスを担うことができる人間の育成を目的とする。
理工学部	電気電子生命学科	電気電子生命学科では、基礎科目の十分な理解を土台に電気電子工学の幅広い学問領域をベースとした専門科目及び医療や生命科学との隣接領域における専門科目を修得し、科学的センスと創造性を身に付けた技術者・研究者として、様々な分野において指導的立場で活躍が期待できる人材の育成を目指す。 電気電子工学専攻では、「環境・エネルギー」、「新素材・デバイス・ナノテクノロジー」、「通信ネットワーク」、「情報制御システム」の4分野にわたる多くの専門科目から、複数の分野にまたがる基幹的科目と特定の分野の先端性・応用性の高い科目を学ぶことにより、幅広い知識と専門性を兼ね備えた、多様な現代社会の諸問題に立ち向かえる実践力のある人材を育成する。 生命工学専攻では、電気電子工学の4分野において、医療や生命科学との関わりが深い、「医工学」、「脳神経科学」、「ナノバイオテクノロジー」、「創薬科学」などの複合分野の研究を推進し、新しい医療技術及び健康科学の分野で活躍する最先端の人材を育成する。
	機械工学科	機械工学科では、科学技術を基盤とする平和で豊かな社会を実現していくため、責任感と倫理観を持ち、グローバルな社会的・文化的教養と機械工学の知識・技術に基づいて柔軟かつ総合・多面的に思考し、問題の設定・解決や価値創造を他者と協調して積極的に実践し、自ら成長を継続できる「自立した創造的技術者」となる人材の養成を目的としている。そのため、学習・教育目標として、(A) 技術者意識の涵養、(B) 工学基礎及び専門知識・技術の習得、(C) 実践力の養成を掲げ、その達成のため、教養科目、工学基礎、専門科目及び講義・実験・実習科目をバランス良く組み合わせたカリキュラムを提供する。さらに、学習・教育目標を超えた幅広く高度な学習・研究の機会も提供し、機械工学の知識と技術を確実に継承し、発展させうる優れた技術者・研究者の育成も目指す。
	機械情報工学科	機械情報工学科では、コンピュータと電気・電子に強い機械技術者の育成を目指している。すなわち、機械工学の基礎分野を幅広く学び、豊かなアイデアを創出し、それを具現化する情報技術を備えた人材育成が目的である。学生は、学科が掲げる学習・教育目標としての基礎となる数学、物理学及び情報技術に加えて、機械工学の専門としての材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産及び機械とシステムに関する知識を学び、工学上の未知の問題解決にそれらを活用する応用力を身につけ、上級技術者及び研究者を目指すための基礎力を養う。その上で、問題発見・解決能力、デザイン能力、国際化に対応できるコミュニケーション能力、広い視野と社会的な良識、倫理観と責任感を醸成する。
理工学部	建築学科	建築学科では、持続的な人間生活と社会活動を支えるために、「信頼性の高い技術と優れたデザイン性を兼ね備え、かつ、自然環境と調和する、安全、安心、快適な建築及び諸環境の構築」を目指している。これを実現するために、建築の社会性を十分に認識し、明確な倫理観と豊かな構想力を持ち、かつ、高度な技術力とデザイン力を発揮できる人材の育成を目的に、以下の視点に立った体系的な教育と研究機会を提供する。 ・ 建築から始まり、まちづくりや地球環境に至るまでの幅広い視野を持った人材の育成（幅広い視野） ・ 建築に関する総合的な知識と技術・技法、専門的な知識と技術・技法を兼ね備え、かつ、創造力にあふれる人材の育成（総合力・専門力・創造力） ・ 多くの人々とかかわりを持ちながら、建築・都市空間を作り上げていくためのコミュニケーション能力とコーディネート能力を有する人材の育成（対話力と調整力） ・ グローバルな視点とローカルな視点をあわせ持ち、国際的に通用する人材の育成（国際力）
	応用化学科	応用化学科では、「フラスコからコンピュータまで扱える科学者・研究者・技術者の育成」を合言葉にして、基礎から高度な応用まで幅広い視野と独創性を持った人材の育成を教育目標に掲げている。この目標の達成を目指して、無機化学・有機化学・物理化学・化学工学・分析化学の5つの基礎分野を柱に、カリキュラムを構成している。また、応用教育としては、実験器具を利用する従来の実験科目に加えて、コンピュータを利用するシミュレーション実験の科目を設置しており、幅広い視点で化学を理解する能力の体得を目指している。本学科では、様々な化学産業のニーズに応える即戦力の応用技術研究のみならず、基礎科学も含めた広汎な研究分野を網羅しており、将来の科学技術の発展を担いようとする人材の育成に努めている。

各種規程

	情報科学科	情報科学科では、人類の幸福と安全な社会の実現に向けて、豊かな創造力と柔らかな思考力を持った人材の育成を目指している。目標とするのは、時代の変化に適切に高度な実力を有し、同時に倫理観と社会的責任感を持った人材の育成である。そのために、情報に関する基礎理論から応用まで幅広く学ばせることで、基礎、実践の両面での実力を養成する。また、他分野との境界領域にもまたがる横断的な教育を重視する。教員の個別指導の下で、問題発見能力と問題解決能力を養成し、国際性豊かで創造性に富んだ幅広い視野を持つ情報科学の専門家の育成を行う。研究面においては、ユニークで他に誇れる研究成果を挙げることを目指している。
	数学科	数学科では、現代数学の基礎から積み上げた堅実な知識を背景に、自然と社会と人間に関する理解と数理解科学教養を兼ね備えた人材を育成し、社会に輩出することを目指している。数学は、様々な学問分野の基礎であるだけでなく、社会の多様な現場で重要な役割を果たし、文明の基幹構造となっている。本学科の任務は、次代を背負う数学研究者、社会の広汎なニーズに応じて様々な現象と数学の間に架橋する力を持った数理解科学研究者、専門職業人の育成のほかに、長い歴史の中で発展してきた数学を次世代に継承する優れた中学・高校教員を養成することにある。これらの使命を果たすため、本学科は、大学院（数学専攻）との一貫教育を前提として、代数学・幾何学・解析学という伝統的な数学の修得を基本にしつつ、現代社会において情報科学の素養を持つ人材が求められている現状を踏まえ、情報科学の本質を学ぶことも視野に入れた数理解科学教育を展開するものである。
	物理学科	物理学科では、「物理学の研究・教育を通して論理的思考ができる人物を育てる」ということを教育の目的としている。物理学は、自然の振る舞いを支配する法則を帰納的に突き止め、その根本原理に基づいて現象を演繹的に理解しようとする学問である。本学科では、この物理学のものの考え方を身につけ、いかなる場合にも対処できる社会人の養成を目指している。課題を論理的に順序立てて考える力は、理系分野に限らず、どのような分野に進んでも常に基本に立ち返って思考する力として武器となり自信を持って社会で活躍できるはずである。物理学での思考過程や論理を適切に身に付けさせるために、基礎学力を重視し、講義科目での内容を演習や実験で繰り返すことにより実践的に学ばせる。
農学部	農学科	農学科は、「食糧」と「環境」を中心に、自然と調和を保った高度文明社会を実現させるために格段の貢献をすることを使命とする。本学科は、農養教育に裏付けされた知的基盤の上に確固とした倫理観・世界観を築いて情熱的・長期的視点から物事を洞察することができるように、また、農養全般に対する強い問題意識を持ち、それらを解決する能力を効果的に身につけられるよう、系統的かつ幅広いカリキュラムと研究領域とを設け、中心的課題である新規農業資源の開発や水・土地資源を生かした食糧の安定生産及び農村や都市の環境保全・創生に関する最新の科学・技術を身につけるとともに、持続的共生社会の構築に向けて地域・国際社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。
	食料環境政策学科	食料環境政策学科は、理系学部における文系学科として、食料と環境について、政策的視点を重視し、多様な社会科学の側面から体系的・総合的な教育研究を行う学科である。本学科の教育は「食と農」及び「環境と資源」を対象に、地域的な視点と国際的な視点をあわせ持つ幅広い視野に立って、多様な社会科学の知識を深めることを目指す。また、学生が現場の実態に触れることにより、そこから学ぶことを重視する。そのゆえに、本学科は、主体的に食料と環境にかかわる問題や課題を発見し、現実を把握し、その背後にある仕組みを体系的に理解し、理由や原因を解明し、さらに問題解決のための方策を考え、実践的に対処できる能力を持つ人材の育成を目的とする。
	農芸化学科	農芸化学科は、生物機能を応用したバイオテクノロジーと最新のサイエンスを融合した手法を用い、人間生活にかかわる食品・環境分野で社会に貢献するための教育研究を行う学科である。具体的には、 ・ 食品成分の構造・機能を解明し、より良い食品を創出するための教育研究 ・ 生活環境や農業現場の資源である土壌を化学的に分析・評価し、保全するための教育研究 ・ 微生物等を利用した環境浄化・環境負荷低減の技術等を開発するための教育研究 ・ 生物と化学物質の反応・構造・システムを解明するための教育研究 等を行う。本学科は、以上の教育研究を通じて、農芸化学分野に関する事柄を的確に評価判断するために、必要な幅広い専門知識と確かな実験技術を習得させ、人間生活に密着したバイオサイエンスに関しての専門性を有する人材を育成する。さらに、チャレンジ精神と高いコミュニケーション能力も兼ね備え、将来社会に貢献し社会をリードできる素養を身につけた人材を養成することを目的とする。
	生命科学科	近・現代における生産活動と社会の発展は、先進国における豊かな社会や快適な人間生活の実現に貢献した反面、地球温暖化など多くの環境問題や資源の枯渇が危惧される状況も作り出している。一方では、発展途上国を中心とした人口増加により、深刻な食糧危機が懸念されている。生命科学科は、生命活動を分子レベルで理解することを基盤として、動植物・微生物をこのような人類の直面する様々な問題の解決に活用する方策を考えることを目指す。このため、本学科では動植物・微生物と人間生活にかかわる生理・生化学的、分子生物学的研究を行うとともに、これらの生物を活用するためのバイオテクノロジーにかかわる研究開発を行う。また、将来、このような分野で専門家として活躍する人材や、生命科学の素養と同時に広い視野と総合的な判断力を持った人材を育成することを目的とする。
	経営学科	経営学科は、不確実な経営環境のなかでも企業経営の方向性を定めることができる、未来を読み解く力を持った人材の育成を目標とする。21世紀の企業経営を取り巻く経営環境は、急速かつ大々く変化しつつある。その中において、今日の企業経営には、企業環境の変化を予測し、企業の方向を見定めることができるリーダーシップや戦略的思考、マネジメント・システムの不断の革新、ローカルからグローバルまでの幅広い視点、未来の企業経営のあり方の開拓、起業への挑戦、社会的責任を自覚した企業経営等が強く求められている。経営学科は、その教育と研究を通して、これらの多様な要請に応じることのできる幅の広い人材を養成する。
経営学部	会計学科	会計学科は、組織における会計・財務を理解し、経営に活用できる専門的能力を持った人材の育成を目標とする。具体的には、公認会計士、税理士、国税専門官といった高度な職業会計人、企業等財務・会計の専門担当者として活躍する人材を養成・輩出する。21世紀に入り、さらに加速する企業活動のグローバル化・情報化という多様な環境変化に対応するため、国際会計や会計情報作成・提供システムの重要性が指摘されており、国内はもとより世界に通用する経営・会計人材を養成する。
	公共経営学科	公共経営学科は、行政組織や公共サービスを担う民間の営利・非営利組織のマネジメントの専門家の育成を目標とする。公共経営学科は、企業や非営利組織を含む多様な主体が相互に協働して社会課題の解決と公共サービス供給の役割を担う新しい時代に対応すべく、行政組織のみならず公共サービスを担う企業や非営利組織（NPO）の経営活動とそれらの連携活動など、広い範囲を対象領域とする学科である。特にNPOのマネジメントを幅広く扱うことにより、健康・福祉の推進、環境保護、地域活性化、国際協力の推進、そしてスポーツ施設や文化施設、学校、病院、協同組合などの組織のマネジメントを専門的に担える人材を養成する。また、行政体の公共マネジメントや企業における社会的責任を重視した活動について理解を深めることを通じて、NPOやNGO、行政体、企業の協働を積極的に推進できる人材を養成する。
情報コミュニケーション学部	情報コミュニケーション学科	情報コミュニケーション学科は、来るべき高度情報社会における人間と社会のあり方を「情報コミュニケーション」という視点から究明することを旨として設立された。この創設理念は、研究面においては、情報社会的的確な現状分析と諸課題の洗い出し、さらには解決のための努力を学際的に実践するために「情報コミュニケーション学」という新しいディシプリンの提案創設に向けて生かされている。教育面においては、情報社会時代における新しい教養教育の実践を旗印に、情報とコミュニケーションが社会において果たす役割の重要性を認識させ、また同時に、情報を取捨選択・再構成し、発信する情報の創造的編集能力の陶冶、感情表出や身体表現も含めた多様なコミュニケーション能力に基づいた共同性の構築能力を涵養し、社会の変革に主体的・能動的に貢献できる人材を養成することを目標としている。
国際日本学部	国際日本学科	国際日本学科は、明治大学の「『個』を強くする」人材育成・教育理念に基づき、個人としての競争力を身につけた国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。本学科の教育・研究は日本学を中心領域としている。ただし、それは伝統的な日本文化に加え、今日世界の注目を集めている現代日本文化、そしてその発信基盤である企業、産業・社会などの社会システムの教育・研究も含んでいる。さらに、国際的な発信力を強化するため、集中的な英語教育と異文化コミュニケーション教育にも力を注ぎ、「世界の中の日本」を自覚し、積極的に世界に価値ある情報を発信できる国際人を育成していく。また、こうした教育・研究活動を通して双方向の留学生交流と国際学術交流を促進し、世界に開かれた真の国際的教育的拠点になることを目指す。
	現象数理解科学科	現象数理解科学科は、世界を牽引する数理解科学の教育研究拠点として、生命現象や経済活動などの自然や社会における複雑な現象を解明する現象数理解科学の教育と研究を行う。数理解科学の理論・応用及びコンピュータの密接な連携教育の下で、「現象から数理解科学的問題を抽出する力」「数理解科学を自然や社会の問題解決に活用する力」及び「21世紀の新たな数学を創造する力」を培い、数学と社会をつなぐ架け橋となる人材を養成する。様々なフィールドで数学の力を生かし、数理解科学の探究に挑戦し続けることのできる人材を輩出し、社会に貢献する新たな教育研究を展開する。
総合数理解科学部	先端メディアサイエンス学科	先端メディアサイエンス学科は、数理解科学に根ざしたアプローチから情報技術を用いて、人に満足感や面白さをも与える先端メディア及びコンピュータシステムに関する教育と研究を行う。物質的豊かさや効率性のみならず、人に精神的豊かさをもたらす先端メディア技術の実現を目指した教育と研究を通じて、情報技術産業に高い付加価値を与えることのできる人材を養成する。人の感性や心理を表す数理解モデルの構築と、それらを考慮した情報メディアシステム、ヒューマンインタフェース及び文化的コンテンツをデザインし、実現する人材を輩出し、産業の活性化と社会・文化の発展に寄与するとともに、人の心を動かす新しい情報学的世界的な教育研究拠点を目標とする。
	ネットワークデザイン学科	ネットワークデザイン学科は、持続可能な社会の実現に向けて、その基盤を支える高度かつ柔軟なネットワークシステムの立案と構築に関わる教育と研究を行う。数理解科学の理論及び応用に基づき、数学の本質を捉えモデル化する力と、適応的なネットワークシステムを支える基礎工学知識の修得を通じて、物事の本質を発見できる洞察力と現実的な問題解決力を備えた人材を養成する。変化する社会ニーズを的確に捉えたネットワークシステムを創出できる人材を輩出し、安全で安心な社会基盤の構築に資するとともに、次代を担う教育研究の拠点を目標とする。

2018年4月現在

学費の減免に関する規則

(趣旨)

第1条 明治大学の学部及び大学院(法科大学院及び専門職大学院を含む。以下これらを「本大学」という。)並びに明治大学付属明治高等学校及び明治大学付属明治中学校(以下これらを「付属校」という。)における学費の減免については、この規則の定めるところによる。

(定義)

第2条 この規則において「学費」とは、本大学及び付属校(以下「設置学校」という。)の入学金、授業料、専攻指導料、臨床指導料、教育充実料、実験実習料、実習料、休学在籍料、資格課程履修料、科目等履修生履修料、研究指導料、聴講料及び特別聴講料のうち、当該学生・生徒、科目等履修生、聴講生、研究生又は特別聴講学生に係るものをいう。

(休学者の学費の減免)

第3条 本大学の学生が休学するときは、休学在籍料を納入するものとし、休学期間に係るその他の学費(入学金を除く。)は免除する。

2 付属校の生徒が学期を通して休学するときは、当該学期に係る休学在籍料を納入するものとし、当該学期に係るその他の学費(入学金を除く。)は免除する。

(原級者が秋学期授業科目のみを履修する場合の学費の減免)

第4条 本大学の学部(以下「学部」という。)の学生で、卒業単位の不足により原級した者が、当該年度の秋学期授業科目のみを履修する場合に係る学費については、当該年度の学費の2分の1に相当する額とする。

(再入学者の入学金の減免)

第5条 在学する当該設置学校を退学(懲戒による退学を除く。)後、再入学を許可された者に係る入学金については、当該年度の入学金の2分の1に相当する額とする。

(学位論文等提出のための再入学者の学費の減免)

第6条 前条の規定にかかわらず、本大学大学院(以下「大学院」という。)の博士前期課程、修士課程又は専門職学位課程(以下「博士前期課程等」という。)において、修了に必要な単位を修得して退学した者で学位論文(成果報告書又はこれに準ずるものを含む。)の提出のために再入学を許可されたものに係る入学金は、免除する。

2 明治大学大学院学則第48条第2項の規定により、再入学を許可された者に係る授業料については、100,000円とし、その他の学費は免除する。ただし、提出した学位論文の審査が当該年度に終了せず、次年度に及ぶときは、次年度の学費を免除することがある。

(内部編入学者等の入学金の減免)

第7条 明治大学学則第27条の規定により、編入学(明治大学短期大学を卒業した者の編入学を含む。)を許可された者に係る入学金については、当該年度の入学金の2分の1に相当する額とする。

2 転科、転専攻又はコース変更(大学院のみ)を許可された者に係る入学金は、免除する。

(科目等履修生の入学金の減免)

第8条 科目等履修生として入学を許可された者で、学部若しくは明治大学短期大学を卒業し、又は大学院の博士前期課程等若しくは博士後期課程を修了した者に係る入学金については、当該年度の入学金の2分の1に相当する額とする。

2 前項の規定にかかわらず、前年度に引き続き科目等履修生として入学を許可された者に係る入学金は、免除する。

(聴講生の入学金の減免)

第9条 前条の規定は、聴講生として入学を許可された者に係る入学金について準用する。この場合において、同条中「科目等履修生」とあるのは、「聴講生」と読み替えるものとする。

(研究生の入学金の減免)

第10条 第8条の規定は、研究生として入学を許可された者に係る入学金について準用する。この場合において、同条中「科目等履修生」とあるのは、「研究生」と読み替えるものとする。

2 研究生として入学を許可された年度における在学期間が6か月以下である者に係る学費については、当該年度の学費（入学金を除く。）の2分の1に相当する額とする。

(大学院の入学金の減免)

第11条 大学院に入学を許可された者で次の各号のいずれかに該当するものに係る入学金については、当該年度の学費の2分の1に相当する額とする。

(1) 学部を卒業した後、博士前期課程等又は博士後期課程に入学する者

(2) 学部から明治大学大学院学則第40条第1項第9号、明治大学法科大学院学則第28条第9号又は明治大学専門職大学院学則第39条第9号の規定により博士前期課程等に入学する者

(3) 博士前期課程等を修了した後、他の研究科の博士前期課程等に入学する者

2 博士前期課程等を修了した者で博士後期課程に入学を許可されたものに係る入学金は、免除する。

(大学院留籍者の学費の減免)

第12条 大学院において、標準修業年限を超えて在学する者（以下「留籍者」という。）に係る学費については、次のとおりとする。

(1) 博士前期課程等の修了に必要な単位数に不足する単位数が8単位以下の留籍者又は学位論文未提出等による留籍者は、当該年度の学費の2分の1に相当する額とする。ただし、実験実習料は全額とする。

(2) 博士後期課程の留籍者は、当該年度の学費の5分の1に相当する額とする。ただし、実験実習料は全額とする。

2 前項の規定にかかわらず、留籍者（同項各号の要件に該当する者に限る。次項において同じ。）が春学期で修了する場合における学費については、当該各号により算出した学費（実験実習料を含む。）の2分の1に相当する額とする。

3 前項の規定は、春学期中に退学する留籍者及び秋学期から留籍者となる者に係る当該学期の学費について準用する。

(理事会への委任)

第13条 次に掲げる学生・生徒及び入学志願者に係る学費及び検定料の減免については、理事会に委任する。

(1) 天災により被災し、又は事故による被害を受けた場合

(2) その他特別の事情がある場合

附則以下省略

(2017年12月現在)

学費等の納入に関する規程

(趣旨)

第1条 明治大学の学部及び大学院（法科大学院及び専門職大学院を含む。以下これらを「大学」という。）並びに明治大学付属明治高等学校及び明治大学付属明治中学校（以下これらを「付属校」という。）の学費、検定料及び諸会費に係る納入等については、大学及び付属校（以下「設置学校」という。）の学則、校則その他に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 学費 学費の減免に関する規則（2003年度規則第6号。以下「学費減免規則」という。）第2条に規定する学費をいう。
- (2) 検定料 設置学校の入学、再入学、編入学、転入学、転科、転専攻又はコース変更（大学院のみ）（以下「入学等」という。）にかかわる検定料のうち、その志願者に係るものをいう。
- (3) 諸会費 法人が徴収の委託を受けた生徒会費、父母会費、校友会費等の費用のうち、その学生・生徒に係るものをいう。

(適用する学費)

第3条 学費については、当該設置学校の学則又は校則に定める当該年度の学費（以下「当該年度の学費」という。）を適用する。ただし、学費減免規則の定めるところにより、学費の減免の適用を受けている者については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者に係る学費については、当該各号に定めるところによるものとする。

- (1) 国費外国人留学生 法人と文部科学省との間で締結する国費外国人留学生教育委託契約書
- (2) 大学間学生交流協定に基づく交換留学生及び大学間複数学位協定に基づく外国人留学生 明治大学と当該協定校との間で締結する協定書
- (3) 他の大学院との交流のために大学院に受け入れる学生 大学院と当該他の大学院との間で締結する協定書
- (4) 特別聴講学生 明治大学と当該他の大学との間で締結する協定書

(検定料)

第4条 検定料については、志願者が入学等をしようとする当該設置学校の学則又は校則に定める当該年度の検定料を適用する。

2 前項の規定にかかわらず、明治大学難民高等教育プログラムによる入学試験に係る検定料については、明治大学と国連難民高等弁務官事務所との間で締結する協定書に定めるところによるものとする。

3 検定料は、出願の都度納入しなければならない。

4 前条第2項の規定は、検定料の適用について準用する。この場合において、同項中「学費」とあるのは「検定料」と読み替えるものとする。

(学費の納期等)

第5条 学費は、別表に定める期日までに納入しなければならない。ただし、次条第1項の規定により、学費の延納を許可された者は、この限りでない。

2 大学の学費は、当該年度の学費を半期に分けて納入する。ただし、次の各号に掲げる者については、当該各号に定める方法により減免された当該年度の学費を納入するものとする。

- (1) 学費減免規則第12条第1項の規定により学費の減免を受ける者 半期に分けて納入する。
- (2) 学費減免規則第4条、第6条第2項並びに第12条第2項及び第3項の規定により学費の減免を受ける者 指定された期日までに一括して納入する。

- 3 付属校の学費は、当該年度の学費を学期に分けて納入する。
- 4 学費の納入額の割合は、別表に定めるとおりとする。

(学費の延納)

第6条 学費を前条に定める期日までに納入できない者で相当の理由があると認められるものに対しては、所定の手続を経て、その延納を許可することがある。

- 2 学費の延納を願い出ようとする者は、所定の学費延納願を所属事務室（所属する学部又は設置学校の事務室をいう。）に提出し、当該所属事務長の許可を得なければならない。次項ただし書の規定による学費の再延納を願い出する場合も、同様とする。
- 3 学費の延納を許可された者に係る納期は、次のとおりとする。ただし、家計の急変その他特別な理由がある場合は、その再延納を許可することがある。

(1) 大学

- ア 春学期 春学期試験開始日の前日まで
- イ 秋学期 秋学期試験開始日の前日まで

(2) 付属校

- ア 1学期 第1学期末考査開始日の前日まで
- イ 2学期 第2学期末考査開始日の前日まで
- ウ 3学期 第3学期末考査開始日の前日まで

(入学等をする者に係る学費の取扱い)

第7条 前2条の規定にかかわらず、入学等をする者に係る学費の納期及び延納の取扱いについては、入学等をする当該設置学校の定める手続要項によるものとする。

(納入後の学費及び検定料の取扱い)

第8条 いったん納入した学費及び検定料は、返還しない。ただし、入学等に係る学費を納入した者が、入学を辞退するため、所定の期日までに手続を行った場合は、入学金を除く学費を返還する。

(学費滞納者の学費の取扱い等)

第9条 学費を滞納し、その納入の催告を受けた者は、指定された期日までに、これを納入しなければならない。

- 2 前項の催告を受けても、なお指定された期日までに学費を納入しない者は、当該者が在学する当該設置学校の学則又は校則の定めるところにより除籍する。

(学費滞納による除籍者の除籍取消し)

第10条 前条第2項の規定により除籍された者が、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める期日までに、滞納した学期分の学費及び除籍取消日に係る学期分の学費を納入し、除籍取消しを願い出た場合は、これを許可する。

(1) 大学

- ア 春学期分の滞納により除籍された者 当該年度の12月20日
- イ 秋学期分の滞納により除籍された者 次年度の6月20日

(2) 付属校

- ア 1学期分の滞納により除籍された者 当該年度の9月30日
- イ 2学期分の滞納により除籍された者 当該年度の1月31日
- ウ 3学期分の滞納により除籍された者 次年度の4月30日

(退学者の学費の取扱い)

第11条 退学を願い出ようとする者は、願い出の日に係る学期の学費を納入していなければならない。ただ

し、特別の理由があると認められるときは、この限りでない。

(休学者の学費の取扱い)

第12条 前条本文の規定は、休学を願い出ようとする者の学費の取扱いについて準用する。

(諸会費)

第13条 諸会費の適用等については、当該会費の徴収を法人に委託する団体の定めるところによる。

2 諸会費は、第5条に定める学費の納期までに、学費とともに納入しなければならない。

附則省略

(2017年12月現在)

別表（第5条関係）

所 属	区 分	納 期	学 費 分 納 額	諸会費
学 部 大 学 院	春学期	4月30日	授 専 臨 教 実 実 の各2分の1に相当する額	諸 会 費
	秋学期	10月20日	攻 床 育 験 充 実 習 の各2分の1に相当する額	
高 等 学 校 中 学 校	1 学期	4月30日	授 教 の各12分の5に相当する額	諸 会 費
	2 学期	9月30日	授 教 の各12分の4に相当する額	
	3 学期	1月31日	授 教 の各12分の3に相当する額	

備考 休学在籍料は、上記区分に応じた当該納期までに、その全額を納入するものとする。

学費等一覧

5. 学費等一覧

〈2018年度（1年次）の学費等〉

（単位：円）

学部・学科 科目		法学部	商学部	政治経済学部 経営学部 情報コミュニケーション学部	文学部	国際日本学部	理工学部		農学部		総合数理学部	
							数学科を除く 数学科	数学科	農学 農芸化学 生命科学	食料 環境 政策	現象 数理科	先端 メディア サイエンス ネットワーク デザイン
学費	入学金	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	授業料	861,000	861,000	861,000	821,000	1,043,000	1,174,000	1,174,000	1,174,000	1,065,000	1,174,000	1,174,000
	専攻指導料	—	—	—	45,000	—	—	—	—	—	—	—
	教育充実料	208,000	208,000	208,000	208,000	208,000	312,000	312,000	312,000	307,000	312,000	312,000
	実験実習料	—	—	—	—	—	90,000	70,000	80,000	40,000	50,000	90,000
	実習料	8,000	5,000	10,000	5,000	10,000	—	—	—	—	—	—
諸会費	学生健康保険互助組合費	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	父母会費	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
	法学会費	1,300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計（年額）		1,293,300	1,289,000	1,294,000	1,294,000	1,476,000	1,791,000	1,771,000	1,781,000	1,627,000	1,751,000	1,791,000
春学期（入学諸費用）		754,800	752,000	754,500	754,500	845,500	1,003,000	993,000	998,000	921,000	983,000	1,003,000
秋学期		538,500	537,000	539,500	539,500	630,500	788,000	778,000	783,000	706,000	768,000	788,000

1. 学費の納入は、半期ごとの分納になります。入学諸費用は、入学金と学費（入学金以外）の1/2と諸会費です。

納入区分	納入の割合	納入期限
春学期	入学金+学費（入学金以外）の1/2+諸会費	入学手続時 次年度以降は4月30日
秋学期	学費（入学金以外）の1/2	10月20日

2. 入学後、特定の科目を履修する場合は、別途に履修料を徴収します。
（教職・社会教育主事・学芸員・司書・司書教諭の各関係科目等）
3. 校友会費（終身会費30,000円）は、2年次以降年額10,000円ずつ徴収します。
4. 次年度以降の学費等は次のとおりです。

〈2019年度（2年次）の学費等〉

（単位：円）

学部・学科 科目		法学部	商学部	政治経済学部 経営学部 情報コミュニケーション学部	文学部	国際日本学部	理工学部		農学部		総合数理学部	
							数学科を除く 数学科	数学科	農学 農芸化学 生命科学	食料 環境 政策	現象 数理科	先端 メディア サイエンス ネットワーク デザイン
学費	授業料	866,000	866,000	866,000	826,000	1,048,000	1,179,000	1,179,000	1,179,000	1,070,000	1,179,000	1,179,000
	専攻指導料	—	—	—	45,000	—	—	—	—	—	—	—
	教育充実料	208,000	208,000	208,000	208,000	208,000	312,000	312,000	312,000	307,000	312,000	312,000
	実験実習料	—	—	—	—	—	90,000	70,000	80,000	40,000	50,000	90,000
	実習料	8,000	5,000	10,000	5,000	10,000	—	—	—	—	—	—
諸会費	学生健康保険互助組合費	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	父母会費	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
	校友会費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	法学会費	1,300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計（年額）		1,108,300	1,104,000	1,109,000	1,109,000	1,291,000	1,606,000	1,586,000	1,596,000	1,442,000	1,566,000	1,606,000

〈2020年度（3年次）の学費等〉

（単位：円）

科目	学部・学科	法学部	商学部	政治経済学部 経営学部 情報コミュニケーション学部	文学部	国際日本学部	理工学部		農学部		総合数理学部	
							数除科学科	数学科	農学化学科 農芸生命科学科	食料環境 政策学	現象数理 科学	先端メ ディ アサイ エンス ネット ワーク サイ ン
学費	授業料	871,000	871,000	871,000	831,000	1,053,000	1,184,000	1,184,000	1,184,000	1,075,000	1,184,000	1,184,000
	専攻指導料	—	—	—	45,000	—	—	—	—	—	—	—
	教育充実料	208,000	208,000	208,000	208,000	208,000	312,000	312,000	312,000	307,000	312,000	312,000
	実験実習料	—	—	—	—	—	90,000	70,000	80,000	40,000	50,000	90,000
	実習料	8,000	5,000	10,000	5,000	10,000	—	—	—	—	—	—
諸会費	学生健康保険互助組合費	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	父母会費	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
	校友会費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	法学会費	1,300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計（年額）		1,113,300	1,109,000	1,114,000	1,114,000	1,296,000	1,611,000	1,591,000	1,601,000	1,447,000	1,571,000	1,611,000

〈2021年度（4年次）の学費等〉

（単位：円）

科目	学部・学科	法学部	商学部	政治経済学部 経営学部 情報コミュニケーション学部	文学部	国際日本学部	理工学部		農学部		総合数理学部	
							数除科学科	数学科	農学化学科 農芸生命科学科	食料環境 政策学	現象数理 科学	先端メ ディ アサイ エンス ネット ワーク サイ ン
学費	授業料	876,000	876,000	876,000	836,000	1,058,000	1,189,000	1,189,000	1,189,000	1,080,000	1,189,000	1,189,000
	専攻指導料	—	—	—	45,000	—	—	—	—	—	—	—
	教育充実料	208,000	208,000	208,000	208,000	208,000	312,000	312,000	312,000	307,000	312,000	312,000
	実験実習料	—	—	—	—	—	90,000	70,000	80,000	40,000	50,000	90,000
	実習料	8,000	5,000	10,000	5,000	10,000	—	—	—	—	—	—
諸会費	学生健康保険互助組合費	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	父母会費	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
	校友会費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	法学会費	1,300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計（年額）		1,118,300	1,114,000	1,119,000	1,119,000	1,301,000	1,616,000	1,596,000	1,606,000	1,452,000	1,576,000	1,616,000

5. 2019年度以降の学費等は、変更される場合があります。納入額については毎年4月に大学から送付される振込用紙に同封の明細をご覧ください。

6. 学費等に消費税は課税されません。

6. 明治大学の環境保全活動への取組み

1 明治大学が行っている環境保全活動

明治大学は、全キャンパスにおいて、以下の環境保全活動を行っています。

- ・ 昼光利用や教育研究や事務執務上に支障のない部分で消灯等を行い、省エネルギー（省電力）活動を推進しています。
- ・ 省資源のため、コピー用紙・印刷用紙を大切に使っています。
- ・ 文具や什器を大切に使い、学内で可能な限り再使用しています。
- ・ 購入する文具は、できる限り環境にやさしい商品としています。
- ・ ゴミ分別を徹底し、紙類等の可燃ゴミの排出を削減するとともに、古紙回収を行い資源としてリサイクルしています。
- ・ 図書館による不要雑誌等の学生への配布により、本学から排出する廃棄物排出量の削減とともに、資源リユースを行っています。
- ・ 環境にかかわる教育と研究の推進のために、HPによる情報伝達、エコツアーの実施、公開講座の実施、環境展示会の開催、教員による環境研究の成果公開等を行っています。
- ・ 環境に配慮した建物の設計や施設設備を導入しています。
- ・ 冷暖房の温度・設定を控えめにするとともに、夏期にはクールビズを実施しています。

2 在学生の皆さんへ

在学生の皆さんは、実行可能な範囲での環境保全活動に協力してください。主には、以下の環境保全活動へのご理解とご協力をお願いします。

- (1) 教室・会議室などでは、最後に退出する人が、必ず電気を消して省エネルギーに協力しましょう。
- (2) 資源リサイクルのため、ゴミは分別の表示に従って捨てましょう。
- (3) 各学部の環境関係講座、環境展示会、エコツアー等に参加するなど、環境保全への意識を心がけましょう。
- (4) その他、キャンパスライフの各場面で省エネルギー、省資源、節水を心がけてください。

3 学校法人明治大学環境方針

◎環境方針とは、2002年11月に制定され、現在も継続している本学全体の環境保全活動における原則となるものです。

学校法人明治大学環境方針

1 基本理念

21世紀を迎えた我々が直面している環境問題は、地球温暖化、生態系の破壊、エネルギー問題、大気汚染、廃棄物問題、化学物質による汚染など空間的にも時間的にも大きな広がりをもっており、単に一部の地域・民族にとどまるものではなく、地球全体・人類全体にとって緊急かつ恒常的に取り組むべき最重要課題となっている。

明治大学は、教育研究機関の社会的使命として、この環境問題に対し、高い関心をもち、知的、道徳的及び実践的能力を備えた問題解決能力のある人材を育成・輩出することにより、環境改善の啓発活動を積極的に展開し、かつ自らも環境保全活動を実践し、社会において指導的な役割を果たしていく。

そのために、明治大学は、環境問題に主体的に取り組む、「環境に優しいキャンパスづくり」を目指し、常にこの環境問題を視野に入れた教育研究、その他事業等活動を推進し、省エネルギー・省資源・3R (Reduce, Reuse, Recycle) などにより自らの環境負荷低減に努めるとともに、最先端の教育・研究、技術及び設備の活用並びに環境保全に資する研究成果の社会への還元によって環境の保全に積極的に努力していく。

明治大学は歴史と伝統に基づき、「都心型大学」としての英知を結集し、情報発信基地として、明治大学を構成する教職員、学生及び取引先関係会社の職員が協力して、次の活動を積極的に推進する。

2 基本方針

- (1) 教育研究活動その他事業活動を推進するに当たり、環境関連の法律・規則・協定、当大学の校規等を遵守する。
- (2) 環境目的及び目標を可能な限り具体的・定量的に設定して、明治大学環境マネジメントシステム (MEMS : Meiji Environmental Management System) を構築・運用し、適切な内部環境監査を実施して、その継続的な改善を図る。
- (3) 環境に配慮した事業活動を行い、省エネルギー、省資源、3R及び化学物質の管理並びに生物多様性への配慮を積極的に進め、環境負荷の低減に努める。
- (4) 環境にかかわる教育研究活動、公開講座の開催等を展開し、環境保全にかかわる意識の高揚・普及を図る。
- (5) 環境方針を当大学の教職員、学生・生徒、取引先関係会社の職員等に周知するとともに、学外に対しても文書、当大学のホームページ (<http://www.meiji.ac.jp/>) 等を通して積極的に公開し、理解と協力を求めていく。

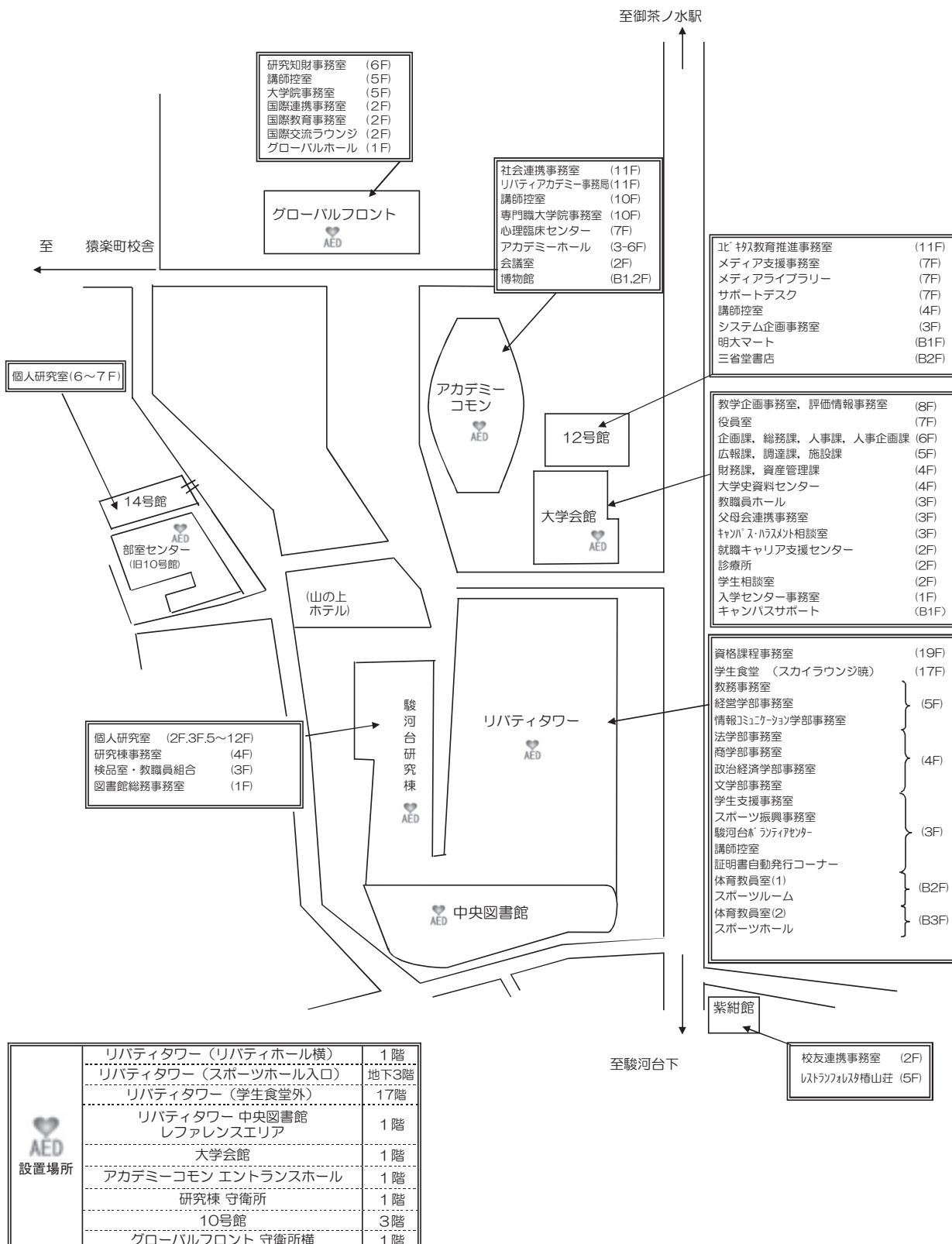
2016年 5月10日
 学校法人明治大学
 理事長 柳谷 孝

◎皆さん、ひとりひとりの協力で、明治大学を環境にやさしい大学にしましょう！

明治大学環境保全推進委員会

7. キャンパス案内

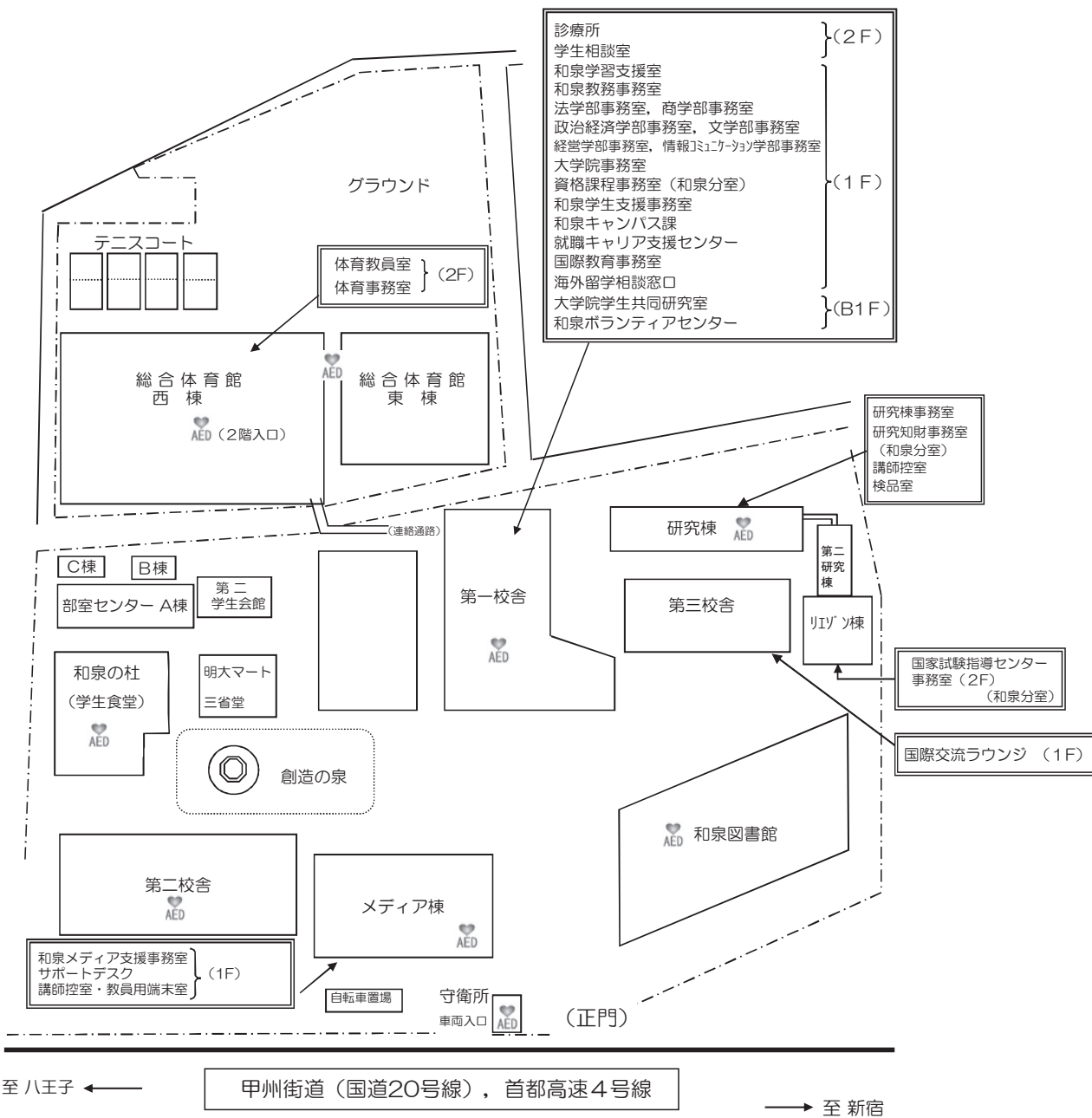
(1) 駿河台キャンパス案内図



(2) 駿河台キャンパス教室等一覧

号棟	階数	教室等	号棟	階数	教室等	
リ パ テ イ タ ワ I	B3	スポーツホール, 体育教員室(2), 男子更衣室	グローバルフロント	1F	グローバルホール, 多目的室	
	B2	スポーツルーム 体育教員室(1), 女子更衣室		2F	国際連携事務室, 国際教育事務室 4021, 国際交流ラウンジ	
	B1	1001		3F	メディアラウンジ, 403A~403N (演習室), 4031	
	1F	明大通り口, ラウンジマロニエ 1011~1013 (リパティホール) 中央図書館 (~B3F)		4F	404A~404S (演習室)	
	2F	吉郎坂口, インフォメーションスクエア ラウンジアビー, ラウンジパープル 1021, 1022		5F	大学院事務室, 講師控室, C1会議室, C2会議室	
	3F	1031, 1032 講師控室, 証明書自動発行機コーナー 学生支援事務室, スポーツ振興事務室 駿河台ボランティアセンター		6F	研究知財事務室	
	4F	法学部事務室, 商学部事務室 政治経済学部事務室, 文学部事務室 第一会議室		7F	C3会議室, C4会議室	
	5F	教務事務室 経営学部事務室, 情報コミュニケーション学部事務室 第二会議室 第三会議室		10F	410A~410E, 410N, 410P, 410F	
	6F	1061~1065 第四会議室・第五会議室		11F	411A~411K	
	7F	1071~1076		12F	412A~412H	
	8F	1081~1089		13F	413A~413G	
	9F	1091~1098		14F	414A~414K	
	10F	1101~1108		15F	415A~415L	
	11F	1111~1118		17F	グローバルラウンジ, C5会議室, C6会議室	
	12F	1121~1128		大学会館	1F	入学センター
	13F	1131~1138			2F	就職キャリア支援センター, 診療所, 学生相談室
	14F	1141~1148			3F	キャンパス・ハラスメント相談室 教職員ホール, 第一会議室, 第二会議室
	15F	1151~1158	4F		財務課, 資産管理課	
	16F	1161~1168	6F		人事課, 健康保険組合	
	17F	学生食堂 (スカイラウンジ隣)	8F		第三会議室, 第四会議室	
	19F	資格課程事務室	1号館		3F	システム企画事務室
	21F	1211~1214			4F	12号館講師控室, 2041メディアゼミ室
	23F	岸本辰雄ホール, サロン燦 宮城浩蔵ホール, 矢代操ホール		5F	2052メディア教室, 2053メディア教室 2054教室 (NEL)	
アカデミーコン ベン	B2F	博物館		6F	2061教室, 2062教室, 2063メディア教室 2064メディア教室	
	B1F	博物館, 大学史展示室, 阿久悠記念館		7F	サポートデスク, メディアライブラリー メディア支援事務室, 教員用端末室	
	2F	A1~A6会議室		8F	メディア自習室1, メディア自習室2	
	3F	アカデミーホール		9F	2091教室, メディア支援会議室 2093メディアゼミ室, 2094メディア教室	
	6F			10F	2101~2103	
	7F	心理臨床センター		11F	ユビキタス教育推進事務室, スタジオ, 編集室	
	8F	308A~308G, A7会議室, A8会議室		12F	2121教室, 2122CALL教室 2123メディア教室, 2124メディア教室	
	9F	309A~309J, A9会議室		14号館	6F	14号館研究室事務室, 14号館研究室会議室A
	10F	専門職大学院事務室, 講師控室 310A~310L			研究棟	1F
	11F	社会連携事務室, リパティアカデミー事務局 311A~311J	2F	面談室, 第8・第9会議室		
	第一校舎		3F	検品室, 第10会議室, 教職員組合		
4F			研究棟事務室, 第1~7会議室			
1F			国家試験指導センター事務室 (法制研究所・経理研究所・行政研究所)			
2F			経理研究所 (自習室・教室) 行政研究所 (自習室・教室)			
第二校舎		3F	法制研究所 (自習室・教室)			
		4F	法制研究所 (自習室・ゼミ室)			
第三校舎		3F	史学地理共同演習室, 考古学実習室, 地理学実習室			
		4F	心理社会実習室			
第一校舎 第二校舎 第三校舎			1F	猿楽町研究室事務室		

(3) 和泉キャンパス案内図



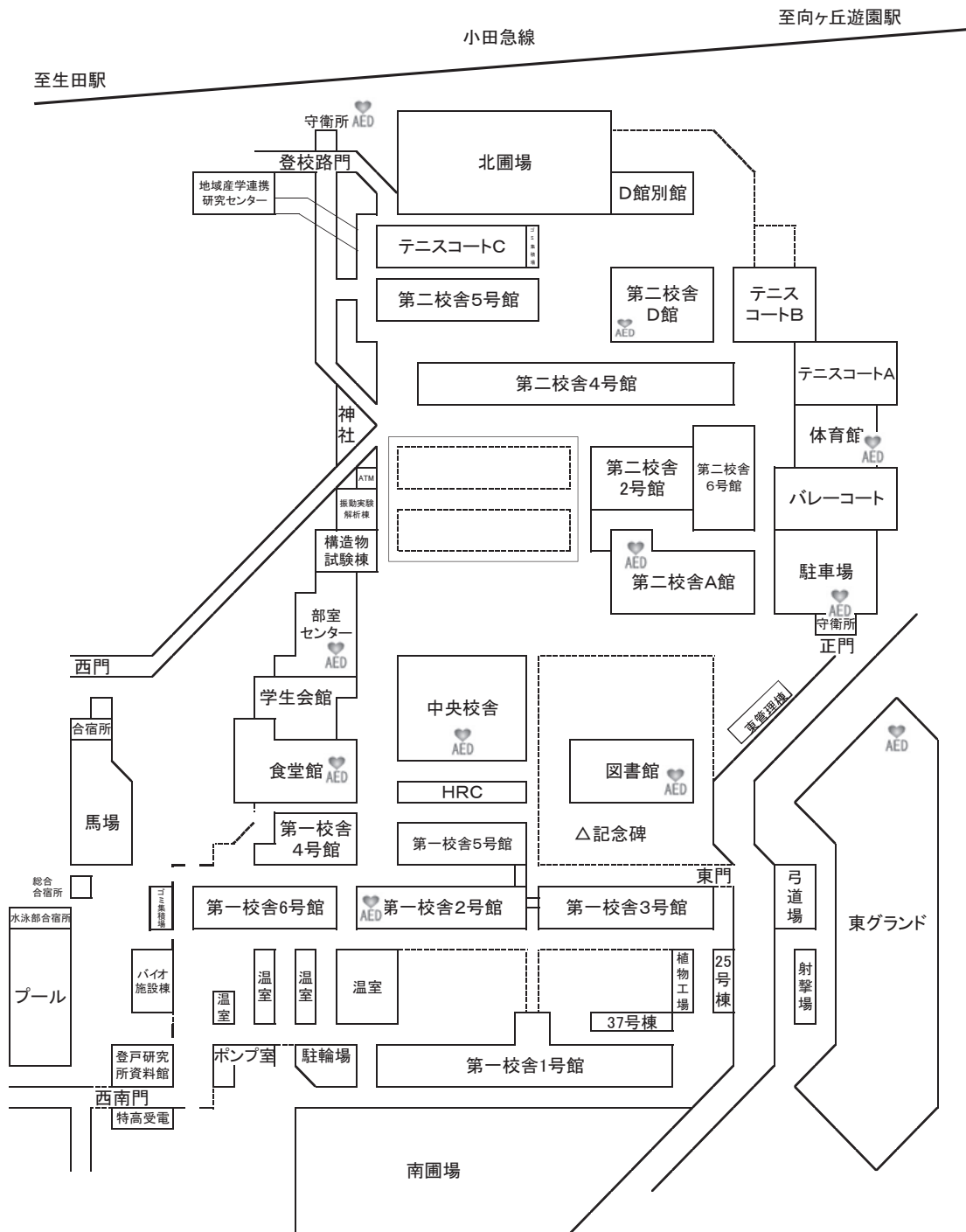
至 八王子 ← 甲州街道 (国道20号線), 首都高速4号線 → 至 新宿


設置場所	守衛所		
	設置場所	階	
AED 設置場所	和泉総合体育館 西棟	2階	
	和泉総合体育館 東棟と西棟の間の外通路	1階	
	第一校舎	1階	
	第二校舎	1階	
	メディア棟	1階	
	和泉図書館	1階	
	和泉の杜 (学生食堂)	1階	
	研究棟事務局	1階	

(4) 和泉キャンパス教室等一覧

号棟	階数	教室等	号棟	階数	教室等	
第一校舎	B1	001~008 和泉ボランティアセンター, 大学院学生共同研究室	リエゾン棟	1F	L1~L6	
		1F		和泉教務事務室, 法学部事務室 商学部事務室, 政治経済学部事務室 文学部事務室, 経営学部事務室 情報コミュニケーション学部事務室 大学院事務室 資格課程事務室(和泉分室) 和泉学生支援事務室, 和泉キャンパス課 国際教育事務室, 海外留学相談窓口 就職キャリア支援センター, 和泉学習支援室	2F	国家試験指導センター(法制・経理・行政研究所事務室, 自習室, ゼミ室)
	2F			L8, L9ホール, AVスタジオ, 国家試験指導センター共通自習室		
	西棟		1F	プール, スポーツルームB(剣道場) スポーツルームC(柔道場), クライミングウォール 相撲場, ウェイトリフティング場		
				2F	体育事務室, 体育教員室 講義室, 会議室 スポーツルームA(卓球場), フィットネスルーム	
			3F	メインホール, サブホール		
		4F	ランニングロード			
	東棟	東側外	ゴルフレンジ			
		3F	メイジウムラウンジ			
		2F	ミーティングルーム			
		1・3・4F	スポーツルーム			
	第二校舎	1F	202~214 学生相談室, 診療所	研究棟	1F	研究棟事務室 研究知財事務室(和泉分室), 検品室
2F		301~317	図書館	1F	和泉図書館事務室	
3F		401~415	メディア棟	1F	メディアライブラリー(M101) メディアサービスカウンター 和泉メディア支援事務室(M102) 教員用端末室(M103), 講師控室(M105)	
4F	501~513	2F			メディアラボ(M201), CALL教室(M202) CALL自習室(M203), メディア自習室(M204)	
5F	第一会議室, 第二会議室, 教職員ホール	3F			M301~M306	
6F	1~3	4F			M401~M406 M407~M414(メディア教室)	
第三校舎	1F	1~6			5F	M501~M518
	2F	4~6			6F	M601~M618
	3F	7, 8			7F	M701~M720
	1F	11, 12, 15, 国際交流ラウンジ				
2F	21~24, 26					
3F	31~39					
4F	41~47					

(5) 生田キャンパス案内図

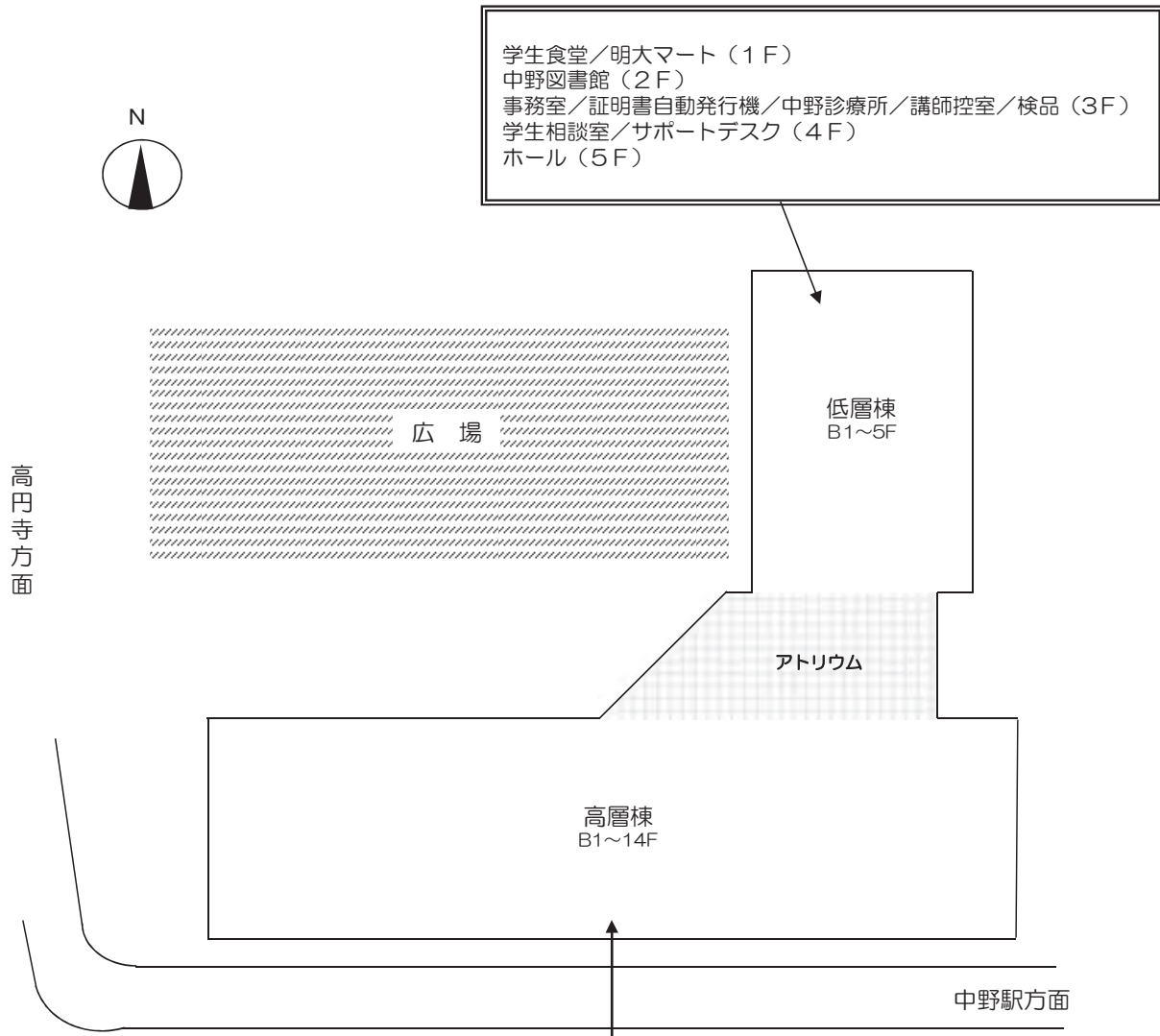


 設置場所	正門 守衛所	-
	中央校舎 生田診療所	2階
	中央校舎 守衛所	1階
	第二校舎A館 理工学部講師控室	4階
	第二校舎D館 エントランスホール	1階
	第一校舎2号館 1階西側ロビー	1階
	明大マート(部室センター)	1階
	食堂館スクエア21	1階
	登校路守衛所	-
	生田図書館	-
	体育館	-
	東グラウンド	-


(6) 生田キャンパス教室等一覧

号棟	階数	教室等
① 中央校舎	1F	生田キャンパス課, 国際教育事務室, 資格課程事務室(生田分室), 生田学生支援事務室 理工学部事務室, 農学部事務室, 生田就職キャリア支援事務室, 共通ホール
	2F	生田診療所, 学生相談室, 生田研究知財事務室 教職員食堂, 教職員ホール, 第一会議室~第四会議室
	3F	国際交流ラウンジ 0301~0311教室, 講師控室
	4F	0401~0404演習室, 0405~0412教室 0413~0416演習室
	5F	メディアゼミ室1(0501), 研究用情報処理室(0502), 生田メディア支援事務室, 生田サポートデスク, メディア準備室(0504) 教材作成支援コーナー(0505), 教育用情報処理室(0506) 情報処理教室1(0507), 情報処理教室2(0508)
	6F	メディア教室A1(0601), メディア教室A2(0602), メディアゼミ室2(0605) メディアゼミ室3(0606), メディア教室A3(0607), メディアホール(0608) 情報処理教室3(0609), 情報処理教室4(0603), メディアスタジオ教室(0610)
② 第一校舎	1号館	120~126教室, 127・128演習室, 129A・129B教室, 135・136演習室 メディア教室A4(131), 132A・132B演習室, 133~138教室
	2号館	2-200, 2-300教室, 講師控室, 農学部学習支援室
	4号館	4-212演習室, 4-303演習室
	5号館	5-204演習室
	6号館	6-101, 6-102演習室, 6-204~208教室, 6-209演習室, 6-409演習室
③ 第二校舎	A館	基礎物理実験室(A118), 情報処理教室5~7(A201~A203), A204~A208教室 A301~A306教室, 情報処理教室8・9(A307・A308), A309~A312教室 マルチメディアルーム(A401・A402), 講師控室(A411) 特殊プレゼンホール(A417), A601, A613, A701, A811, A901, A1001, A1010演習室
	D館	基礎化学実験室1(D303), 基礎化学実験室2(D304), 基礎化学実験室3(D307) 基礎化学実験室4(D308), D305・D306, D401・D402, D410・D411 D511~D512, D610~D611演習室, 理工学部学習支援センター(D206)
	2号館	2001~2005, 男子更衣室
	5号館	5201, 5203~5213, 5303~5304, 5206~5213演習室
④体育館		体育教室, 体育事務室, 柔道場, 格技室(トレーニングルーム), 女子更衣室
⑤図書館		生田図書館事務室

(7) 中野キャンパス案内図



多目的室 男子・女子更衣室 交流ギャラリー リバティアカデミー ラーニング・ラウンジ 学生インフォメーション 防災センター	} (1F)	就職キャリア支援室 資格課程支援室 研究セミナー室1~3 クロスフィールドラウンジ コピーコーナー テラス	} (6F)
メディア自習室 コピーコーナー	} (2F)	先端数理学インスティテュート (MIMS) ラウンジ	(8F) (9F)
		ファカルティラウンジ	(14F)

 設置場所	高層棟 防災センター内	1階
	高層棟 クロスフィールドラウンジ自動販売機内	6階
	高層棟 東側エレベーターホール内	9階
	低層棟 図書館内	2階
	低層棟 ホール外	5階

(8) 中野キャンパス教室等案内一覧

	階数	教 室 等
高 層 棟	1F	多目的室 更衣室 交流ギャラリー リバティアカデミー ラーニング・ラウンジ 学生インフォメーション 防災センター
	2F	201～206, 208教室 メディア自習室 コピーコーナー
	3F	301～314教室
	4F	401～414教室
	5F	501～516教室
	6F	就職キャリア支援室 資格課程支援室 研究セミナー室1～3 クロスフィールドラウンジ コピーコーナー テラス
	7F	実験室 共同研究室 個人研究室 大学院理工学研究科資料室
	8F	実験室 共同研究室 個人研究室 先端数理科学インスティテュート (MIMS)
	9F	実験室 共同研究室 個人研究室 総合数理学部資料室
	10F	実験室 個人研究室
	11F	実験室 個人研究室
	12F	実験室 個人研究室
	13F	1302教室 共同研究室 個人研究室 国際日本学部資料室
	14F	1404, 1427教室 ファカルティラウンジ 共同研究室 個人研究室
低 層 棟	1F	学生食堂 明大マート
	2F	中野図書館
	3F	事務室 検品 証明書自動発行機 中野診療所 講師控室
	4F	学生相談室 サポートデスク 会議室1～4
	5F	ホール



明治大学のシンボルマーク

この大学のマークは、明治大学の「M」をモチーフとして、21世紀に向けて明治大学が「限りなく飛翔する」イメージ、シンプルなデザインによる「親しみやすさ」、斬新な切り口による「未来へのメッセージ」を伝えています。

2018年度入学	
学生番号	
クラス・番号	組 番
氏 名	